2019年度 JICA中国・四国

教師海外研修 ―ラオス―

授業実践報告書

目 次 contents

- □ 教師海外研修概要
- □ 研修国概要
- □ 海外研修日程
- □ 海外研修レポート
- □ (参考)「持続可能な開発目標(SDGs)」とは?

授業実践報告

小学校

• せかいの国と友だちになろう	小学1・2年生、保護者 学級活動・道徳・生活・社会	山口市立中央小学校 得 重 直 也	20
• せかいをしるって　おもしろい	小学1・6年 学級活動・道徳・国語・総合的な学習の時間	松山市立伊台小学校 森 優美子	30
• 他国を知るって楽しい!	小学3年生 道徳・総合的な学習の時間	丸亀市立城坤小学校 関 悠 夏	39
• What's this? 世界の国のクイズ大会	小学4年生 総合的な学習の時間(外国語活動)	高知市立はりまや橋小学校 橋 田 佳 子	51
• ラオスから世界へ	小学4年生・全校児童 総合的な学習の時間・道徳・社会・国語	熊野町立熊野第一小学校 坪 池 由美子	61
• みんな地球に生きる人	小学4・5・6年生 国語・道徳・学級活動	八頭町立郡家西小学校 谷 口 和 輝	73

中学校

• 中学生の考える、ソーシャル・アクションとは? 豊かさとは?	中学1年生 社会科(地理的分野)、人権LHR	愛光中学・高等学校 松 下 直 樹	84
• 平和な世界を築くためにできること ～ラオス原爆展との交流を通して～	中学2年生 総合的な学習の時間・道徳・英語	岡山市立操南中学校 中 川 尚 子	96
• ラオスを通じて自分の可能性を広げよう!	中学3年生 英語・道徳	広島市立二葉中学校 中 山 舞	109

高等学校

• ラオスの「今」を通して考える開発と豊かさ ～多様な価値観に触れる～	高校1年生 現代社会	広島県立芦品まなび学園高等学校 阿 部 絵理子	124
• 「開発とは何か?　ラオスの農村開発を事例にして」 ラオスの生活文化の多様性と国際理解、諸課題と国際協力	高校2年生 地理A	鳥取県立鳥取西高等学校 中 村 秀 司	135

特別支援学校

• 世界を知るっておもしろい!	高等部2年 生活単元学習・日常生活の指導	徳島県立国府支援学校 大久保 幾 代	144

教師海外研修概要

JICAの国際教育プログラム

グローバル化が進む現在、地球に暮らす私たちが自ら足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。そのため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といった取組みを多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

また、新学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」の育成がうたわれ、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童・生徒が互いの文化を理解し、尊重し合い、違いを認められるなど、新たな社会で生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との懸け橋となるべく、国内でも様々な事業を行っています。中でも、長年にわたる国際協力の知見を活用して、小・中・高校や大学、教育委員会や自治体、市民団体などと連携して展開しているのが、国際教育プログラムです。

JICAでは、国際協力出前講座、JICA施設訪問、開発教育指導者研修といったプログラムを通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。

教師海外研修とは

● ねらい

本研修は、国際教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童・生徒への教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習の手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童・生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。

主催：独立行政法人国際協力機構　中国センター（JICA中国）
　　　独立行政法人国際協力機構　四国センター（JICA四国）

後援：外務省、文部科学省
　　　鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、岡山県教育委員会、
　　　広島県教育委員会、山口県教育委員会、徳島県教育委員会、
　　　香川県教育委員会、愛媛県教育委員会、高知県教育委員会、
　　　岡山市教育委員会、広島市教育委員会

※本報告書はJICA中国・四国各ホームページからもダウンロードできます。
　ワークシートやデータなどそのままご使用いただけますので、どうぞご活用ください。

● 研修のながれ（2019年度）

募集・選考

○募集（4月～5月15日）　○書類選考、結果通知（5月下旬）　○面接選考（5月27日～6月3日）
○最終結果通知（6月7日）

派遣前研修

6月29日(土)～30日(日)　会場：岡山国際交流センター（岡山県岡山市）

○海外研修について：ラオス国事情、研修日程と訪問先解説、渡航手続きについて
○講義：「開発教育とは～授業実践を見据えて～」
山中 信幸 氏（川崎医療福祉大学 教授）
「過年度参加者による体験談」（教師海外研修過年度参加教員）

海外研修（ラオス）　8月7日(水)～17日(土)　※8月6日(火)出発前オリエンテーション（大阪）

海外研修レポート提出　8月29日(木)

帰国後研修　8月31日(土)～9月1日(日)　会場：岡山国際交流センター（岡山県岡山市）

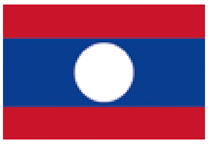
・海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。参加型手法を改めて学びながら、現地の知見をどう教材化するか考え、授業案を作成。（助言指導：山中 信幸 氏）
・中国、四国の教師海外研修過年度参加教員による講義。授業実践への事前準備、テーマ設定や児童・生徒の様子、周囲の教職員の反応や今後の課題などを共有し、参加教員の授業案作成へのアドバイスも行う。

所属校での授業実践　9月～2020年1月

授業実践報告書提出　2020年1月14日(火)

○中国：第2回国際教育研修会　2020年1月25日（土）　会場：エソール広島（広島県広島市）
講師：大谷 直史 氏（鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 教員養成センター 准教授）

○四国：授業実践報告会　2020年2月15日（土）　会場：JICA四国（香川県高松市）
2019年度国際理解教育セミナー　2020年2月16日（日）　会場：アイパル香川



研修国概要

ラオス人民民主共和国

(Lao People's Democratic Republic)

首　　都：ビエンチャン

面　　積：24万平方キロメートル（日本の約3分の2）

人　　口：約649万人（2015年、ラオス統計局）

政　　体：人民民主共和制

民　　族：ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計50民族（2018年12月にブル族を採用）

言　　語：ラオス語

宗　　教：仏教

気　　候：熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨季（5～10月）と乾季（11月～4月）がはっきりしている。
ビエンチャンの年平均気温は乾季22.1℃、雨季28℃

通　　貨：キープ（Kip）　10,000キープ＝約124円（2020年1月）

1人あたりGDP：2,472ドル（2017年、ラオス中央銀行）

主要産業：サービス業（GDPの約42%）、農業（約17%）、工業（約29%）（2017年、ラオス統計局）

主要貿易相手国：タイ、中国、ベトナム 他（2017年、ラオス工業商業省）

<日本との関係>

従来より良好な関係。1955年に外交関係を樹立し、2015年3月に60周年を迎えた。

在留邦人数：863人（2017年10月、在留届ベース）

在日ラオス人：2,785人（2018年6月、入管発表）

文化関係：日本は1976年より文化無償協力案件を実施。
文化遺産保存、スポーツ交流、人物交流等の文化交流も拡大中。

経済関係：対日輸出　約130億円…金属製品、繊維製品、乗用車、一般機械
対日輸入　約168億円…衣類、食料品、原料品、化学製品

日本からの投資：コンサルティング、縫製・部品製造業、電力 等（いずれも2017年、財務省貿易統計）

日本の援助実績（2016年度まで）：（1）有償資金協力　484.36億円
（2）無償資金協力　1,529.73億円
（3）技術協力　730.88億円

A Milestone for Our Bright Future
60th Anniversary of
Japan-Laos
Diplomatic Relations

日ラオス外交関係樹立
60周年ロゴ

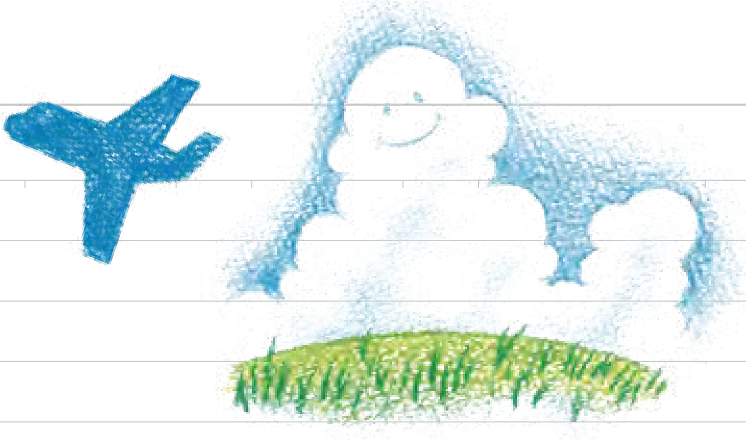
（2020年2月付　外務省ホームページ「各国・地域情勢」（ラオス）より）

教師海外研修日程

研修テーマ：SDGsの視点からラオスの課題を考える

月　日		内　　容	宿　泊
8月 6日(火)	夕方	【出発前オリエンテーション】関西空港周辺ホテルにて	大阪
8月 7日(水)	午前	関西空港を出発、空路にて乗継地のバンコクへ	ビエンチャン
	夜	ラオスの首都ビエンチャンのワッタイ国際空港に到着	
8月 8日(木)	午前	【JICAラオス事務所ブリーフィング】 •ラオスの概況とJICAの協力内容 •ラオスの教育事情について	
	午後	【視察】「COPE Visit Center」訪問 •JICA専門家による解説「ラオスにおける不発弾の現状について」 •展示見学	
8月 9日(金)	午前	【交流プログラム】「ラオス日本センター(LJI)」訪問 •日本語を学習する学生との交流、意見交換	
	午後	【JICA事業視察(技術協力)】 ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクトII訪問 •JICA専門家からの事業概要説明 •バス公社見学、バス乗車体験	
8月10日(土)	朝	空路にて南部の都市パクセへ	ドンコー村
	午前	パクセ市場見学、教材収集	
	午後	ホームステイ(メコン川の中州の村「ドンコー村」へ) •村の見学 •子どもとの交流、学校視察など	
8月11日(日)	朝	ホームステイ終了	パクセ
	午前	【無償資金協力･技術協力現場視察】 世界遺産ワットプー訪問	
	午後	パクセに戻り、ホテルへ ホテルにて研修の中間振り返り	
8月12日(月)	午前	「Champasak UXO」活動視察 •事務所訪問、ラオスにおける不発弾に関するブリーフィング •UXO Laoの寮 視察 •不発弾除去現場訪問、爆破処理を見学	
	午後	国際NGO「Village Focus International」訪問 •ラオスにおける人身取引問題に関するブリーフィング •団体の活動紹介 •シェルター視察	
8月13日(火)	午前	【青年海外協力隊活動視察】チャンパーサック県病院 •「看護師」隊員の活動視察、意見交換 •病院見学	
	午後	【青年海外協力隊活動視察】チャンパーサック教員養成校 •「公衆衛生」隊員の活動視察 •現地教職員との意見交換 •学校見学	
8月14日(水)	朝	空路にてビエンチャンへ	ビエンチャン
	午後	【JICA事業視察(技術協力)】 水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2) •事業概要説明 •Chinaimo Water treatment Plant(浄水場)視察	
	夜	青年海外協力隊員、JICA職員との夕食懇談会	
8月15日(木)	午前	•市内視察(パトゥーサイ、タートルアン訪問) •市場、教科書印刷会社にて教材収集	
	午後	【草の根技術協力･NGO視察】 「アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)」 •事業概要ブリーフィング •障害者就労支援施設見学(クッキー工房) •障害者スポーツ振興プロジェクト視察(卓球バレー体験)	
8月16日(金)	午前	最終振り返りミーティング、研修報告準備	機内
	午後	JICAラオス事務所にて研修報告	
	夕方	研修全体振り返り･授業案作成の準備	
	夜	ビエンチャンのワッタイ国際空港を出発、バンコク経由にて日本へ	
8月17日(土)	朝	関西空港到着後、解散	

海外研修レポート



8月7日(水)　松下　直樹（愛光中学・高等学校）

訪 問 先

①関西国際空港
②スワンナプーム国際空港
③ワットタイ国際空港
④マノロムブティックホテル

研修内容

空港から考える、インバウンドの増加に対して、日本が工夫すべきこととは?

所　　感

　ホテルで人数確認を終えて、関西国際空港へと向かった。皆順調に出国の手続きを終えていくなか、私は荷物検査にて、虫除けスプレーを没収されてしまった。ただ、気落ちしている暇などない。緊張からかどこをふらつくともなく足早に搭乗ゲートへ。機内に入ると、まさかの 2 階席、しかも広々。食事は、ポークカレーをチョイスした。米（恐らくタイ米）を手で食べてみたところ、粘り気が思いのほか少なく、ポロポロとこぼれ落ちそうなくらいだ。

　バンコク・スワンナプーム国際空港着。さすが世界最大級のハブ空港、雑多だ。生暖かい気温とむわっとする湿気に、熱帯を感じる。空港では、ムスリムをはじめインバウンドの増加に対して、日本が参考にすべき点を、各所に確認することができた。たとえば、空港内には、礼拝所（フロアの一室）がもちろんあって、男性が一人、靴を脱いで祈りを捧げていた。その礼拝所の近くのトイレに入ってみると、男性の小用も仕切りがしっかりとあり、性的な部位が他人の目に触れることを極度に嫌うムスリムへの配慮が感じられた。空港内のレストランをいくつか見て回ったが、日本のお弁当のようにワンプレートで食事を提供するお店が賑わっていた。その店員のなかにはヴェールを身につけた女性がおり、「ハラル認証」が額縁に入れられて掲げられていた。

　ビエンチャン・ワットタイ国際空港へ。意外に飛行機が大きい割に乗客はまばら。窓からバンコクの都市圏インフラや、遠目にタイランド湾も確認できた。軽食で出たものすべて（ピザ、ブラウニー、水にまでも）に「The Central Islamic Committee of Thailand（タイ国イスラーム中央委員会）」から認証を受けたハラルマークを確認できた。

　1時間ほどで空港に到着。2年前に日本のODAで建設されたばかりで真新しい。入口を出たところでJICAラオスの職員が笑顔で迎えてくれた。2グループに分かれミニバンに乗り込み、ホテルへ。10分程の道中で目にした、2人乗りのバイク（もちろんノンヘル）、賑わう露店、店前に路駐されたバイクや自動車、市場前のテーブルで食事をする家族…。目にするものや、臭い、音それらすべてが新鮮だ。明日からどのような学びが待っているのか、ワクワクが溢れ出してきた。

<空港内の礼拝所>

<小用トイレの仕切り>

<ハラル認証を受けたレストラン>

8月8日(木) 森　優美子（松山市立伊台小学校）

訪 問 先

①JICA ラオス事務所
②COPE Visit Center

<JICA ラオス事務所>

研修内容

①JICAラオス事務所
　ラオスの概要、JICAの協力内容、ラオスの教育分野についての説明
②COPE Visit Center
　展示見学後、不発弾の現状、処理の仕方、JICAの協力体制などの説明

所　　感

　ラオスのビエンチャンに着いて、初めての訪問先がJICA事務所だった。ここで「ラオスにおけるJICAボランティア事業の概要」「ラオスの教育事情」についての話を伺った。協力隊派遣の歴史はラオスから始まったこと、現在までに1000人を超える日本人が派遣されてきたこと、累計では、保健医療分野の派遣が最も多く、看護師、助産師の隊員が活躍していることなどが分かった。教育分野では、日本と似ているところもあったが、日本ほど徹底されておらず、高等教育まで受けている子どもは日本より少ない。そこにはラオスが抱える様々な問題があった。しかし、何とか課題を解決しようと、現在は算数の教材開発を日本と共同で行っていた。以前のラオスの算数教科書は白黒で文字が多い印象を受けたが、新しい教科書は挿絵や解説のイラストがカラーで示されており、日本の教科書ととても似ていると感じた。ラオスの先生たちにも、日本の指導法を伝えており、現場で実践していると伺った。日本の指導をそのままラオスの先生や子どもたちに伝えることは難しいと思うが、ラオスの現状に合った方法に形を変えて定着していけばよいと考える。「日本らしさ」「ラオスらしさ」は、研修期間中私のテーマの一つとなった。

　COPE Visit Center では、不発弾について、撤去の方法、外国からの支援内容、不発弾の被害にあってしまった方たちの支援の方法について話を伺った。不発弾一発を見つけて撤去するまでには長い時間と労力が必要である。しかも安全に行うためには正確な情報が必要である。現場で活動している長田さんから話を伺うことができた。長田さんは、自分の得意なコンピュータの技術を生かして、不発弾撤去の一員として活躍している。コンピュータを使って不発弾の正確な位置、大きさ、深さなどをデータ化している。「不発弾を撤去することはラオス人を守る」という信念をもって、日々の活動に取り組んでいることに深く感動した。

　ラオスでラオス人のために活動している日本人がたくさんいることに驚いた。また、言葉の壁や習慣の違い、国民性の違いなど、いくつもの壁を乗り超えて今にたどり着き、現在も支援を続けていることに同じ日本人として誇らしく思った１日だった。

<算数の教科書>

<投下してくるボンビー>

<義足>

No.

Date ・ ・

8月9日(金) 中山　舞（広島市立二葉中学校）、谷口　和輝（八頭町立郡家西小学校）

訪 問 先

①ラオス日本センター（LJI）訪問
②ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクトⅡ訪問

研修内容

①ラオス日本センター訪問、日本語生徒との交流
　ラオス日本センター側からあいさつ、ラオス学生からの質問に対する日本生徒の返答紹介
　ラオス学生からラオスの文化紹介、日本の生徒&教師からの質問コーナー、歌（パプリカ）披露
②ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクトⅡ訪問
　事業概要説明、バス乗車体験

所　　感

　ラオス日本センター(Laos-Japan Human Resource Development Institute、以下 LJI)では、ラオスの学生が日本語だけでなく、盆踊りや茶道など日本の文化も学んでいる。また、LJI は週に 1 度ラジオを通じて活動の様子をラオス国内に伝え、日本の文化をラオスの人々に知ってもらう活動を行っている。
　業務調整員として活動されている佐藤さんに、LJI の紹介をして頂いた。お話の中で「日本人が考える幸せとラオス人が考える幸せは異なる」という言葉を言われていた。私たち参加者は、1日の振り返りの中でこの言葉の意味について、一人一人が自分自身の視点で考えていきたいと話し合った。
　交流では、事前に質問を受けていた“日本で流行っているもの”について日本の中高生が答えた動画や写真を紹介した。続いてラオスの学生が、約 20 分間日本語でラオスの文化について紹介をした。コーヒーブレイクの後は研修に参加する教員から「自分が感じる幸福度」「将来の夢」「自分が好きな日本の文字」について質問し、ラオス学生からの様々な意見を聞くことができ、有意義な時間となった。交流の最後には、2020年の東京オリンピックの応援ソングである「パプリカ」を全員で歌ったり踊ったりして、親睦を深めた。
　バス公社では、まず株式会社片平エンジニアリング・インターナショナルの武田圭介氏の話を伺った。ラオス市内の交通事情として、道路には車やバイクの量が年々増え、渋滞が起こっている。路線バスについては、時刻通り運行しておらず、市民の生活に活用できる交通手段になっていなかった。無償資金協力として日本がバスを供与し続けていても、年間の乗客者数は年々減少していた。その理由に、バスの運転手が突然休んでしまうこと、運転手の給与が歩合制だったことから、決められたルートや時間を無視して運行することで報酬を得たりすること、また、運転手への指導が不十分で、バスのドアを開けたまま走るなど、安全面に不安があることなどがあげられる。このような理由から、運営面でたくさんの問題を抱え、組織として大きな改善が必要とされていた。
　そこで、JICA の技術協力プロジェクトとして、新しい組織「City2」をバス公社内に設立し、既存を活用しない組織の大きな改革を行った。「安全」「便利」「信頼」のコンセプトをもとに、運転手の労働環境を改善し、利用者の満足度を高め、また乗りたいと思えるバスを提供することを目標とした。「City2」の本部を見学した際、バス内外に設置されたカメラでバスの状況が確認できることや、GPS で運行状況を確認できることなど、日本式に徹底管理され運営されている様子を見させていただいた。
　また、この「City2」の運営にあたり、京都市からの寄贈バスを使っていた。この京都市から寄贈されたバスに、私たちは乗車した。バスには日本で走っていたことが分かる表示が多く見られる一方、バスの昇降口を反対にしたり、優先席に僧侶のイラストがあったりと、ラオスで運用していけるように改善されているところもたくさんあった。しかし、ハンドルの位置を変えるのは予算の関係上難しく、右ハンドルのまま運用されている。

　このような支援から、ラオス人の満足度は上がっているように思えた。しかし、現状は今乗っている人以上の需要はあまりないようで、市民に根付いた支援にはまだなっていないようである。この現状を、支援している方々は心配しておられ、もしこのままバス等の公共交通機関が広がっていかなければ、道路に車が溢れ、交通インフラの整備がすすんでいかないとおっしゃっていた。

　支援に必要なこと、それは『選択肢の提供』であると考える。市民にとって、「バス」という公共交通機関があることを知り、バスを利用したいというニーズを高めることが課題である。バスという選択肢が市民にとって有効に感じられることで、ニーズが高まり、今後のラオスにおける路線バスのユーザーを増やすことにつながると感じた。そうすることで、市内の渋滞が緩和されていき、交通インフラが整備されていく。そのために、子どもへの教育や、学生の優遇措置、警察と連携した安全性のアピールなど、情報提供を通じて、ユーザーのメリットを全面に押しだした支援をしていくことが大切であると考え、PR活動をしていることも教えていただいた。

<LJIでの交流の様子>

<最後に全員で記念写真>

<京都市からの寄贈バス>

<乗車体験の様子>

No.

Date　　・　　・

8月10日(土)　坪池　由美子（熊野町立熊野第一小学校）、橋田　佳子（高知市立はりまや橋小学校）

訪 問 先

①パクセー県市場　②ドンコー村

研修内容

①パクセー県市場

地元の人たちも使う市場を散策し、シンや教科書、写真など授業に使えそうな教材を収集した。

②ドンコー村

子供たちとの交流を行った。全員での交流としては、ダンス・大縄跳び、リコーダー演奏などを行った。その後、個人が準備していたおはじきや折り紙、紙飛行機などの日本の昔ながらの遊びを使って交流した。その後は、ホームステイで伝統的なラオスの生活を体験した。

所　　感

市場には新鮮な野菜や果物、そして思った以上に多くの種類の魚介類があった。カエルやカタツムリなども売られており、ラオスという国の自然の豊かさを感じた。また民族衣装シンも多くの店で売られており、自分たちの伝統を大切にしていることがうかがえた。

また小学校の教科書も購入した。先日のJICAラオス事務所訪問の際に紹介してもらった日本と協力して作った算数の教科書もあった。1冊2万キープほどであった。

日本では義務教育の小学校と中学校では、教科書は無償である。これは高知県から始まった運動で勝ち取った権利であると人権教育で学んだことがある。

しかしラオスでは無償ではなく、各家庭で買うという。10教科ほどあるので負担も小さくはないと思われる。地方の学校によっては、児童が教科書を持たずに、ただ先生の板書をノートに写すだけのところもあると聞いた。兄弟でおさがりを使う場合もあるという。そんな風に場所や家庭によって教育の環境や条件が大きく異なっていていいのだろうかと疑問に感じた。教育は国の発展の土台となるかけがえのない分野である。やはり義務教育の間だけでも、教育の機会や条件は等しく与えられてほしいと切に思った。

<ラオスの小1算数教科書表紙>

〈裏表紙には日本のJICAとの協力で作られた教科書とある〉

午後からは、ラオスの伝統的な暮らしを続けているドンコー村へ船で移動した。子供たちとの交流でも、バーシーの儀式や村の人たちとの食事の時も、温かく歓迎してくれていることが伝わってきた。大人も子供も、最初は恥ずかしそうにしているが、話しかけたり一緒に活動したりするととてもよい笑顔を見せてくれる。バーシーの儀式で、年配の女性が腕を優しくさすり微笑んで言葉をかけてくれたときは、今はもういない祖母のことを思い出した。ドンコー村には警察も病院も自動車もない。しかしそれは、貧しいから建てられないというわけではなく、必要がないから存在しないようだった。治安が良くて住民同士のつながりも濃く、問題はみんなで協力して解決するのだという。村の中には広々とした水田が広がり、村のあちこちに果物の木が生え、目の前のメコン川では漁もできる。電気が通っているのでテレビを見ることもできるし、さまざまな家電製品も使える。最新の機器を使っていても何かイライラしている人の多い日本とは違い、村長さんが言われた通り平和で穏やかで豊かな村だった。そんな中で違和感を覚えたのは、子供たちがごみをその辺へ捨てていることだ。村ではどのようにごみ処理をしているのか聞いてみると、「まとめて村の中で焼く。ペットボトルも燃えるから一緒に燃やす」ということだった。

最新機器や高い建物などはないけれど、非常に心豊かな暮らしを送るドンコー村には、支援は必要ないように思えた。しかし、ラオスに来てから何度も聞いた「教育が足りない」「情報が足りない」という現実の一端を垣間見て、ラオスに必要な支援、適切な支援とは何かということを改めて考えさせられた。

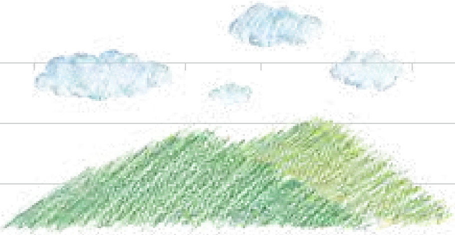
〈バーシーの儀式〉

〈子供たちとの交流〉

No.

Date ・ ・

8月11日(日)　得重　直也（山口市立中央小学校）



訪 問 先

世界遺産ワットプー

研修内容

①ワットプー見学

　フランスやインドの協力により建物の再建を行ったことを知った。

　日本の無償資金協力・技術協力により、資料館が整備されていることを知った。

②中間振り返り

　研修前半を振り返り、個人個人が感じたことを共有、後半に向けての視点について考えた。

所　　感

　仏教とヒンドゥー教の合わさった遺跡の見学を行った。建物の造りやそこからの景色は圧巻であり歴史や自然の雄大さを感じた。ラオス政府は、遺跡の保管に努めていたが、崩壊防止に必要な設備や人材が不足しており、遺跡救済のため国際社会へ救助を要請し、現在の美しい姿になっている。世界文化遺産・自然遺産の保護・保全はSDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」にあたり、その国だけでなく、世界で守っていこうという姿勢を感じられた。また、日本のみならず、フランス、インド等の国も支援を行っていることを知り、世界のつながりを学ぶことができた。

　しかし、その背景には遺跡の整備を行うため、そこに住んでいた住人の移住があったことも知った。資源を守ること、整備することのみが大切ではなく、そこに住む人々の生活や願いがあってこそ価値のあるものになるのではないだろうか。このことを事前研修で学んでいたことで、見方や考え方がより深まったように思う。

　また、観光客の少なさも気になった。ラオスは経済発展の柱として観光促進を行っている。観光の誘致、宣伝等の必要性についても考えることができた。学校で子どもたちに指導していく際、建物、自然の美しさだけでなく、そこにある背景についても考えていきたいと思う。また、身近な生活に置き換えて、自分の住んでいる町や地域をどのようにしていきたいか、どうすればもっと人が集まり自分たちの町を知ってもらえるかなど、ふるさと学習にもつなげることができると思う。

　中間ふり返りでは、支援のあり方について考えた。当事者（ラオス国、国民）の目線で考えていくことを青年海外協力隊員の方の話から学んだ。ただ物資、人材支援を行うことが開発ではなく、その国にとって何が必要か、どのような方法が適切かを考えることの必要性について意見が出た。また、研修前に考えていたラオスの印象からの変化について意見を出し合い、貧困国に対して「理想の貧困」のイメージを作ってしまっていないかと考えた。直接見て、話して考えることにより、より深くラオスという国について、また、持続可能な支援のあり方、そこに携わる人々の考えや願いなど、内面から考えることができる。私にとってとてもよい経験になり、今後、学んでいく視点がとても深まった。

<ワットプーにて集合写真>

<ワットプー遺跡にあった技術協力のプレート>

No.

Date　　・　　・

8月12日(月)　阿部　絵理子（広島県立芦品まなび学園高等学校）

訪問先

①UXO−LAO チャンパーサック支部

②NGO「Village Focus International」

研修内容

①UXO−LAO チャンパーサック支部

UXO−LAO の職員から不発弾処理の概要について説明を受けた後、UXO−LAO の寮を見学。

その後、不発弾除去の現場に移動し、話を聞いた後、不発弾除去を実際に体験した。

②NGO「Village Focus International」

センター長から事業内容の紹介を受けた後、施設内を見学。女の子たちが縫製作業をしている様子や、

キノコの栽培や養鶏小屋も見学した。

所　感

今日は、穏やかでのんびりした雰囲気のあるラオスの、負の側面を見た一日だった。

ラオスには 18個目の SDGs の目標がある。「LIVES SAFE FROM UXO」。ラオスにはベトナム戦争のときに落とされた不発弾が多く残っており、すべての不発弾を撤去するには、あと 200年必要とも言われる。農作業中の人や遊んでいる子どもたちが今も被害にあっている。UXO−LAO では不発弾処理だけでなく、市民からの情報収集や、子どもたちに不発弾の危険を伝えるための啓発教育を行っているそうだ。午前中の UXO−LAO 事務所でのブリーフィングの後、除去作業中の現場を見学した。除去現場では朝見つかった2つの不発弾の処理を体験した。職員の方の合図でボタンを押すと 300m先に置かれた不発弾が爆発し、お腹にまで響く爆発音と振動が伝わってきた。悲鳴もあがった。怖くて驚いて涙も出た。これまで平和や戦争についてイメージや言葉だけで理解してきたが、はじめて怖いという体感で平和と戦争について考えた。

午後は NGO「Village Focus International」を訪問した。〝夢をつくる〟と名づけられたこの場所は、人身売買被害者の心と身体のリハビリと自立へ向けた教育を行う施設である。中では少女たちが縫製作業をなごやかな雰囲気で行い、控えめに笑みを向けてくれた。ラオスの貧困地域に住む子どもたちが、生活のためにタイに売られて行き、傷を抱えてラオスに帰国してくる。村レベルでの啓発活動も行なっているが、解決にいたっていない。この施設では保護した子どもたちに、縫製・調理・織物などの職業訓練を行なったり、お金のやりくりや生活設計を考えさせるなど、自立した生活を送るための教育支援を行なっている。「この施設を出て行くことが成功ではなく、自分で収入を得て、自立することが成功」と、センター長は教育を受け、職につき、自立することの大切さを語ってくださった。

振り返りでは、不発弾や人身売買の問題を自分事として考えることの難しさや、ラオスが抱える貧困から派生する様々な問題の深さ、ラオスの負の側面を教材化することへの違和感などについて話をした。この日は先進国の人間として、また教師としての自分を見つめ直す一日だった。

<不発弾除去に関する現地でのブリーフィング>

<UXO-LAOチャンパーサック支部でのブリーフィング>

<不発弾の危険性　啓発のポスター>

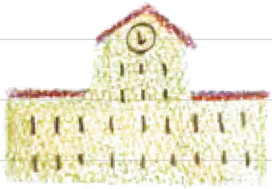
<不発弾除去を体験>

<Village Focus Internationalにてセンター長と>

8月13日(火)　中川　尚子（岡山市立操南中学校）

訪 問 先

①チャンパーサック県病院
②チャンパーサック教員養成学校



研修内容

①チャンパーサック県病院
青年海外協力隊として派遣されている吉田隊員（看護師）より、配属先の概要、病院の基本情報、事業内容、課題、活動計画、活動目標などについてお話を伺った後、吉田隊員と一緒に病院内を視察して回った。
②チャンパーサック教員養成学校
校長先生、副校長先生よりラオスの学校制度と教員養成校の制度について紹介、その後、青年海外協力隊として派遣されている岩井隊員（公衆衛生）より、新しく導入された科目「エコヘルス」とその実践、今後の計画についてお話をいただいた。その後、養成校の校内を視察。夏休み中であり授業は行われていなかったが、教員研修の様子を見せていただくことができた。

所　感

チャンパーサック県病院では、日本との病院とあまりにも違うことに衝撃を受けた。ベッドの数が足りず、廊下に並べられたベッドや、ござの上に患者さんが横たわっていること、薬の管理がずさんで中身が混ざっていたりすること、病院食がなく、家族が食事を作ってくること、洗われていないシーツがそのまま使われること等々、リスクの面で日本では考えられない数々の課題があることを知った。吉田隊員は、看護師の技術、能力の向上と院内環境の改善を目指して尽力されている。地元の人との信頼関係が築かれているのはこれまで派遣されてきた隊員の方々の努力によるものだが、指導をしても、なかなか継続していかない原因には、ラオスの人の国民性や、なぜしないといけないのかが分かっていないことが多いとのこと、それを知るシステムも必要だとの話が印象的であった。ラオスはつきそいの家族の人数が多く、献身的でマンパワーがあることが強み。しかしそれがかえって病院の衛生状態を悪くしている面もある。日々悩みながら課題改善のために一つずつ活動にとり組む吉田隊員の熱い思いを感じた。

チャンパーサック教員養成校では、岩井隊員より、「エコヘルス」という新しい科目への取り組みの説明があった。「エコヘルス」とは生態系と健康の関連性を考える新しい科目で、環境教育と保健教育が合わさったようなもの。カリキュラムに正式に導入されるのは２月からとのことだが、何度か授業も行われ、附属小学校での健康診断や、JICA 支援による手洗い場の設置と手洗い指導なども実践された。実際に手洗い場を見せていただいた。教育でラオスの人の健康や環境に関する意識が変わることで、午前中に視察した病院での医療面での課題の改善や、ラオスの人に合った持続可能な発展への可能性を感じた。研修の予定にはなかったが、希望者で岩井隊員がボランティアをされている日本語学校へも訪問し、授業を見せていただいた。教科書とノート、ホワイトボードのみを使った授業にもかかわらす、生徒一人一人との信頼関係があり、楽しく一生懸命勉強する生徒さんの姿から、同じ語学を教える私にとって学ぶべきものがあった。

<廊下にござが敷かれた病院>

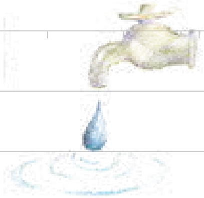
<附属小学校　JICA支援で作られた手洗い場>

<岩井さんの授業の様子>

No.

Date　　・　・

8月14日（水）　中村　秀司（鳥取県立鳥取西高等学校）



訪 問 先

JICA 事業視察（技術協力）水道事業運営管理能力向上プロジェクト（MaWaSU2）

研修内容

①Chinaimo Water Treatment Plant 視察

　メコン川から着水井、混和池、沈殿池、ろ過池を経て、浄水池、排水池までの過程で、濁質を除去するシステムを視察した

②事業概要説明

　シーソモン氏（水道公社国際交流担当・チナイモ浄水場場長）

　首都ヴィエンチャンNPNLは1963年設立、4浄水場を有する。首都人口約86万人のうち、約61万人に水が供給され、メコン川、ングム川、地下水から主に取水している。職員は 688 名。組織内には、管理、サービス、総務、財務部門があり、理事長は副市長、副理事長はバス公社総裁、財務局長で、科学技術、計画投資、公共事業、青年同盟、女性同盟が理事に入っている。生産能力に比して、約2万㎥／日が不足しているため拡張工事を実施している。施設整備は、日本の支援により初めて着手され、技術協力や人材育成の面で支援を受けている。2012年から開始されたプロジェクトは現在フェイズ2である。

木下雄介さん（JICA MaWaSUⅡプロジェクトコーディネーター）、山内さん（埼玉県企業局）、
徳永隆さん（横浜市水道局・財政担当）、藤瀬大輝さん（川崎市上下水道局・水質担当）

　ラオス全体の水道普及率は約25%で人口約650万人のうち約162万人（2019年）が水道にアクセスできるが、SDGsは2030年までに100%の人々への供給を目標としている。水道整備は1963年からの創設期、1975年からの推進期、1990年以降の普及強化期、2010年からの拡充期のように発展してきた。一方、井戸水の利用も多く、山水、沢水、地下水などから取水する人々や、水運びを要する人々も多い。日本の近代水道は、アメリカの来航以降、横浜の成長に合わせて発達した。英国のヘンリー・パーマーによる野毛山浄水場が初めで、1887 年に給水が開始された。コレラ・チフスといった水系感染症の解消にも貢献した。日本と違い統計のないラオスにおいては乳児死亡率が参考となり、日本 1.9%に対してラオス 48.6%と高い現状がある。今後の課題としては、①普及・拡大、②独立採算、漏水管理、人材育成が重要である。以前の援助は、施設整備等のハード面に偏り、今後はメンテナンス技術や人材育成といったソフト面での支援強化が大切である。5年間で達成が期待されることは、①制度、②施設、実施能力、③技術、④水道公社の能力強化である。

所　　感

　最も印象に残った言葉は、「日本のやり方を押し付けない、ラオスに合った形ですすめること」「ラオスから学んでいる」である。水道事業の推進は、両国の関係づくりに長年の蓄積があり、良好な関係を築いてきたこと、今後も良好であり続けようとすることを大切にしようとしていることが、くっきりと感じられた。「ラオスにはラオスの決定の仕方があり、日本のやり方を押し付けない」「ラオスの状況やニーズにあったことに取り組む」「日本のやり方が一番というのは間違い」「ラオスにはラオスの政治状況があり、踏み込んだことをしないようにすることも大切」「ラオスにいいところがあり、一生懸命ということを思い出させてくれる、これを周りに伝えたい、ラオスから学んでいる」「社会主義と仏教の国で、悪いことをしてはいけないという価値観は、道徳観として日本と近く、仕事がやりやすい」「これまでのハード面の整備に加えて、自分たちでメンテナンスが行える技術を教えていくことが大切」など、講義以外のところで職員の方々が大切にしている考え方を多く聞くことができた。今後は支援なく独立採算で水道事業を運営していくことが期待されるが、送水ロスが 30%と多いことや施設設備の老朽化に対するメンテナンス技術の教育等、いまだ多くの課題がある。他にも、水道資格制度、長期間にわたる日老関係の信頼性、ラオス人の日本招聘、過疎地での井戸水等の小規模水道といったお話をお聞きすることができた。「水」をテーマとする授業づくりに役立てていきたい。

<チナイモ浄水場の視察>

<取水するメコン川>

8月15日(木)　大久保　幾代（徳島県立国府支援学校）

訪問先

特定非営利活動法人NPOアジアの障害者活動を支援する会（ADDP）

研修内容

①事業概要説明

②卓球バレー体験

ルール説明を聞いた後、数人ずつ交代でチームに加わり、練習試合を行った。

③ラオス手話体験

カフェで働く聴覚障がい者の方にラオス手話を教えていただいた。

所　感

「特定非営利活動法人 NPO アジアの障害者を支援する会 (ADDP)」は、前島富子さんを代表として 1992 年 10 月に設立された。アジアの国々では、障がい者が社会参加する上で様々なバリアが存在し、多くの障がい者が困難に直面しており、1981年以前の日本と同じような状況にあるという。ラオスに来て23年になる前島さんは、これまでにアジア 18カ国をまわってセミナー等を行い、支援活動を行ってきたそうだ。2017 年に、この日私たちが訪問させていただいた「Minna no cafe」がオープンし、知的障がい者と聴覚障がい者が働いている。

事業概要を聞いた後、卓球バレーを練習している場所に案内していただいた。向かう途中聞こえてくる歓声に、私たちはわくわくしながら部屋に入った。私は初めて卓球バレーというスポーツを体験したので、通訳された説明だけではルールも曖昧だったが、隣に座ったプロジェクト訓練生の方が笑顔とジェスチャーでやり方を教えてくれた。短い時間の体験だったが、あれほど笑顔があふれて盛り上がり、一体感を感じられるスポーツは初めてだった。

次に、カフェで働く聴覚障がい者の方2名にラオス手話を教えていただいた。手話には国際基準というものがなく、国によって少し違っているという。カフェのガラスボードに書いた簡単な絵や数字と手話、それとアイコンタクトによるコミュニケーション。「男の子・女の子、1～ 100までの数字、同じ・違う」などの手話を学んだ。話し言葉はなくても、彼女たちが伝えたいことが「理解できる喜び」、「つながる喜び」を感じた温かい時間だった。また、アイコンタクトの大切さを体験することができた貴重な機会となった。

優しくて温かい人たちやその雰囲気に包まれたためだろうか、この日の振り返りでは涙を浮かべる人が少なくなかった。ラオスにおける障がい者の自立と社会参加の道はこれからであるが、このような草の根技術協力を行う日本人がいることを誇りに思った。それと同時に、誰もが自分らしく幸せに生きていけるインクルーシブ社会の構築に向け、自分ができることに一歩ずつ取り組んでいきたいと感じた。

<卓球バレー体験>

<練習試合後に全員で>

<ラオス手話講師>

No.

Date　　・　　・

8月16日(金)　関　悠夏（丸亀市立城坤小学校）

訪 問 先

JICA ラオス事務所

研修内容

①JICA ラオス事務所スタッフへの研修報告

１人１プログラムを担当し、学んだこと・考えたこと・授業への活用方法をパワーポイントを使って発表した。

②全研修を終えての振り返り

校種別に分かれ、授業への活用方法を考えた。その後、全研修を終えて学んだこと・感じたことをそれぞれが振り返りとして述べた。

所　　感

午前中は JICA 事務所で研修報告の資料作りを行った。怒涛のように過ぎていった研修をじっくり振り返り、自分の中で考え整理しなおすためのよい時間となった。参加者それぞれが、日直の日のプログラムの報告を担当するようにした。そのプログラムで自分は何を感じ、何を考え、何を子どもたちに伝えたいのか、どのように活用すべきかを考えた。そのため、少しずつ授業の全体像や詳しい内容が見えてきた。

午後からの発表は、女性参加者はラオスの正装「シン」を着て行った。少しでもラオスのことを理解したいと思いラオスの女性と同じ服装で臨んだ。各参加者が、印象に残ったことを写真で提示したり、クイズ形式にしたり、動画にしたりとさまざまな手法を活用し報告した。参加者がそれぞれの視点で授業での活用方法を紹介したため、各プログラムの新しい教材としての活用方法を知ることができた。

その後、校種ごとに分かれて、単元構成や授業での活用方法についての話し合いを行った。図書の時間や国語などいろいろな授業との関連付けを紹介し合い、とても参考になった。他の参加者の視点も授業に取り入れていきたい。

最後に、全研修を終えての振り返りを行った。「ラオスが大好きになった。そして、改めて日本が好きになった」「自信をもって成長したと言うことができる」「毎日、さまざまなことを感じ、考え続けてしんどかったけれど、それが楽しかった」などの意見があった。この日の振り返りは、今までで一番参加者の顔がいきいきしているように感じた。知る喜び、考える楽しさ、達成感を実感できるような充実した研修であったためだと思った。

子どもたちがこのような顔になるような授業をしたいと強く感じた。本研修のように、充実した毎日を子どもたちと共に過ごせるよう、よく目を合わせて時間を大切に過ごしていきたい。

<研修報告の様子>

（参考資料）

「持続可能な開発目標（SDGs）」とは？

2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、開発途上国だけでなく、先進国も含めたすべての国が取り組むべき 17 の目標と 169 のターゲットが定められた、2030 年までの国際的な目標です。「誰ひとり置き去りにしない」をキーワードに、私たち一人ひとりが問題を「自分事」としてとらえ、努力していくことが求められています。

JICA は、開発途上国での長年の経験を活かし、国内外のあらゆるパートナーと連携しながら、SDGs の達成に貢献していきます。また、国際教育プログラムを通じて、SDGs への理解促進にも積極的に取り組んでいきます。

今年度、教師海外研修に参加された先生方も、SDGs の視点からラオスを視察・訪問し、持続可能な社会や発展について考え、授業を展開されています。

1. 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆるかたちの貧困を終わらせる

2. 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、栄養を改善し、持続可能な農業をすすめる

3. すべての人に健康と福祉を
全ての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

4. 質の高い教育をみんなに
全ての人に公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を提供する

5. ジェンダー平等を実現しよう
世界中で女性と少女が力をつけ、ジェンダー平等を実現する

6. 安全な水とトイレを世界中に
全ての人に水と衛生設備（トイレ・下水道・ダムなど）を保障する

7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
全ての人が、安くて安定的に発電できる持続可能なエネルギーを使う

8. 働きがいも経済成長も
持続可能な経済成長を促進し、全ての人が働きがいのある人間らしい仕事ができるようにする

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
災害に強いインフラをつくり、持続可能な産業化を進める

10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を減少させる

11. 住み続けられるまちづくりを
街や人々が住む場所を、安全で災害に強く、持続可能な場所にする

12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

13. 気候変動に具体的な対策を
国の政策や計画に気候変動対策を盛り込む

14. 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

15. 陸の豊かさも守ろう
陸の生態系を保護し、砂漠化への対処、土地の劣化、生物多様性の喪失を止める

16. 平和と公正をすべての人に
誰一人のけ者にされない社会と、すべての人が法律にアクセスできる社会を実現する

17. パートナーシップで目標を達成しよう
目標達成のために必要な行動を強化し、持続可能な開発に向けて世界各国が協力する

参考・引用：国際連合広報センター「2030 アジェンダ」、外務省「JAPAN SDGs Action Platform」

授業実践報告

小学校編

せかいの国と友だちになろう

氏　　名：得重　直也
担当教科：全教科
時 間 数：９時間

学 校 名：山口市立中央小学校
実践教科：学級活動・道徳・生活・社会・校内研修
対象学年：1、2年生、教職員、保護者
人　　数：26人（1、2年生）

【1】単元のテーマ・目標

ラオスをはじめとした外国の人々の生活や習慣等を知り、自分たちと比較したりSDGsに触れ合ったりすることを通して、外国のことを知る楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	外国について興味や関心を持つことができる。
(イ) 思考・判断・表現	自分のしたいことや知りたいことを表現できる。
(ウ) 技能	自分の生活との違いに気づき、比較することができる。
(エ) 知識・理解	ラオスや外国の文化、SDGs について知ることができる。

【3】単元設定の理由

＜児童観＞

事前に外国について知りたいことについてアンケートを取ると、その国の「食べ物」「遊び」「学校の様子」など、生活に関することが多かった。また、外国について尋ねると、バラエティー番組等で様々な国について知ったり、放課後教室で国旗を描いたりすることがあり、外国に対する関心が高い。しかし、国名は知っているものの、その国々の特徴や様子は知らないことが多い。途上国については、「かわいそう」という考えがある。

＜教材観＞

本単元は、児童が外国の文化や生活に興味や関心を持つことをねらいとしている。また、世界の目標「SDGs」についても知り、自分ができることを知るきっかけづくりにしたい。そのためには、児童の現時点での興味や疑問をもとに、写真を見たり、実際に体験したりしながら考えていく授業を展開していくことが大切である。そうすることで、楽しみながら国際理解への興味や関心が広がっていくことができるだろう。

＜指導観＞

そこで、児童にあたっては、次の点に留意したい。

○教師海外研修で撮影した写真や動画を活用し、ラオスの「衣食住」を中心に紹介し、日本や自分たちの生活との共通点や相違点に着目し、興味を持つことができるようにする。

○ラオスの文字や算数の学習を体験したり、世界の遊びを紹介したりすることで自分たちの生活に沿って外国について身近に感じることができるようにする。

○SDGsに沿った具体的なカードを用意し、生活に大切なことについて考える。その際、保護者にも話し合いに参加してもらい、多面的な考えに触れることができるようにする。

【4】展開計画（全９時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「教師海外研修報告」 対　象：教職員 ねらい：教師海外研修の目的や研修内容、ラオスで体験したことを紹介することを通して、教師海外研修やラオス、国際教育について理解を深めることができるようにする。	○教師海外研修の目的や授業への生かし方を知る ・研修内容 ・自身の所感 ・ラオスで購入した教材の紹介 ・授業実践の方法	・パワーポイントで作成した資料 ・現地で撮影した写真や動画 ・ラオスの教科書
2 3	「ラオスについて知ろう」 対　象：1、２年生 教　科：生活科 ねらい：事前アンケートから出た児童の関心、疑問をもとにラオスでの生活を紹介したりクイズをしたりすることを通して、外国の文化に興味を持つことができるようにする。	○ラオスの国の文化や人々の生活の様子について知り、体験する ・ラオスの衣食住 ・学校の様子 ・子どもたちの遊び、はやっているもの ・ラオス語、算数の教科書で勉強体験 ・シンの試着体験	・現地で撮影した写真や動画 ・ラオスの教科書 ・地図 ・現地で入手した教材の展示
4	「日本と世界の遊びをくらべてたのしもう」 対　象：２年生 教　科：特別の教科　道徳 ねらい：日本や外国の遊びについて知ったり体験したりすることを通して、日本との共通点や相違点があることに気づき、自国他国の文化を大切にしようとする心情を育てる。	○日本の遊びと外国の遊びを比較し、体験する ・形は違うが同じ伝統・伝承遊び （凧揚げ、こま、歌遊びなど） ・やり方が違うが、同じ意味の遊び （おにごっこ、じゃんけん、だるまさんがころんだ、ケイドロなど）	·道徳の教科書（2年） 「ひろいせかいのたくさんの人たちと」 ・世界の遊びの本 「世界の子どもの遊び文化のちがいがよくわかる!」
5 本時 6	「世界の目標って何だろう」 対　象：1、２年生、保護者 教　科：生活科 ねらい：SDGs について知り、自分たちの生活や世界の目標や課題に触れることを通して、自分にできることを考えるきっかけづくりができるようにする。	○ SDGs について知り、カードを使って何が大切かを考える ・具体的にしたカードを使って、どれが１番大切か話し合う ・カードの中で絶対に必要と思うものを話し合う ・大人（保護者）の考え方を聞く ・世界の目標（SDGs）に向けて活躍している人の話を紹介する ・家や学校でできることを決め、取り組む	・パワーポイントで作成した資料【資料１】 ・SDGs を具体化したカード【資料２】 ・絵本「世界がもし100人の村だったら」

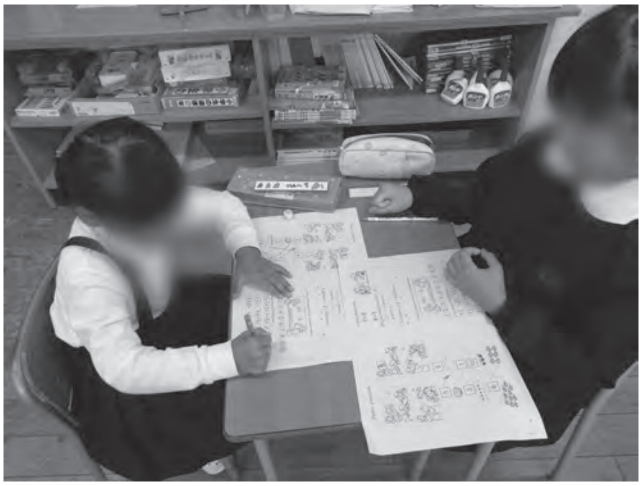
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7	「異文化との共通点って?」 対　象：5 年生 教　科：特別の教科　道徳 ねらい：他国の人々や異文化の中に自分たちとの共通点や共通の願いがあることに気づき、それらを大切にしようとする心情を育てる。	○道徳教材「同じ空の下で」を基に、ラオスの生活や文化を紹介し、異文化について知る ・あいさつ、礼儀、慣習 ・ラオスの人々の願い ・国の発展のために活動している人々の紹介	·道徳の教科書（5年）「同じ空の下で」 ・パワーポイントで作成した資料
8 9	「世界のためにできること」 対　象：6 年生 教　科：社会 ねらい：外国の衣食住、慣習等を知るとともに、世界の課題や目標、している活動等について気づくことができる。	○ラオスの人々の生活について知る ・衣食住や流行っているもの ・学校や子どもたちの生活 ○世界の目標（SDGs）やそれに向けて取り組んでいる団体の活動について知る ・ODA、ユニセフ、JICA、不発弾処理等の活動 ・活動している人々の思いや願い	・パワーポイントで作成した資料 ・ラオスで出会った協力隊員のインタビュー動画 ・SDGs カードや資料

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	1. これまでの学習を振り返る ○ラオスにも日本と似ている食べ物や飲み物があるよ ○ぼくたちと同じように学校で勉強したり遊んだりしているんだね	T ラオスやほかの国のことを知って、どんなことが心に残ったのか ・前時までの学習を想起できるよう、まとめたものを掲示しておく。	・今までの学習をまとめた掲示物 ・写真をまとめたパワーポイント
展開 (30分)	2.SDGs について知り、どれが大切であるか話し合う ○海を守るって話を聞いたことがあるよ ○世界が仲良くなることが大切だと思う <児童> ○毎日ごはんを食べることって当たり前だけど、大切だよね ○病院に行けなくても薬を買えばいいんじゃないかな <保護者> ○男女平等はまだまだ日本でもがんばっているところだよ ○安全な水がないと料理もできなくて困ってしまうよ	T 実は、世界には目標があるのだけど、どんなものか予想してみよう ・環境や貧困に関することなど、児童が想起しやすいように事前に関連する絵本の読み聞かせを行っておく。 T このカードの中から大切と思う順番に並べてみよう。 ・グループで大切と思う順番を考えさせ、その理由を発表させる。後半は保護者の方にも意見を聞き、児童が気づきにくいところも知ることができるようにする。また、日本では当たり前なことが整っていない国があることや日本でも課題であるものがあることを知ることができるようにする。	・SDGs の表 ・SDGs の内容を簡略化したカード

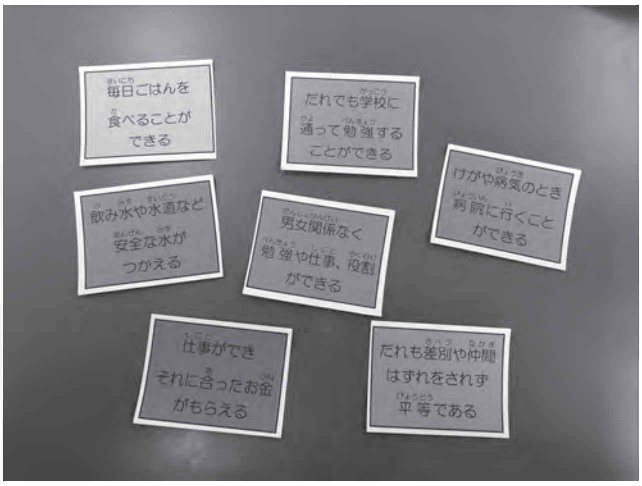
	3.「世界がもし 100 人の村だったら」を紹介する ○学校に行けない子どもがこんなにいるなんて知らなかった ○電気や水は日本では当たり前だけど、困っている国もあるんだね	T 自分たちの生活とくらべてどう思いましたか。 ・本の内容と SDGs のロゴを照らし合わせて、世界の目標について考えることができるようにする。また、身近なことでどんなことができるか考えるようにする。	・世界がもし 100 人の村だったら（絵本）
まとめ （5分）	4. ラオスで出会った協力隊の活動を紹介して、振り返りを行う ○日本の人が外国で活躍していることをはじめて知ったよ ○自分たちにもできることがあるかなぁ ○もっと外国の国のことが知りたい	T ラオスで、ラオスのために活躍する協力隊の方とお話をしてきました。どんな思いで活動しているか紹介します。 ・活動している人の思いや願いを紹介して、外国への関心が高まるようにするとともに、自分たちも何かやってみたいという思いを持てるようにする。	

【授業実践の様子】


ラオス語の算数の教科書を解いている様子

世界のじゃんけんを楽しむ様子

保護者と一緒に活動をする様子

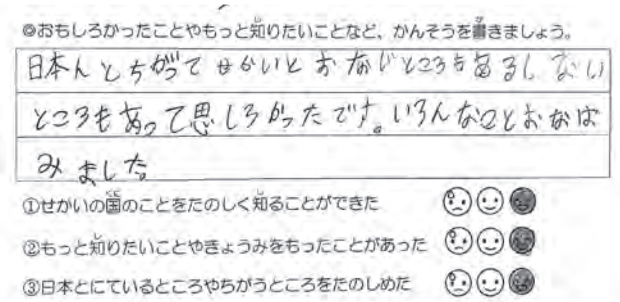


SDGsを簡略化したカード

【6】本時の振り返り

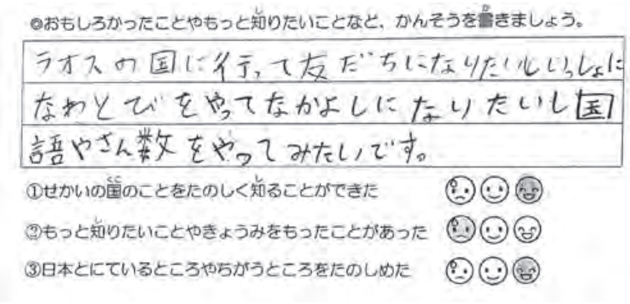
本時は、「誰でも学校に通うことができる」「安全な水を飲むことができる」など、自分たちの生活が世界では当たり前ではないことを知ることを目標した。前時までは、ラオスや外国の楽しいことや日本と似ていることを中心に学習し、「外国って楽しい」というイメージを膨らませてきた。グループでカードを選ぶ際、すべて大切と思ったグループもいれば、病院に行かなくても薬を買えばいいと話すグループもあり、その後の教師の説明や絵本の読み聞かせを聞き、自分たちの生活は当たり前でないことを知ったという児童が多くいた。また、保護者もグループ活動に参加してもらうことにより、児童は自分たちの知らないことや考えを聞き、とても新鮮に感じたようであった。本時以降の活動でも家庭の協力を得ることができ、自分たちができることを決め、実践につなげることができた。小学2年生には難しい内容ではあったかもしれないが、世界での取組について考えるきっかけになったと考える。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化


◎おもしろかったことやもっと知りたいことなど、かんそうを書きましょう。

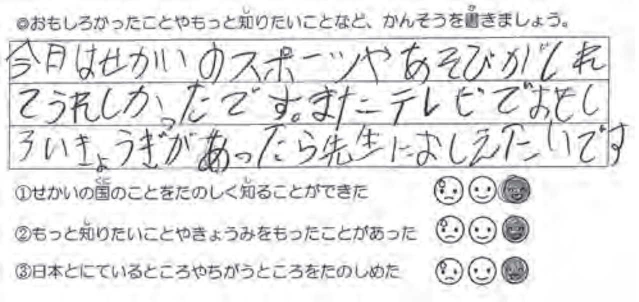
日本んとちがってせかいとおなじところもあるしないところもあって思しろかったです。いろんなことおなはみました

①せかいの国のことをたのしく知ることができた
②もっと知りたいことやきょうみをもったことがあった
③日本とにているところやちがうところをたのしめた


◎おもしろかったことやもっと知りたいことなど、かんそうを書きましょう。

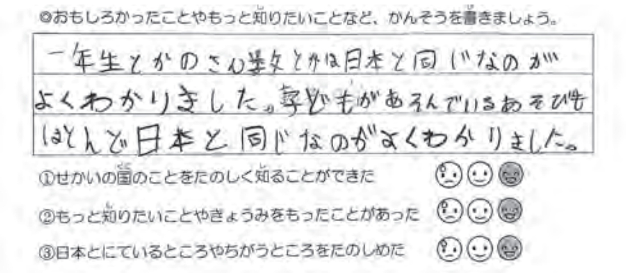
ラオスの国に行って友だちになりたいしいっしょになわとびをやってなかよしになりたいし国語やさん数をやってみたいです。

①せかいの国のことをたのしく知ることができた
②もっと知りたいことやきょうみをもったことがあった
③日本とにているところやちがうところをたのしめた


◎おもしろかったことやもっと知りたいことなど、かんそうを書きましょう。

今日はせかいのスポーツやあそびがしれてうれしかったです。またテレビでおもしろいきょうみがあったら先生におしえたいです

①せかいの国のことをたのしく知ることができた
②もっと知りたいことやきょうみをもったことがあった
③日本とにているところやちがうところをたのしめた


◎おもしろかったことやもっと知りたいことなど、かんそうを書きましょう。

一年生とかのさん数とかは日本と同じなのがよくわかりました。子どもがあそんでいるあそびもほとんど日本と同じなのがよくわかりました。

①せかいの国のことをたのしく知ることができた
②もっと知りたいことやきょうみをもったことがあった
③日本とにているところやちがうところをたのしめた

ラオスや外国のことを知ることにより具体的に「○○を知りたい・やってみたい」という感想が増えた。自分たちの生活と似ていることや違うところを発見し、学習前の「かわいそう」という考えから「日本と違っておもしろい」と考える児童が多くいた。また、「日本の昔からある遊びは○○だよ」と日本の文化にも着目して考えることができた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

「昨日、テレビで○○の国のことをやっていたよ」「今日の給食は○○の国の食べ物だって。日本の○○みたいだね」と会話の中で外国の文化についての発言や気づきが多く聞かれた。自分が知ったことを他者に伝えたい、知ってもらいたいという様子が見られ、より外国の文化に関心をもつようになった。

SDGsの学習後からは、給食の残食や水の節水など、自分たちができることに気をつけるようになり、児童同士で声をかけ合っていた。また、図書室では、外国に関する本や民話を読む児童が増えた。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞

外国への関心は高かったが、知っている国は、先進国といわれる国が多かった。また、現地で撮った写真を紹

介すると「なんで裸足なの？」「家がボロボロでかわいそう」「ご飯を手で食べるなんてできない」など自分たちの生活、文化と比べ、途上国は「かわいそう」というイメージを持っている児童が多かった。

＜授業後＞
「ラオスや外国のことをもっと知りたい」「外国の人と話したり遊んだりして仲良くなりたい」とより関心が高くなった。教師が写った写真を見ることでより身近に感じるようであった。休み時間には外国のじゃんけんや「だるまさんがころんだ」をして遊ぶことが多く、本で調べて紹介する児童もいた。学習を進めていくうちに国によっての文化の違いは変なことではなく、おもしろいと思う児童が増えた。

【8】自己評価

1．苦労した点
国際理解の学習を行う上で、途上国に対して偏見を持たないようにするにはどうすればよいかを考えた。低学年に限らず、児童はメディアで取り上げられる情報がその国のイメージになっていることが多く、教師の言葉は影響を受けやすいのでラオスや途上国について教える際、言葉選び、資料選びを慎重に行った。

2．改善点
本時では、SDGsを取り上げて授業を行ったが、児童によってはイメージがわきにくく、学習理解に差が出てしまった。学校や家庭での具体的な取組を学んだ上で本時につなげてもよかったかもしれない。また、知識を学ぶだけでなく、実際に取り組んでみるなどの体験的な学習を含めるとより理解が深まると感じた。

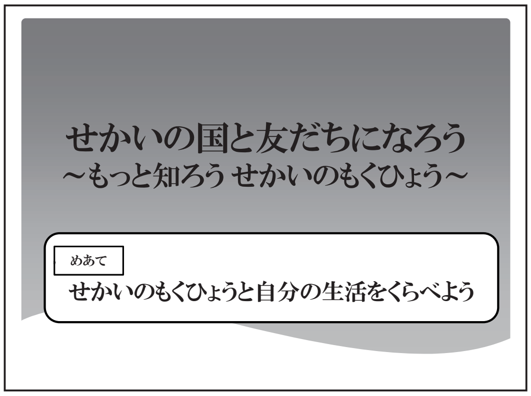
3．成果が出た点
ラオスを紹介する際、日本や自分たちの生活との共通点や相違点に着目して授業を進めたことにより、文化の違う国に対しても偏見なく受け入れようとする姿が多く見られた。また、ラオスの学校や子どもたちの生活、世界の遊びを紹介することで自分たちと比較しやすく、楽しさや驚き、共感を得ることで外国の文化を身近に感じたようであった。

4．備考
私自身、外国に行った経験が少なく、国際教育を行う際、知識や経験不足で不安であった。今回、教師海外研修に参加したことにより、知識や情報だけでなく、その背後にある人々の願いや工夫についても知り、児童に伝えたいと思うようになった。自身が実際に見て体験し感じたことで授業に対して前向きに取り組めるようになった。また、視点を広げて見れば、食事、遊びなどの身近な生活の中にも国際理解につながるものが多くあることに気づくことができた。今回の貴重な体験を大切にし、今後の実践に生かしていきたい。

【参考資料】

＜書籍＞
・「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」文溪堂　国谷裕子
・「世界の子どもの遊び 文化のちがいがよくわかる！」PHP研究所
・「世界がもし100人の村だったら」マガジンハウス　池田香代子　C.ダグラス・ラミス
・「日本がもし100人の村だったら」マガジンハウス　池上彰

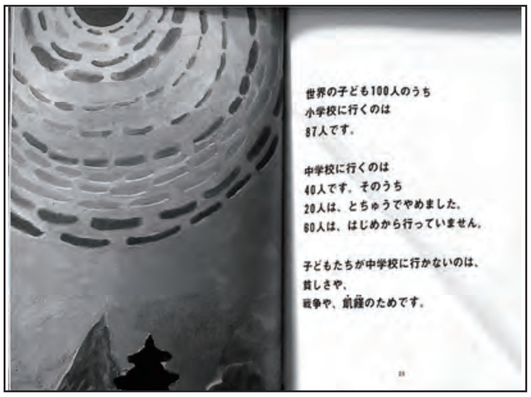
【資料1】本時授業スライド

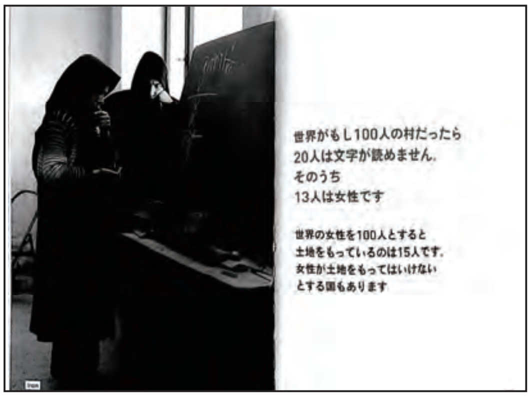


せかいにはもくひょうがあるよ！
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

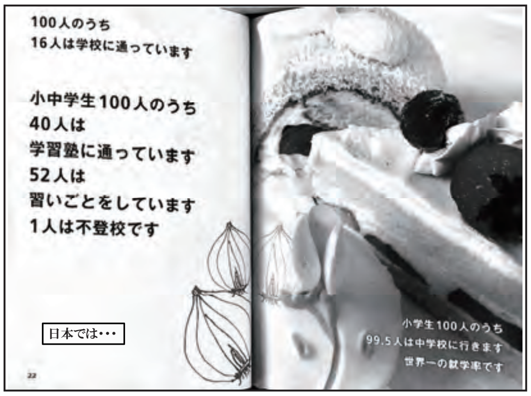
みんなで考えよう！
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

せかいがもし100人の村だったら
If the world were a village of 100 people
世界がもし100人の村だったら

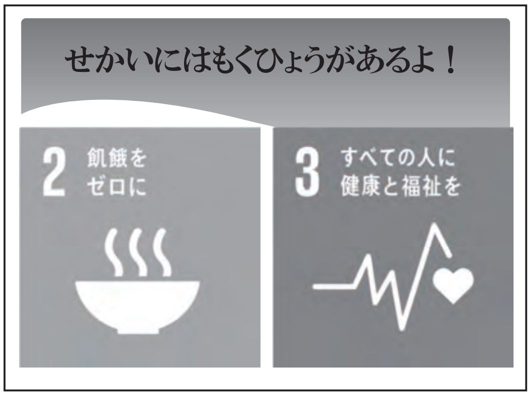

世界の子ども100人のうち
小学校に行くのは
87人です。
中学校に行くのは
40人です。そのうち
20人は、とちゅうでやめました。
60人は、はじめから行っていません。
子どもたちが中学校に行かないのは、
貧しさや、
戦争や、飢餓のためです。

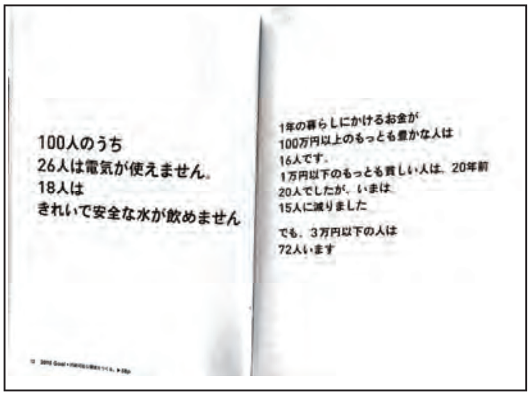

世界がもし100人の村だったら
20人は文字が読めません。
そのうち
13人は女性です
世界の女性を100人とすると
土地をもっているのは15人です。
女性が土地をもってはいけない
とする国もあります

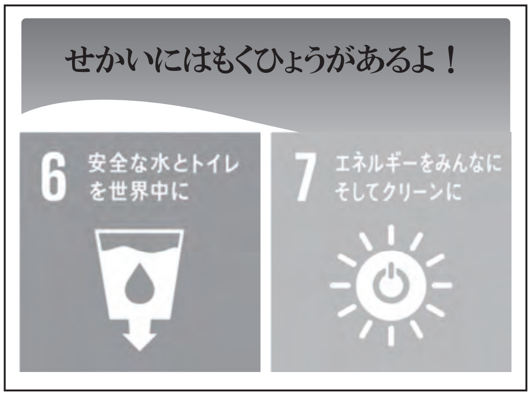
せかいにはもくひょうがあるよ！
4 質の高い教育を みんなに
5 ジェンダー平等を 実現しよう


100人のうち
16人は学校に通っています
小中学生100人のうち
40人は
学習塾に通っています
52人は
習いごとをしています
1人は不登校です
日本では・・・
小学生100人のうち
99.5人は中学校に行きます
世界一の就学率です

世界の子どもがもし100人だったら
31人は、栄養がじゅうぶんではなく
22人は、予防接種をうけられません。
8人は、5歳まで生きられません。
障害をもっている子は
7人です。


せかいにはもくひょうがあるよ！
2 飢餓を ゼロに
3 すべての人に 健康と福祉を


100人のうち
26人は電気が使えません。
18人は
きれいで安全な水が飲めません
1年の暮らしにかけるお金が
100万円以上のもっとも豊かな人は
16人です。
1万円以下のもっとも貧しい人は、20年前
20人でしたが、いまは
15人に減りました
でも、3万円以下の人は
72人います


せかいにはもくひょうがあるよ！
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

75人が
90人以上は貧しい国の人です
7人です そのうち
4人はアジアの人です

せかいにはもくひょうがあるよ！
13 気候変動に具体的な対策を

せかいのためにかつやくしている人！

せかいのためにかつやくしている人！

せかいのためにかつやくしている人！

せかいのためにかつやくしている人！

せかいのためにかつやくしている人！
JICA

まとめ
○せかいの国や人びとがしあわせになるためのもくひょうがある！
○もくひょうをたっせいするために、せかいのたくさんの人が力を合わせてとりくんでいる。
みんなができることはなにかな？

【資料2】本時使用カード（児童用SDGs理解）

まいにち
毎日ごはんを
た
食べることが
できる

びょうき
けがや病気のとき
びょういん　い
病院に行くこと
ができる

がっこう
だれでも学校に
かよ　べんきょう
通って勉強する
ことができる

だんじょかんけい
男女関係なく
べんきょう　しごと　やくわり
勉強や仕事、役割
ができる

の　みず　すいどう
飲み水や水道など
あんぜん　みず
安全な水が
つかえる

さべつ　なかま
だれも差別や仲間
はずれをされず
びょうどう
平等である

へいわ　あんぜん
平和で安全で
あんしん　せいかつ
安心して生活
できる

しごと
仕事ができ
あ　かね
それに合ったお金
がもらえる

せかいをしるって　おもしろい

氏　　名 ： 森　優美子
担当教科 ： 全教科
時 間 数 ： ６時間

学 校 名 ： 松山市立伊台小学校
実践教科 ： 学級活動・道徳・国語・総合的な学習の時間
対象学年 ： 1年生、6年生、教職員
人　　数 ： 25名（1年3組）

【1】単元のテーマ・目標

ラオスや他国の文化、人物、またその人物がもつ願いを知ることを通して、知ることの楽しさを体験し、他国からの視点で物事を考える態度を養う。また、様々なことを知ることで、やってみたい、行ってみたいという興味関心につなげたい。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	他国の文化やラオスに興味をもつことができる。 （学級活動、道徳、国語）
（イ）思考・判断・表現	疑問を見つけ、予想して考えることができる。 （学級活動、道徳）
（ウ）技能	他国の料理や遊び、考え方に触れ、似ているところや違うところを見つけることができる。（学級活動）
（エ）知識・理解	ラオスや他国の文化、人物、願いについて知る。 （総合的な学習の時間）

【3】単元設定の理由

＜児童観＞
本学級の児童25名（男子11名、女子14名）は、4月に小学校に入学してから様々な経験をして、視野が広がりつつある1年生である。しかし「外国」や「日本」という概念はまだはっきりもっていない。学校生活においては、アイルランド人のALTの先生のおかげで、日本語以外の言葉に触れることができ、自分たちと違う国があるということ、世界にはいろいろな国があるということを少し理解し始めた。日本と違うところがたくさんあるという認識はしているようである。

＜教材観＞
本単元では、「外国」の1つである「ラオス」を通して、子どもたちの「外国」への興味・関心を高めたい。さらに国際理解の第一歩として、まずはラオスと日本の違いを感じるところから「違うっておもしろい」「ラオスに行ってみたい」「ほかの国のことも知りたい」という気持ちをもたせたい。また、自分たちの生活と違うところだけでなく、似ているところにも着目させながら、ラオスと日本を考えていくようにする。

＜指導観＞
指導にあたって、児童がラオスのイメージをつかみやすいように、実物（地図、国旗、民族衣装、教科書など）や視聴覚教材を活用する。ラオスと日本との違いばかりに目を向けるのではなく、似ているところも見付けられるように、日本のことがわかるものも準備したい。そして、文化と伝統を尊重する態度を養いたい。

【4】展開計画（全６時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「教師海外研修報告」 対　象：教職員 ねらい：教師海外県研修の目的や研修内容、ラオスで体験したことを紹介することを通して、教師海外研修やラオスについて理解を深めることができる。	(1) ラオスの衣食住について、日本との相違点や類似点について知る。 (2) ラオスの抱える問題や世界では「SDGs」に取り組んでいることを知らせる。 (3) 谷川俊太郎「そのこ」の詩を聞き、私たちにできることを考える。	・実物 ・パワーポイント ・SDGs のプリント ・「そのこ」動画
2	「世界の国々とつながろう」 対　象：６年生 教　科：総合的な学習の時間 ねらい：外国には自分たちと違う暮らしをしていることを知ったり、その国の抱える問題点やそのために働いている人の生き方を考えたりする。	(1) ラオスの衣食住について、日本との相違点や類似点について知る。 (2) カードを使って、ラオスについてのクイズに答える。 (3) 海外協力隊の隊員と水道局勤務の日本人のインタビュー動画を見る。 (4) 授業の感想交流を行う。	・実物 ・パワーポイント ・クイズカード ・ふりかえりカード
3	「せかいのあいさつ」 対　象：１年生学年全員 教　科：道徳 ねらい：身近な行為である挨拶を通して、様々な人とコミュニケーションを取ろうとすることができるようになる。	(1) 日常の挨拶をする。 (2) 道徳の教科書「せかいのあいさつ」より、世界の様々な挨拶を聞く。 (3) ALT のブルース先生の紹介を英語で聞く。 (4) 外国の挨拶や話を聞いて、感想交流を行う。	・あいさつの地図 ・アイルランドのスライド ・ふりかえりカード
4 本時	「せかいをしるっておもしろい」 対　象：１年３組 教　科：学級活動 ねらい：ラオスの生活文化などを知り、外国への興味関心を育てる。	(1) 前時の道徳の時間の学習を思い出す。 (2) ラオスのスライドを見て、相違点や類似点を見付ける。 (3) ラオスクイズにグループで答える。 (4) 答え合わせをする。 (5) 学習の振り返りをする。	・実物 ・スライド【資料１】 ・絵本 「せかいのあいさつ」 ・クイズ ・ふりかえりカード
5	「せかいをしるっておもしろい」 対　象：１年１･２組 教　科：学級活動 ねらい：ラオスの生活文化などを知り、外国への興味関心を育てる。	(1) 前時の道徳の時間の学習を思い出す。 (2) ラオスのスライドを見て、相違点や類似点を見付ける。 (3) ラオスクイズにグループで答える。 (4) 答え合わせをする。 (5) 学習の振り返りをする。	・実物 ・パワーポイント ・スライド ・絵本 「せかいのあいさつ」 ・ふりかえりカード
6	「のりもののことをしらせよう」 対　象：１年３組 教　科：国語 ねらい：乗り物について、説明の文章を書く。	(1) 身の回りの乗り物について知る。 (2) ラオスの「トゥクトゥク」を紹介し、「やくわり」と「つくり」を知る。 (3) 外国にある乗り物に関心をもつ。	・写真 ・パワーポイント

【5】本時の展開

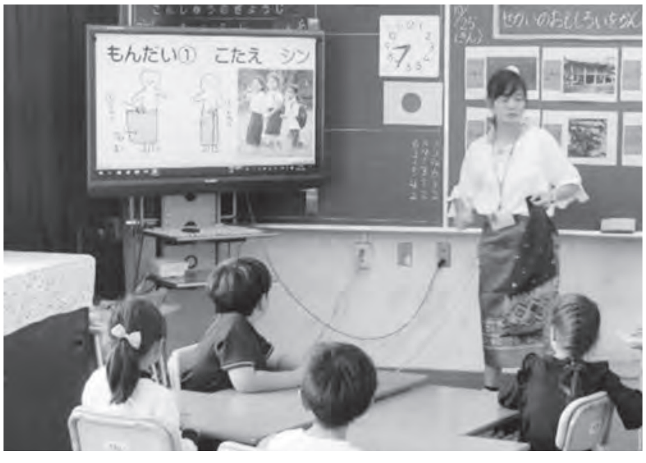
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5分）	1. 前時で学習した「せかいのあいさつ」を思い出す。	T：世界にはどんなあいさつがあったか覚えていますか？ ・道徳「せかいのあいさつ」の資料や「あいさつの地図」、絵本「せかいのあいさつ」の抜粋を使って思い出せるようにする。	・道徳教科書 ・あいさつの地図 ・絵本 「せかいのあいさつ」
展開 （25分）	2. ラオスの紹介映像を見る。	T:ラオスの「え〜？」を見つけてください。 ・日本との違いだけでなく、似ているところにも目が向くように声を掛ける。	・パワーポイント ・国旗
	3. ラオスに関するクイズをする。 （実物を入れた袋を６つの班に１つずつ渡す）	T: ラオスについてもっと知ってほしいので、班で協力してクイズに答えてください。 ・グループで話し合いながら答えを考えられるようにする。 ・実物を用意する。	・実物６つ ・ホワイトボード
まとめ （15分）	4. クイズの答え合わせをする。	T: 答え合わせをしてみましょう。 ・答えの○×だけに目が向かないように、ラオスの紹介にも注目させる。	・パワーポイント
	5. 今日のまとめをする。	T:今日の学習を通して感想を言いましょう。 ・教員がラオスに行って感じたことを聞くことを通して、外国に興味関心がもてるようにする。 ・児童の思いを共有できるようにする。	・ワークシート

【授業実践の様子】

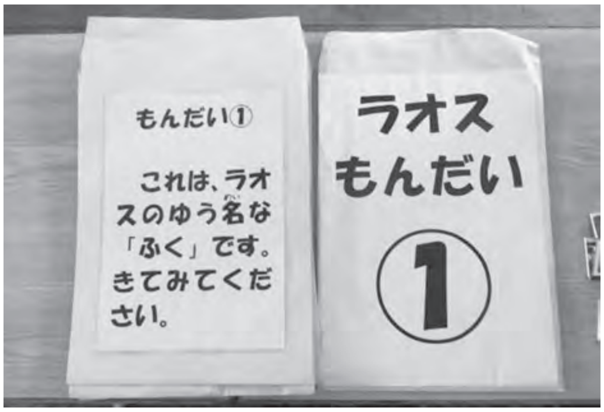
絵本「世界のあいさつ」を聞いている様子

ラオスの紹介映像を見ている様子

ラオスクイズに取り組んでいる様子



クイズの答え合わせをしている様子



ラオス問題袋

板書

【6】本時の振り返り

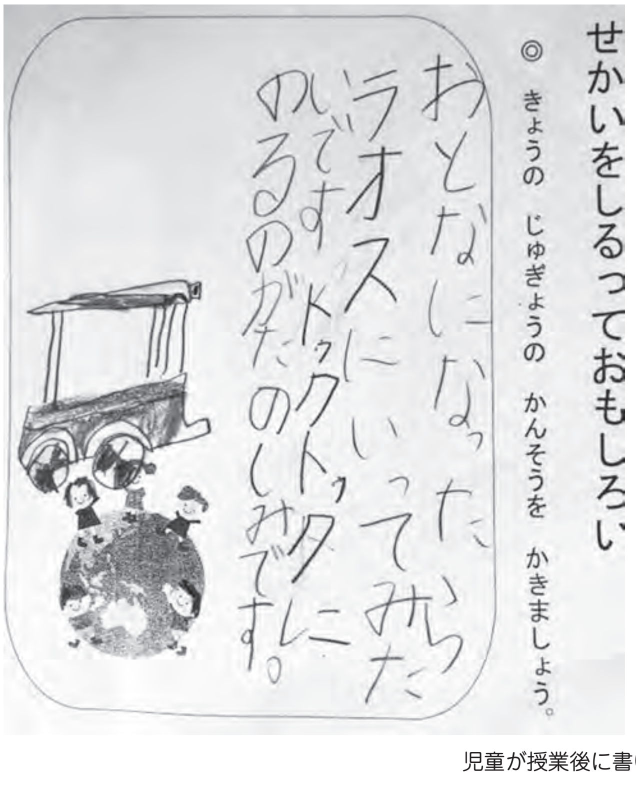
国際理解の最初の一歩として、「せかいをしるっておもしろい」を感じてほしいと考え、授業を考えた。前時の道徳「せかいのあいさつ」で、様々な言葉で「こんにちは」を聞いていたのと、ALTのブルース先生とアイルランドについて楽しく学習していたので、外国について関心をもった児童が多かった。

導入は挨拶を取り上げた。そして、ラオスの衣食住を中心に紹介をした。「貧しい国」「日本とは違う」という点ばかりが目につかないように配慮しながら写真や資料を選んだ。とても興味深く見ていた。

ラオスについてもっと関心をもてるように、体験しながらクイズを解くようにした。例えば民族衣装の「シン」は身に付けられるように、蚊帳は天井から吊り下げて中に入れるようにした。児童は、実物を触ったり、匂いをかいだり、かぶったりしながら体全体を使ってラオスを感じていた。

伝えたいことが多く、内容がもりだくさんだったので、授業の振り返りの時間が少なかったのが反省点である。しかし、児童から「大人になったらラオスに行ってみたい」「ラオスの料理を食べてみたい」「外国の勉強はおもしろい」という感想を聞くことができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化



児童が授業後に書いた振り返りシート

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

（1年生）
・世界地図を見て、「日本はどこ？」と聞く児童が増え、外国に興味をもつようになった。
・日本とラオスの国旗が似ていることから、外国の国旗に興味をもつ児童がおり、イラストを描いたり図書室で本を借りたりするようになった。
（6年生の感想より）
・「世界のことをあまり知らなかったけれど、いろいろな国をもっと知りたくなった」
・「世界には、裕福な国と貧しい国があるけれど、お互いが助け合うことが大切だと分かった」
・「ラオスの人々のために働いている日本人がいることがすごいと思った。ぼくも誰かのために動ける人になりたい」
・「ラオスの人は幸せそうに見える。自分の国に誇りをもって生きていきたいと思った」
・「将来、世界の人の役に立つ仕事につきたいと思った」

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞
1年生に「先生は夏休みに外国に行ってきました。どこの国でしょう」と聞くと、数か国は答えられたが、「ラオス」という回答はなかった。ラオスを知っている児童は一人もいなかった。世界地図を見せてラオスの位置を示しても、自分が住んでいる日本でさえ分からない児童もたくさんいた。

＜授業後＞
世界にはたくさんの国があり、「こんにちは」という挨拶がそれぞれの国の言葉で言われていることを知った児童たちは、それに興味をもち、「もっと知りたい」という思いをもつようになった。写真や動画でラオスの文化や生活の様子を紹介したことで、日本と異なるところや似ているところがあることを知った。遠い外国がとても身近なものになり、「大人になったら外国に行ってみたい」という児童が増えた。

【8】自己評価

1．苦労した点
伝えたいことがたくさんあり、何をどうやって伝えたらよいか悩んだ。また、自分がラオスで体験したことの中から、何を選択して授業に取り入れていくのがよいのか迷った。ラオスのことばかりに偏るのではなく、「外国の一つ」という意識で伝えたいと考えた。また、日本との「違い」ばかりに目が向かないようにした。

2．改善点
事前アンケート等を準備して、児童の意識の変容がより見えるようにしておくとよかったと感じた。また、ラオスを伝えることに時間を取りすぎてしまったので、クイズの内容や解説を精選して、振り返りに時間がかけられるようにしたい。
教師海外研修の前後で、開発教育の手法をいくつか学んだが、実際に低学年に取り入れることが難しかった。低学年用にアレンジしてみる必要を感じた。

3．成果が出た点
私自身がこの研修で学んだことが多すぎて、国際理解教育の最初の一歩として児童に何を感じてほしいのか、整理するのにとても時間がかかった。しかし国際理解教育に限らず、児童自身が「知ることは楽しい」「もっと知りたい」と感じることは、低学年の児童にとって大切なことではないかと考えた。その結果、「おもしろかった」「楽しかった」「ラオスに行ってみたい」「ラオスの大切なものが分かった」と感じた児童がいた。児童に

とってラオスが「知らなかった国」から「行ってみたい国」に変わったことは大きな成果だと考える。

4．備考

今年度、教師海外研修に参加することができて非常に有意義な時間を過ごすことができた。国際理解や国際協力に興味がありながらも、日々の業務に追われる毎日でなかなか始めの一歩が踏み出せずにいた。そんな中での今回の研修は、「チャンス」と思わせてくれたものだった。十日間という短い体験ではあったが、私にとっては一生忘れられない十日間である。学んだことや感じたことがたくさんあり、伝えたいことがたくさんある。この中から少しでも児童たちに伝え、そして自分自身にも生かせる教員でありたい。

【参考資料】

＜資料＞
・地図「世界の国からこんにちは」　JICA四国

＜書籍＞
・教科書「小学どうとく」
・絵本「せかいのあいさつ」　作：長新太（福音館書店）
・絵本「はがぬけたらどうするの？せかいのこどもたちのはなし」作：セルビー・ビーラー（フレーベル館）
・絵本「ポリぶくろ１まいすてた」　作：ミランダ・ポール（さ・え・ら書房）

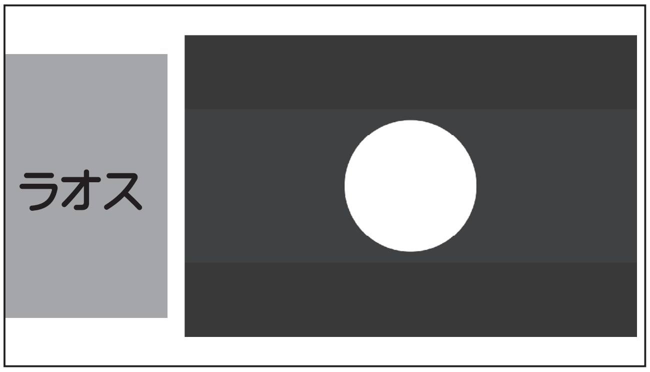
＜Webサイト＞
・谷川俊太郎「そのこ」

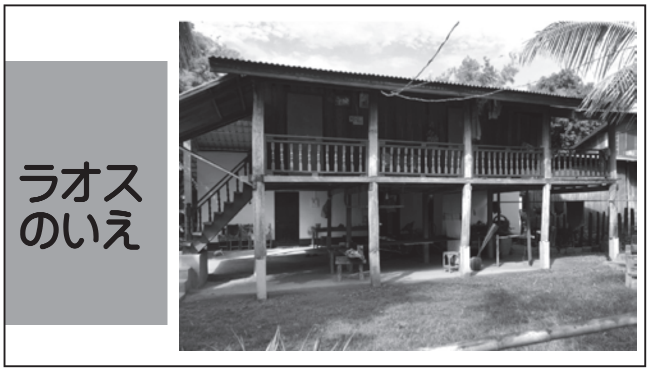
【資料1】本時授業スライド

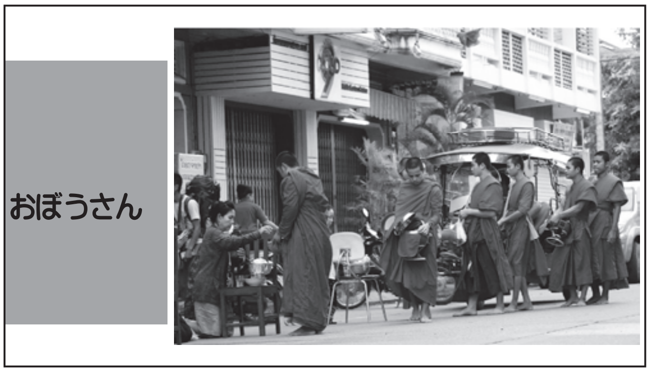
なつやすみにがいこくにいきました。どこでしょう？

ヒント

「こんにちは」を
「サバイディー」というくにです。







こたえあわせ

もんだい①　こたえシン

もんだい②　こたえ
もちごめ　カオニャオ

もんだい③
こたえ

さんすう

もんだい④
こたえ

セパタクローで
つかうボール

もんだい⑤　こたえ

三びきのこぶた

もんだい⑥
こたえ

かや
かにさされ
ないように
する

まとめ

① ラオスには日本とおなじところやちがうところがある。
② ラオスの人はあかるい。
③ せかいにはいろいろなくにがある。

ラオスでであったこどもたち

おわり

コープチャイ
（ありがとう）

他国を知るって楽しい！

氏　　名：関　悠夏	学 校 名：丸亀市立城坤小学校
担当教科：道徳	実践教科：道徳・総合的な学習の時間
時 間 数：５時間	対象学年：３年生
	人　　数：116人

【1】単元のテーマ・目標 ： 世界は様々なことを通して繋がっている

・SDGsを知り、ラオスを知る活動を通して、世界に意識を向ける。
・互いの国の相違点を実感する活動を通して、知らなかったことを知る楽しさを味わう。
・日本とラオスの共通点を見つける活動を通して、日本とラオスの繋がりを実感する。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	他国について興味・関心を高めている。
（イ）思考・判断・表現	他国の文化を知り、日本との相違点や共通点を見つけることができる。 共通点をもとに、なぜ同じであるのかを予想することができる。
（ウ）技能	ラオスと日本の相違点や共通点を見つけることができる。
（エ）知識・理解	持続可能な開発目標「SDGs」を知る。 ラオスの生活や言語、文化を知り理解することができる。

【3】単元設定の理由

＜児童観＞
　本校は、香川県の丸亀市に位置しており、外国人労働者の多い地域である。しかし、学校での国際理解の授業時数が少ないこともあり他国の人々や文化についての知識は乏しい。第２学年の生活科で他国の文化の学習をした際には、すしや焼き肉を中華料理という児童が複数いた。自分たちの生活の中にあるものが、日本独自のものであるのか、他国から伝わったものなのかを区別することも難しい。

＜教材観＞
　本単元は、児童が他国の人々や文化に興味や関心をもつことをねらいとしている。さらに、国際理解においても日常生活においても、真実を知るためには多くの情報を集め、1つの事柄を多面的に見ることが必要であることを知り、実践していく態度も養いたい。そのため、教師海外研修での実体験をもとに授業を構成し、児童の興味や関心に沿って授業を展開する。第1時から第5時にかけて、計画的にラオスの情報を提示することで児童の関心を継続させるようにする。加えて、多面的に見ることでより詳しく理解できることを実感させるようにする。机上での学習にとどまらず、様々なラオスの教材に触れる体験型授業を設定することで、国際理解・国際交流の楽しさや喜びを感じることができるようにする。

＜指導観＞
　日本と違う風景や食べ物の写真を提示することで、児童の意識が必然的に日本とラオスの相違点に向くようにする。そこで、ラオスの不発弾を取り扱った授業で、真実を知るためには、多くの情報を集めることが重要であ

ることを学習し、次時に繋げる。そして、日本とラオスの共通点を複数学習することで、ラオスを身近な国と感じられるようにする。多くの情報を知り、ラオスを多面的に見ることでラオスに対する意識が変化することを実感させる。さらに、日々の学級経営の中や、授業の導入の際など日常的にラオスなどの他国の話をすることで、児童の他国に対する興味や関心を高めたい。

【4】展開計画（全５時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	～持続可能な開発目標（SDGs）を知ろう～ ・ラオスで撮影した写真を見て、考え、解説を聞く活動を通して日本とは違う世界があることを知る。 ・写真から持続可能な開発目標を考える活動を通して持続可能な開発目標「SDGs」を知る。	・ラオスについて知る。 位置、言語、人口、面積、人口密度 ・ラオスの何の写真かを考える。 建物（空港・店）、乗り物（ジャンボ）、ポスト、食べ物（カエル）、人（お坊さん） ・写真から持続可能な開発目標を考える。 トイレ、飲み物、雨水を使った生活→6 ドンコー村の子ども、教科書、教員研修→4 教科書、ゴミ箱を覗く子ども、古い自転車→1 年の分からない子ども、病院→3 ・持続可能な開発目標「SDGs」の紹介 （事前に練習しておいた児童と一緒に紹介）	・衣装（シン） ・パワーポイント【資料１】 ・SDGs カード 1～17 ・ワークシート
2	～ラオスを知ろう～ ・日本とは違うラオスの一面を知ることで、日本とラオスは全く違う国であることを感じる。 ・日本のあたりまえとラオスのあたりまえは違って当然であると考え、他国の文化を尊重する心を育てる。	・みんなの道徳３年『アメリカから来たサラさん』を学習する。 他国の人となかよくするためには、文化や言語が違うことをあたりまえのことだと考える事が大事である。日本の事を教えるだけでなく相手の国の事を教えてもらったりして、お互いが親切に接することが大切だと考える。 ・広げようの学習として、ラオスのことを知る。 托鉢、優先座席（お坊さんも含まれること） ドンコー村の生活、食事（ティプカオ）	・衣装（シン） ・写真【資料２】
3	～ラオスの不発弾～ ・ラオスの不発弾についての知識を深める。 ・真実を知るためには、多くの情報を集める必要があることに気づく。	・不発弾とは何か、また、現在もラオスには不発弾が残っていることを知る。 ・不発弾に関する情報を1つ知り、感想を書く。 （情報は4種類あるが、1人1種類のみ配付する） ・感想を班で発表し合う。 （班内は同じ情報を配付しているため、感想は似ている） ・全体で感想を発表し合う。 （４種類の情報があるため、全く違った感想が出される） ・情報収集し、感想を書く。 ・不発弾の学習においても、日常生活（トラブル発生時）においても、真実を知るためには多くの情報を集めることが重要であると気づく。	・衣装（シン） ・不発弾の情報【資料３】 ・ワークシート

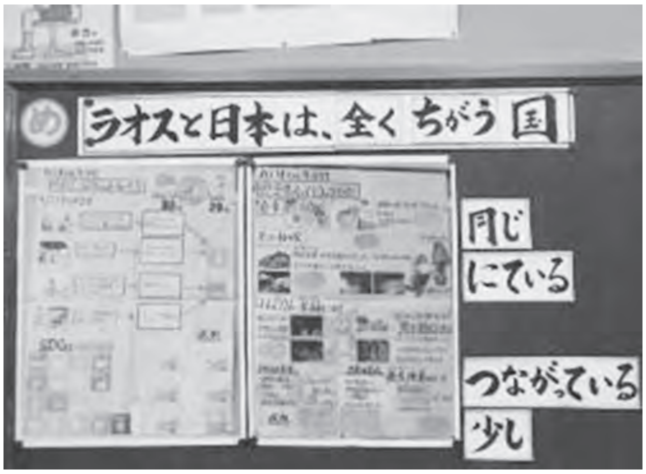
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4 本時	～本当にラオスと日本は、全く違う国？～ ・ラオスと日本は、共通点も多くあることを知りラオスを身近な国と感じられるようにする。 ・多くの情報を知ることでラオスに対する意識が変化することを実感させる。	・既習のラオスと日本の違いを振り返る。 ・ラオスと日本は（　　）（　　）国 （選択肢→全く・同じ・似ている・違う・繋がっている・少し） ・ラオスで撮影した漢字や鳥居、侍の写った写真①を見て、日本と関係のあるものを見つける。 ・ラオスで撮影した７枚の写真②～⑧を見て、班で日本との繋がりや共通点を見つける。 ・まとめを書く。 ラオスと日本は（　　）（　　）国 （選択肢→全く・同じ・似ている・違う・繋がっている・少し）	・写真①～⑧ 【資料４】 ・ワークシート ・京都市のバスの写真 ・ビエンチャンバスの動画 ・草の根技術協力事業「丸亀うちわ」の動画
5	～ラオスの文化を五感で感じよう～ ・ラオスの文化をより理解し身近なものと感じる。 ・互いの国の文化の違いを改めて実感し、どちらも素敵な文化だと認め合うことのできる心情を育てる。	・班でラオスのクイズラリーを進める。 （文字・お茶・新聞・不発弾などに関するクイズ） ・振り返りを書く。	・教材 ・ワークシート 【資料５】

【5】本時の展開

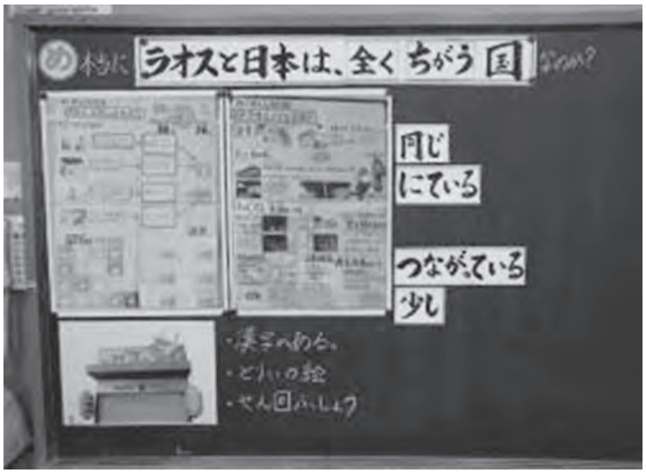
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （13分）	既習事項を確認する。	既習事項を想起しやすいように、まとめた模造紙を掲示する。 ラオスと日本が全く違う国であると意識するように、ラオスと日本の違いを確認する。 「ラオスと日本は［　］［　］国」	第１時、第２時のまとめの模造紙 写真①
	ラオスで撮影した写真（漢字・鳥居・侍のイラストが写っている）を見て、気づいたことを発表する。	児童が自発的に日本との繋がりに気づき、不思議に思う感情が自然と芽生えるよう、「気づいたことある？」の発問のみにとどめる。 課題意識をもって学習に取り組めるように、児童のつくった文をめあてにする。 「本当に［ラオスと日本は全く違う国］なのか？」	選択肢カード ［全く］［同じ］［少し］ ［似ている］［違う］ ［繋がっている］ ワークシート
展開 （22分）	写真②～⑧を見て、気づいたことを班でまとめる。	児童の活動をしたいという気持ちを活かすために、最小限の説明にとどめる。 円滑に班ごとの発表が行われるように、どの写真を発表するか机間指導を行いながら指示しておく。	写真②～⑧ （班活動用） （板書用）
	班ごとに発表を行う。	写真のどの部分を指しているのか分かりやすいように板書用として矢印を用意しておく。	矢印（板書用）
	ビエンチャンバスと丸亀うちわの動画を視聴する。	京都市のバスとビエンチャンバスの写真を提示し色などが似ていることに気づかせる。	京都市のバスの写真

まとめ (10分)	各個人でまとめを行う。 まとめと理由を発表する。 国旗を動かす。	めあてとの繋がりをもたせるために基本となる文は変えずにまとめを書くことができるワークシートを用意する。 「ラオスと日本は□□国」 児童の気持ちを視覚化するために、日本の国旗の場所をラオスの国旗の方へ移動させる。	 選択肢カード 全く 同じ 少し 似ている 違う 繋がっている

【授業実践の様子】



授業前の児童の意識



めあて

めあてと繋がったまとめ

板書

【6】本時の振り返り

児童の印象に残る取り組みにしたかったため、第1時・第2時にはラオスと日本の相違点を多く伝えた。そうすることで、本時の授業がより効果的になると考えたためだ。やはり、児童は「ラオスと日本は全く違う国」だと感じていたため、写真①を見せると多くの児童が困惑していた。しかし、その課題意識をもとにして班活動を行ったため、活発に班活動を行うことができた。まとめでは、めあてと同じ文を提示したが、全ての児童がめあてとは違った言葉を選んでおり、ラオスに対する意識が変化したことが見て取れた。

ラオスを取り扱った授業の中では、児童の感情を揺さぶりたいと考えていた。そのため、計画的に情報を提示していった。本時が終わった後には、多くの児童が「もっとラオスに行ってみたくなった！」「日本と繋がっていて嬉しい！」などの肯定的な感想を述べていた。ビエンチャンバスの動画や草の根技術協力事業「丸亀うち

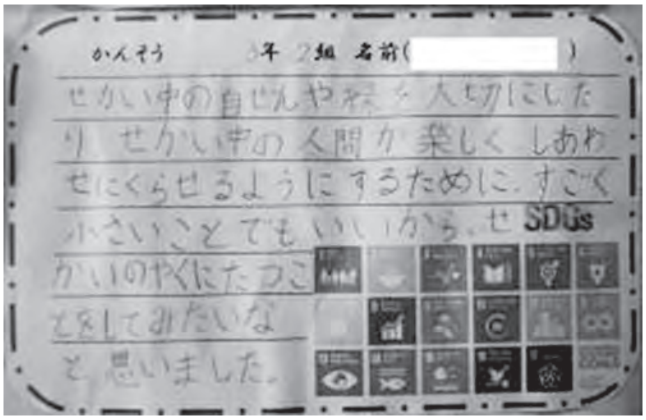
わ」の動画を視聴する際にも、「授業でならった優先座席や！」「丸亀うちわと作り方が同じや！」などの肯定的な発言が多く、今までに行ったラオスの授業や総合の授業が児童の中で繋がっていく様子がみられた。

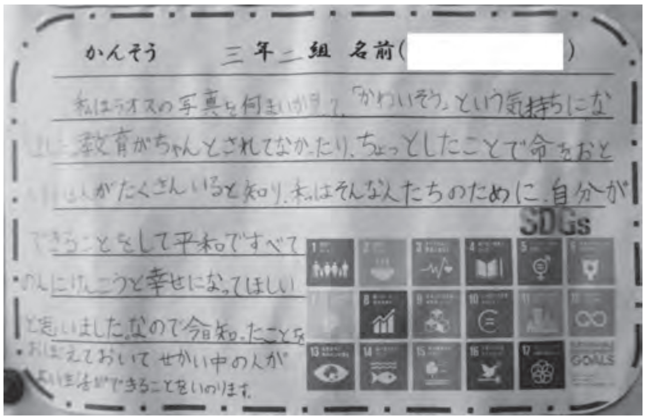
また、児童の振り返りには「ラオスと日本の違いを勉強したり、同じところを見つけたりして楽しかった！ラオスの授業はワクワクする」というものがあり、今後も、国際理解をねらいとする学習に積極的に取り組むことができるように感じた。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

第1時　～持続可能な開発目標（SDGs）を知ろう～

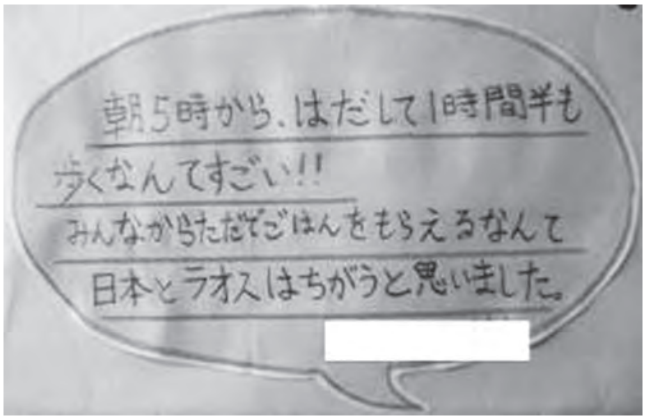
日本（自分たちの実生活）と違うところが多いラオスの写真を見て、驚く児童が多かった。ラオスの文化を少し知ったが「かわいそう」「お箸を使った方がよい」などの感想もあり、他国の文化を素晴らしい文化の1つと認めることは難しいようであった。また、持続可能な開発目標（SDGs）を学習し、自分たちにできることをし、世界中の人が幸せになってほしいという振り返りも多くみられた。

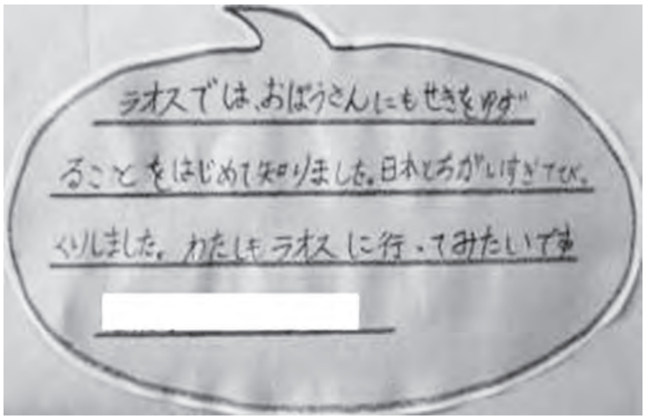


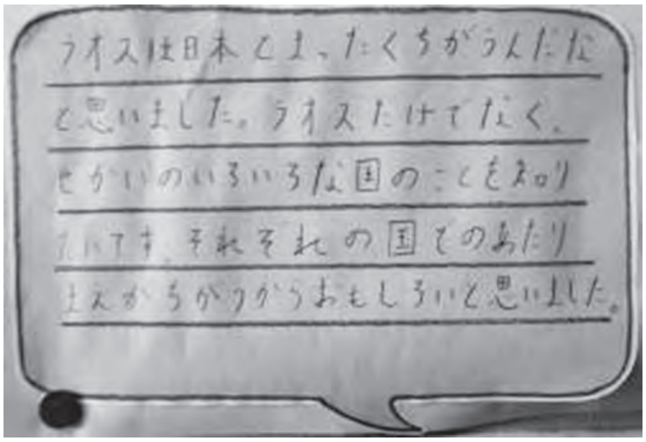


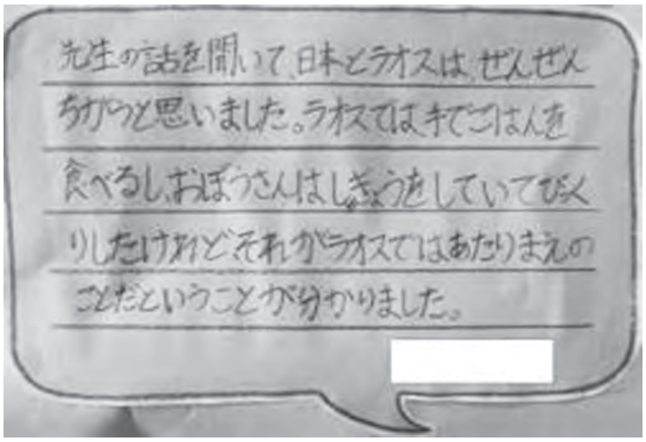
第2時　～ラオスを知ろう～

托鉢や食生活の話を聞いて驚き、日本と違う文化を知ることの楽しさを感じているようだった。ラオスと日本は全く違う文化であるという意識が強くなった。







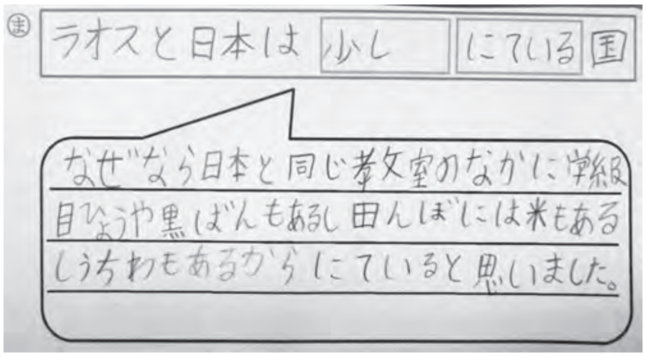


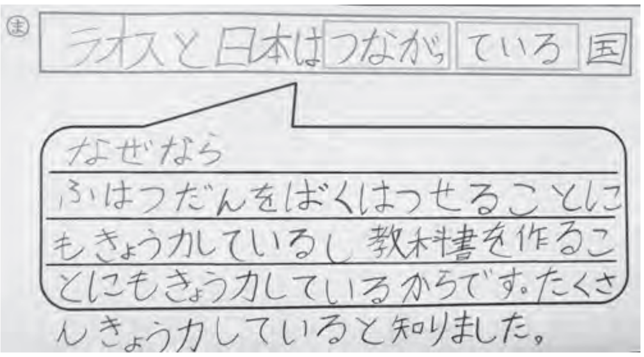
第3時　～ラオスの不発弾～

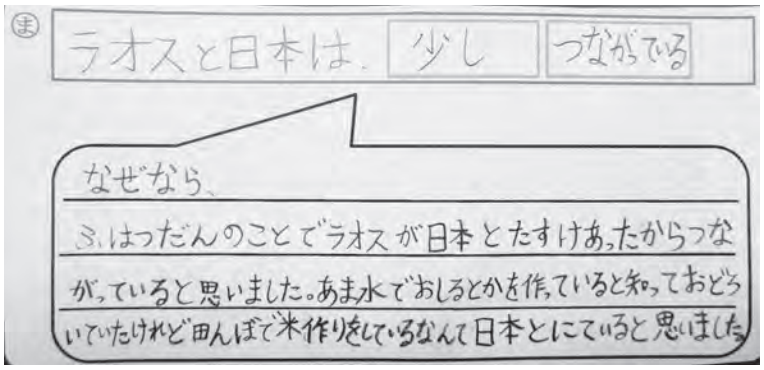
授業の導入の際には、「ラオスには不発弾があってこわい」「不発弾で怪我をした人がかわいそう」という発言があった。しかし、授業が進み、不発弾に関する情報を収集するうちに、「今は安全になってよかった」「日本が協力していて、すごいと思った」「永田さんみたいに世界の役に立ちたい」などの発言に変化した。

第4時　～本当にラオスと日本は、全く違う国？～

ラオスで使用されている算数の教科書の写真やドンコー村の田んぼ（米作り）の写真を見て、日本と似ているところがあることに気づいていた。さらに、ビエンチャンバスの動画や草の根技術協力事業「丸亀うちわ」の動画を視聴して、ラオスと日本やラオスと丸亀の繋がりを実感していた。

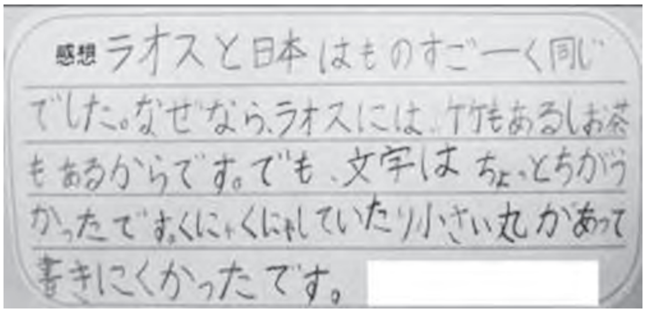


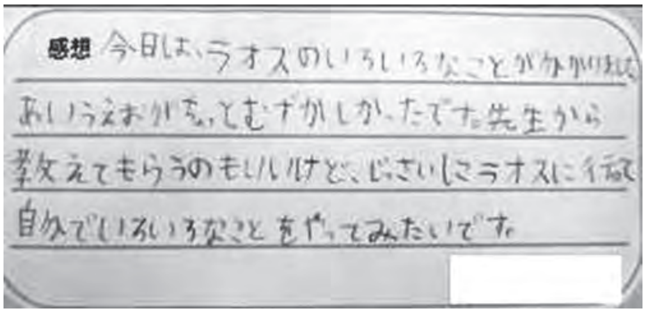


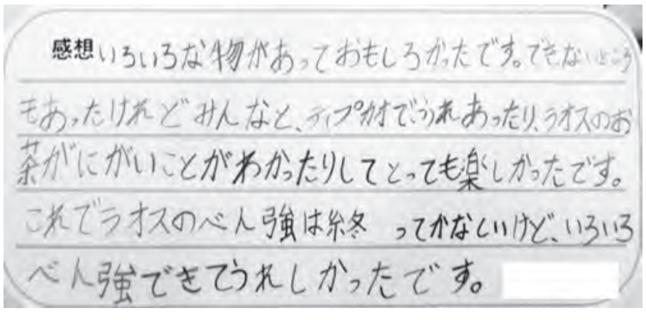


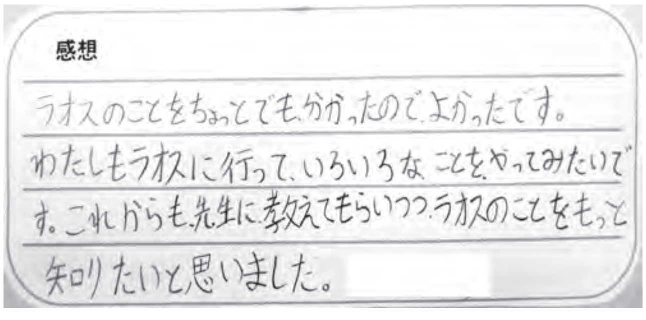
第5時　～ラオスの文化を五感で感じよう～

ラオスの文化（教師がラオスで収集した教具）を五感を使って感じていた。教師の話を聞くだけでは感じ取れない部分まで、児童が感じ取っていた。









【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

・ラオスという言葉に敏感になった。取り組み期間中に、香川県にサーカスの団体が来ており、多くの児童が見に行っていた。そのショーに登場する象がラオスから来た象であり、ショーのなかで「ラオスから来た象さんです。サバイディー」というアナウンスがあったことを児童が嬉しそうに教えてくれた。
・サバイディーやコープチャイ、コープチャイライライなどの挨拶を学習しても、はじめは抵抗があったのか進んで言う児童は、ほとんどいなかった。しかし、今では、教師がプリントを配布するときや児童同士で会話をしているときに、コープチャイライライなどの言葉が飛び交っている。さらに、手を合わせる仕草も合わせて行う児童が多くなった。
・節水や節電、トイレのことに関してSDGsを口にする児童が増加した。
・SDGsを廊下に掲示しているが児童にとって詳しく分からないものがある。そのため、希望者を募って放課後にSDGsの勉強会を開き、補足説明を書いた掲示物を作成することにした。はじめは、難しい言葉の意味を教師に聞き、自分たちにできること・自分たちの生活と関わりのあるところは、教師のヒントをもとに書いていた。しかし、回数を重ねるごとに、自分たちで辞書を使って調べて生活に落とし込めるようになった。

放課後の様子

作成した掲示物

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞
・途上国という言葉や意味を知らなかった。
・他国の文化の学習も第1学年、第2学年で行ってはいるが、他国の文化を素晴らしい文化の1つであると認める段階には及んでいなかった。
・本などで途上国の写真を見たりはするが自分の生活とは繋がっておらず、同じ地球上のことだと知ってはいるが理解できていない児童が多かった。

＜授業後＞
・ラオスの文化（他国の文化）を素晴らしい1つの文化として認めることができた。
・文化が異なるため、常識が異なることはあたり前であり、他国からすれば日本もまた異文化となることが分かった。
・他国の文化を知ることの楽しさを実感し、もっとラオスの文化や他の国の文化を知りたいという感情が芽生えた。
・学級の転校生（ペルー人）に対しての接し方が少し優しくなった。全体での音読の際に、読み方の分からない漢字を小さな声で教えてあげるようになった。

【8】自己評価

1．苦労した点

・世界（他国）のことを考えた経験が少ない児童に対して、分かりやすい授業をするために、伝える情報を厳選し、言葉を変換し、かみ砕いて、少しずつ授業を行うように心がけた。

・児童の印象に残る取り組みにしたかったため、情報の伝え方や伝えるタイミングを工夫した。授業だけでなく、朝の会や休み時間に話すことも計画しておいた。

2．改善点

・情報を厳選するあまり、紹介しきれていない写真や話が多く残ってしまった。

・第３時の不発弾を取り扱った授業は、道徳として行ったため、まとめは「真実を見つけるためには多くの情報を集めなければならない」としたが、振り返りは、友だちから他の子の悪口を聞いたときなどを例に挙げ、児童の実生活に関係することで書くように指示した。しかし、不発弾の学習のまとめを実生活に変換することが非常に難しかったように感じた。道徳の価値にせまる教材というよりは、国際理解の教材としての価値の方が高いと感じた。

3．成果が出た点

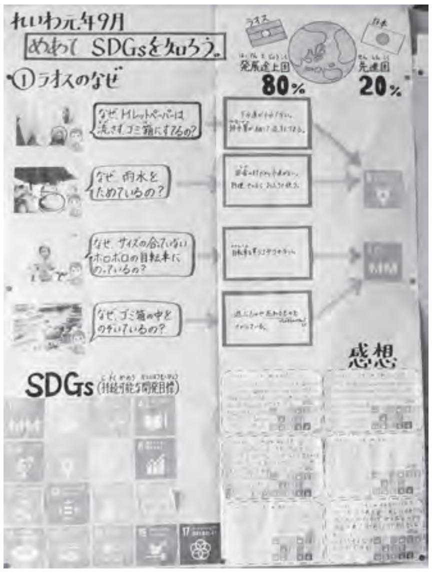
・本学級の児童にとって国際理解を重点的に行う取り組みは初めてであった。そのため、ラオスを取り扱った取り組みが楽しいものであり、肯定的な意識をもつことで、今後の国際理解教育に対する児童の意識がよくなると考えた。児童が楽しく授業に参加できるように、難しすぎる内容にならないように心がけた。その結果、「もっとラオスの授業をしてほしい！」「いろいろ知ることができて楽しかった！」などの感想を得ることができた。

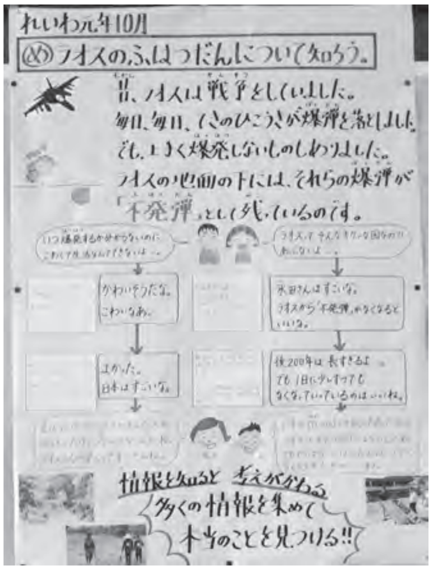
・第１時の授業後に、ラオスと日本の国旗を作成し、教室内に設置した。糸で繋がっており、国旗の場所を自由に動かすことのできるものである。これは、児童の意識を具体化（視覚化）したものであることを説明し、第１時は、少しラオスのことを知っただけであったため遠いところにセットした。第５時が終わった際に「国旗どうする？」と聞くと「日本をラオスに近づける。でも、くっつけない！」という返答であった。理由を聞くと「日本の人（児童）がラオスのことを知ったから」「ラオスのことを全部知ったわけではないから」「先生から聞くだけでなく、行ってみないと分からないから」と述べていた。第３時や第４時で学習したこと（真実を見つけるためには多くの情報を集めなければならないこと）を踏まえた発言であり、学習の積み重なりを実感した。

・今回の取り組みは、本学級の児童に対する授業が多かった。しかし、他の学級の児童にもラオスのことを知ってほしいと考えた。そこで、授業ごとに模造紙に内容をまとめた。すると、他の学級の３年生はもちろん、他学年の児童からも声をかけられることが多々あった。（次ページ参照）

〈第1時終了時〉

〈第5時終了時〉





4. 備考

今回の取り組みは、本学級の児童にとって他国の文化を知る第一歩となった。自分の生活圏や住んでいる都道府県での思考にとどまっている児童にとって、ラオスは、全く知らない国であり全く考えたこともないところからのスタートであった。しかし、授業中の活動を増やすことで楽しく知識を増やすことができたように感じる。国際理解教育、開発教育の楽しさを少し伝えることができた。私自身も、児童に伝えることの楽しさを改めて感じることのできた取り組みであった。私自身も本研修で多くの事を学ぶことができた。貴重な経験をさせていただいたことを心より感謝している。

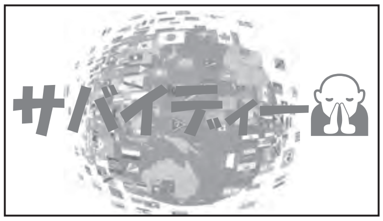
【参考資料】

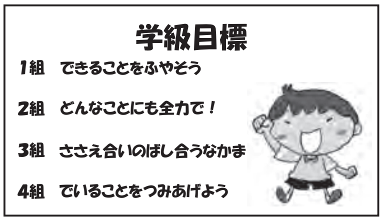
<Webサイト>

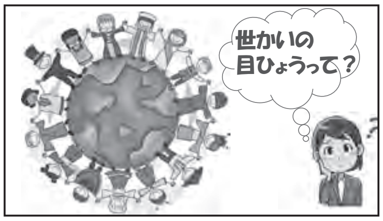
・「ラオス ビエンチャン 日本のバスが走る 京都市交通局 市バス 座席や右側に追加のドア
　　－Japanese Kyoto Bus in Vientiane Laos－」
　（https://www.youtube.com/watch?v=bcNKkuUeP4k）

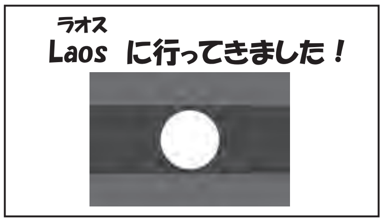
・「草の根技術協力事業『丸亀うちわ』」の動画（Kagawa Uchiwa Promotion）
　（https://www.facebook.com/jicalaos/videos/kagawa-uchiwa-promotion/1978726772392209/）

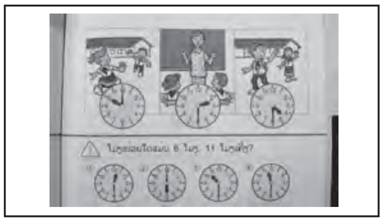
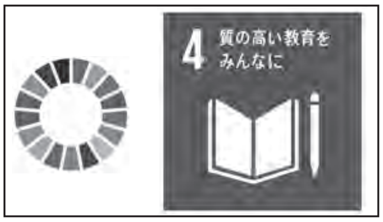
【資料１】第１時使用パワーポイント

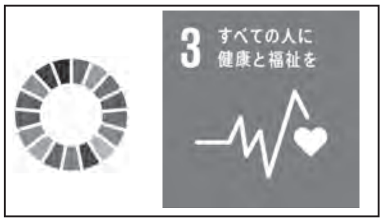










【資料２】第2時使用写真

【資料３】第3時使用「不発弾の情報」

広島県の永田さんがふはつだんを安全にばくはつさせて、なくならせるシステムを作った。

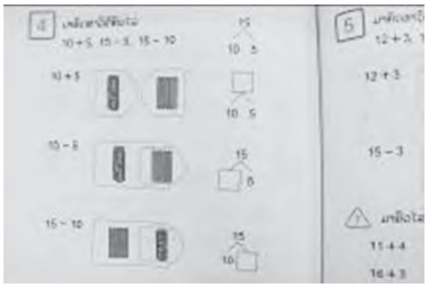
毎日少しずつ安全にばくはつさせて、なくならせている。だけど、数が多すぎて全部なくならすのに、後２００年かかる。

前は、ふはつだんで、けがをした人もいた。今は、日本がたくさん手伝いをして、けがをする人はほとんどいなくなった。

ふはつだんで、けがをした人が何百人い上いる。手や足がなくなってしまった。

【資料４】第4時（本時）使用写真

①

②


③

④

⑤

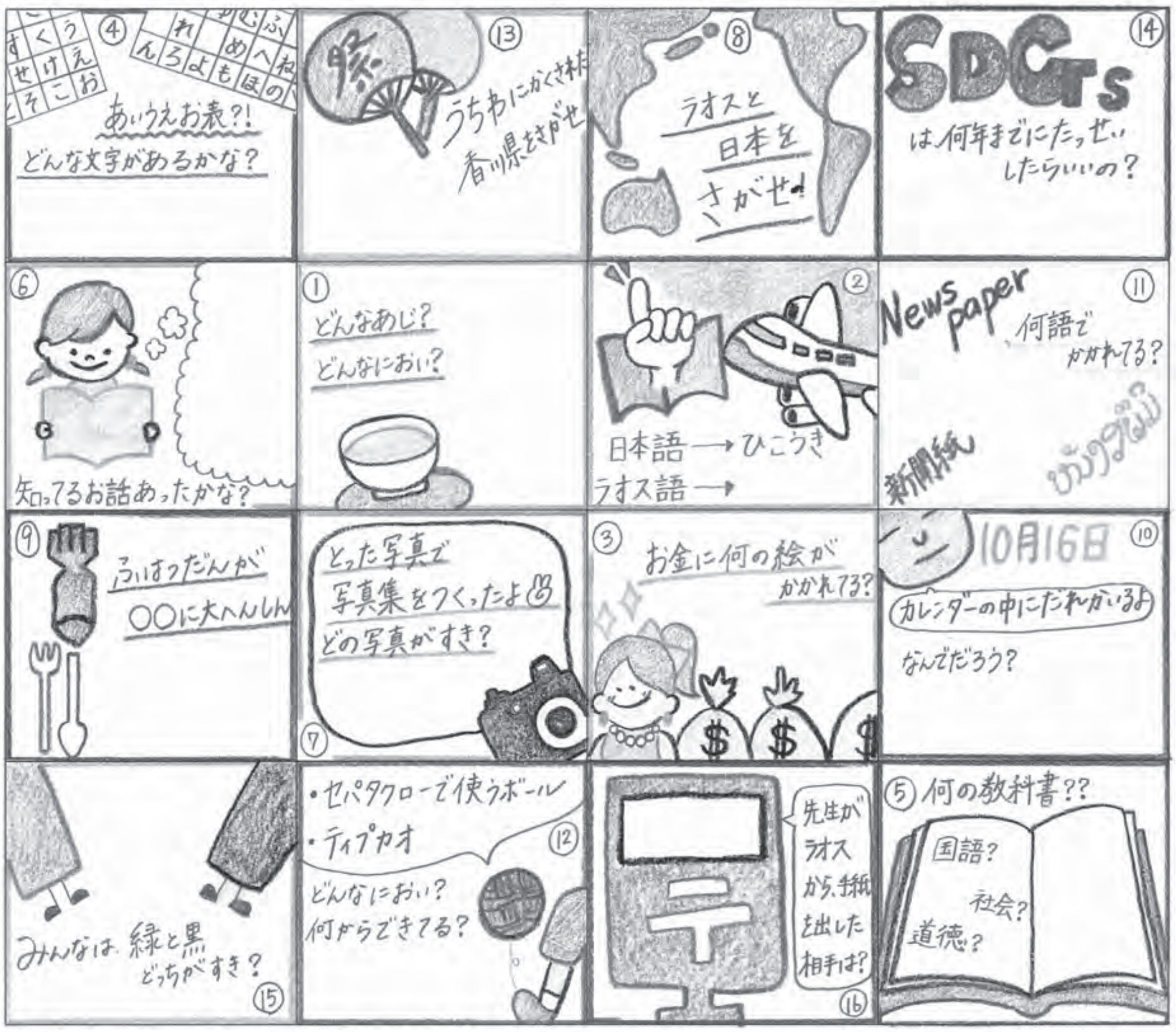
⑥

⑦

⑧

月　　日　名前（　　　　　　　　　　）

めあて：ラオスの文化を五感で感じよう！



感想

What’s this?　世界の国のクイズ大会

氏　　名 ： 橋田　佳子
担当教科 ： 外国語活動・外国語科
時 間 数 ： ４時間

学 校 名 ： 高知市立はりまや橋小学校
実践教科 ： 総合的な学習の時間
対象学年 ： ４年生
人　　数 ： 65名

【1】単元のテーマ・目標 ： 世界を通して日本を知ろう！

世界の国の衣食住や挨拶、文化等を調べる探究的な学習に主体的・協同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	自分たちが調べることについて、進んで知ろうとしている。
（イ）思考・判断・表現	調べたいことについて考え、選択し、分かりやすく伝えている。
（ウ）技能	本などを使って調べ、相手に分かりやすくまとめている。
（エ）知識・理解	外国について書いてある情報を的確に読み取っている。

【3】単元設定の理由

＜児童観＞

本学年の児童は、1年生の頃から週1回、3年生からは週2回の外国語活動に慣れ親しんでいる。主に英語圏のALTとの関わりを多く楽しんでいる。英語圏以外の外国からの方をゲストに迎えることも時々あるが、元気に挨拶したり、たくさん質問したり知らないことへの知的好奇心は高い。しかし、外国に対する知識はまだまだ少なく限られており、特に途上国については、まだ存在すら知らない児童がほとんどである。

＜教材観＞

本単元は、総合的な学習の時間において、児童がラオスという1つの国の外国の文化を知ることから、他の知らない国に興味を持ち、その衣食住などについて、自国である日本と結びつけながら調べる。そうすることで、その多様性や面白さを感じ、児童が新たな視点を持ち、更にもっと知りたい、いつか行ってみたいという気持ちに繋がるのではないかと考えた。

＜指導観＞

そこで、指導にあたっては、まずあまり知らない外国に興味を持つきっかけを作ることを考えた。指導者が夏季休業中に行ったラオスの国旗や教科書、紙幣や民芸品などを英語ルーム前に掲示して、自由に手に取れるようにした。そしてラオスの写真や動画等を使ったプレゼンテーション等を作り、クイズ等で興味を持たせながら、知らなかった国について知っていくことの楽しさを味わわせたい。そこから、自分たちの興味を持った国の衣食住や学校等について、日本との共通点や相違点という視点から調べてまとめ、伝え合う活動を行いたい。そして、その活動を通して、改めて日本と言う国を自ら見つめ直し、いつか自分や友だちが調べた国に行ってみたいと思い、実際に行って自分の目で見て感じて、何らかの前向きな行動がとれる大人になってほしいと願っている。

【4】展開計画（全４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	ラオスという国を知ることから、外国に興味を持つ。	①指導者の話を見聞きし、感想を伝え合う。 ②日本と比べながら、自分たちが興味を持った国の衣食住等を調べるための計画を立てる。 ③計画を伝え合う。	・具体物 ・写真、動画 ・プレゼンテーション【資料１】 ・ホワイトボード ・マーカー ・振り返りカード
2	自分たちが調べようと思った国について図書館資料等を活用して調べ、クイズにする。	①自分たちが調べる国についてグループで協力して調べる。 ②発表に必要な情報をまとめる。 ③クイズ形式にし、答え方を三択にするなど他の児童が全員参加できる工夫をする。	・図書館資料 ・ホワイトボード ・マーカー ・振り返りカード
3	自分たちが調べた国について、クイズにしてクラスで発表する。	①発表に必要な情報をボードにまとめる。 ②できたグループからより伝わるような発表の仕方を考え、行う。 ③中間評価でよりよい発表の仕方を考える。	・図書館資料 ・ワークシート ・ホワイトボード ・マーカー ・振り返りカード
4	自分たちが調べた国について、クイズにして学年で発表する。	①発表の最終リハーサルをする。 ②学年で最終発表をする。 ③単元全体を振り返る。	・図書館資料 ・ワークシート ・ホワイトボード ・マーカー ・振り返りカード【資料２】

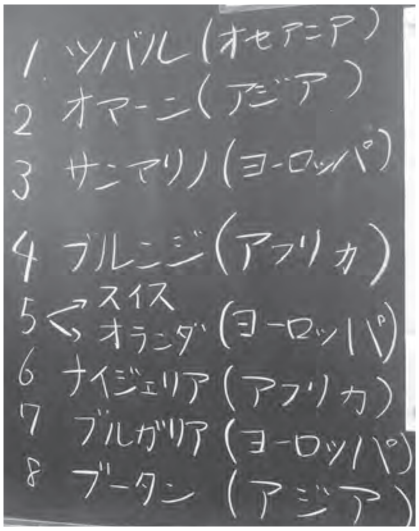
【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （15分）	1　指導者の話を聞く。 ○プレゼンテーションを見る。 ○不発弾処理の音を聞く。 ○シンの衣装を着てみる。 2　感想を伝え合う。 ○ラオスの紹介を聞いて、素直なつぶやきの反応をしたり、感想を発表し合ったりする。	・写真や実物、パワーポイントを使って、ラオスという国の衣食住などの文化を紹介することで、ラオスを知ることから、外国に興味を持つようにする。 ・ラオスという国が途上国というステレオタイプな印象だけで終わらないように気をつける。	・具体物 ・写真、動画 ・パワーポイント

展開 （20分）	3　班で調べたい国を決める。 〇班の代表１名がくじを引いて、調べる地域ごとの本を決める。 〇本の中から班で話し合って１つ調べたい国を決める。 〇ホワイトボードに調べたい国名を書く。 〇どんなことを調べてクイズにしたいかを考える。 4　決まった国と、どんなことを調べたいかなど、話し合ったことを発表して伝え合う。	・グループの中で個人の意見を出し合い、話し合って意見をまとめる過程を大切にさせる。 ・日本と比べながら、自分たちが興味を持った国の衣食住等を調べるための計画を立てる。 ・話し合ったことやこれからの計画を伝え合う。	・図書館書籍 ・ホワイトボード ・マーカー
まとめ （10分）	5　振り返りを行う。	・振り返りカードを記入し、感想を伝え合う。 ・よかったところを評価し、次時の予告をして、単元ゴールまでの見通しを育てる。	・ホワイトボード ・振り返りカード

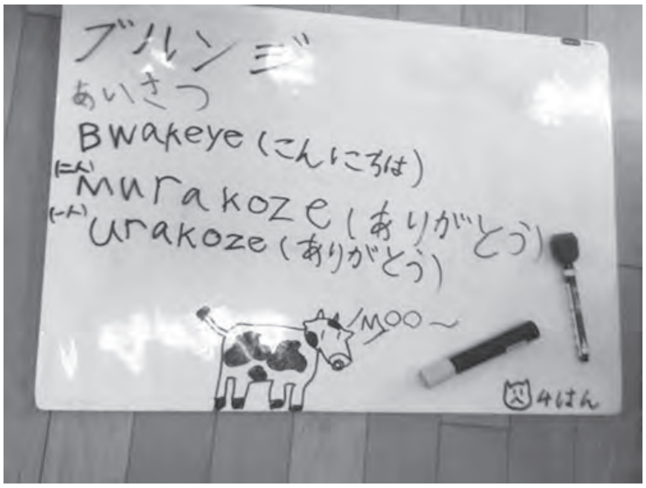
【授業実践の様子】

教室の入り口におかれたラオスの紙幣や民芸品



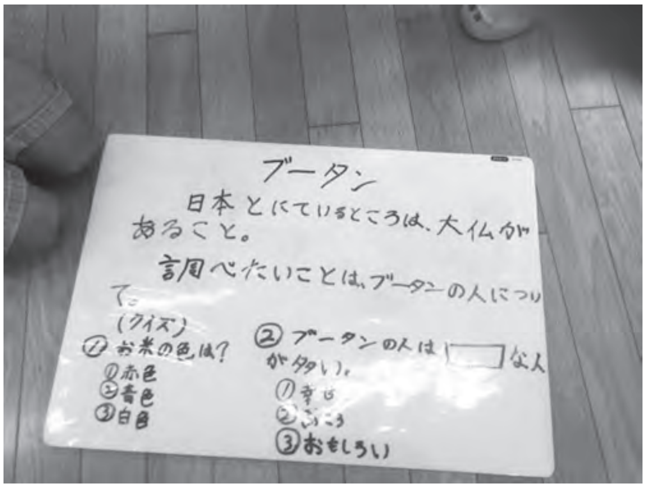
子どもたちが調べてみたいと選んだ国々

ラオスのWhat’s this？クイズにチャレンジする児童



子どもたちが調べて知ったあいさつの言葉

グループに分かれ、知らない国について調べ
クイズを作る児童



子どもたちが調べて考えた国クイズ問題

【6】本時の振り返り

　ラオスの紹介に対する児童の見方・聞き方が普段と比べても大変よかった。素直なつぶやきや反応が聞かれたり見られたりしたのがとても嬉しかった。シンという民族衣装の巻きスカートを男子が進んで身に着けてくれて、クラス全体の授業の雰囲気がとても和んだ。

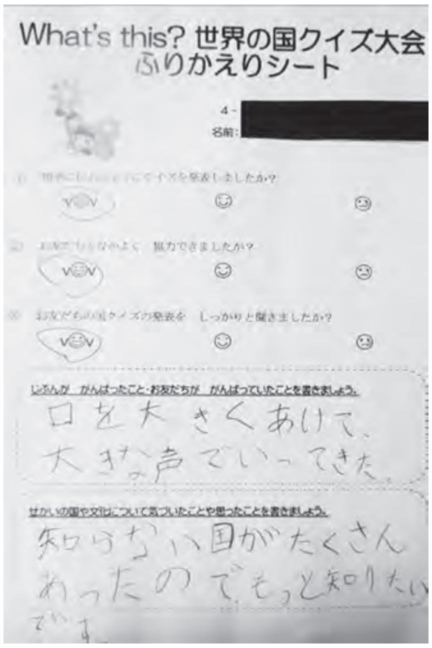
　くじで引いた本の中から、興味のある国調べの際、担任が「あまり知らない国を調べてみよう」と声をかけてくれたおかげで、2クラス16班あるなか、1つも重なることなく17か国（1班で2か国調べた班あり）調べることになった。1つ下の3年生では、国を決める際に少しトラブルやケンカになったが、4年生ではグループで上手に話し合いを進めながら決めていたので、9歳から10歳というこの1学年の差はさすがだなと思った。

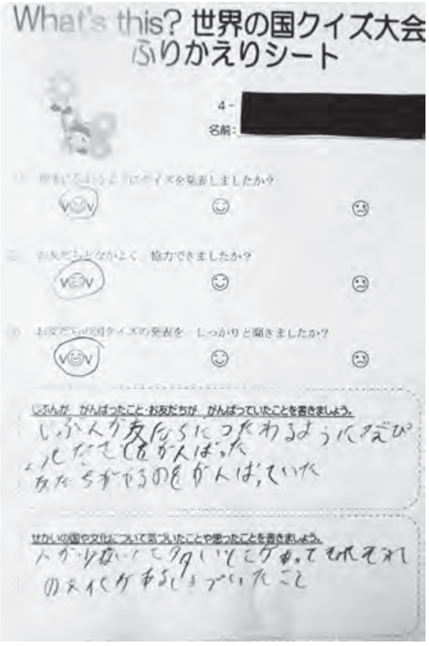
　決めたことを発表して伝え合う際、国を決められたら十分と思っていたが、早々に国を決めて、様々なことを調べ、クイズまで作成していた班があったのに驚いた。「世界の国のクイズ大会をしよう」という単元の最終ゴールを提示したとき、ガッツポーズをした男子が何人かいた。単元ゴールに興味を持たせ、モチベーションを高く持たせることができれば、児童はこちらが思っている以上に力を発揮する。多くを指示しなくとも、児童は主体的に学ぼうとしてくれることを改めて感じた。このことをさらに肝に銘じて、これからのどんな教科や領域の授業でも、児童の興味関心を引き出す問いや課題、単元のゴール設定を考えていきたい。

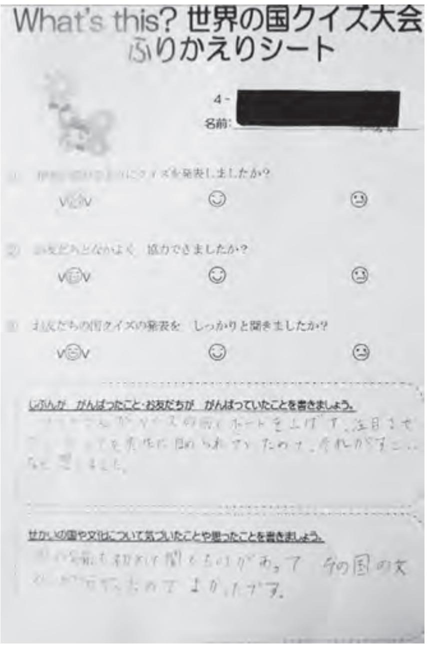
【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

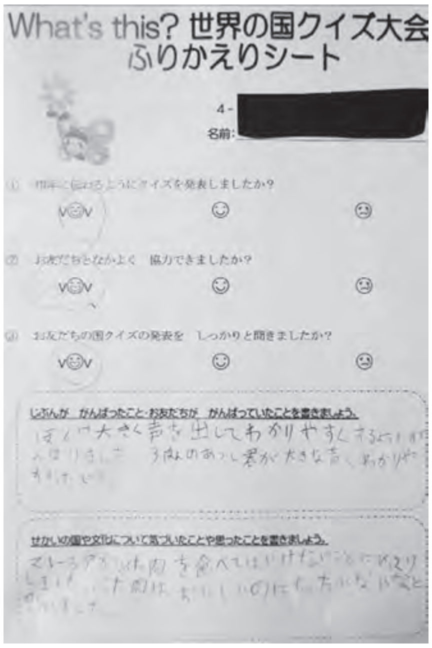
第1時〈児童の振り返りカードより〉
○ラオスに行ってみたい。
○ラオスの民族衣装が着られてうれしかった。
○ラオスと日本は似ているところも違うところもあると思った。
○自分たちが調べる国や友だちが調べる国についてもっと知りたい。

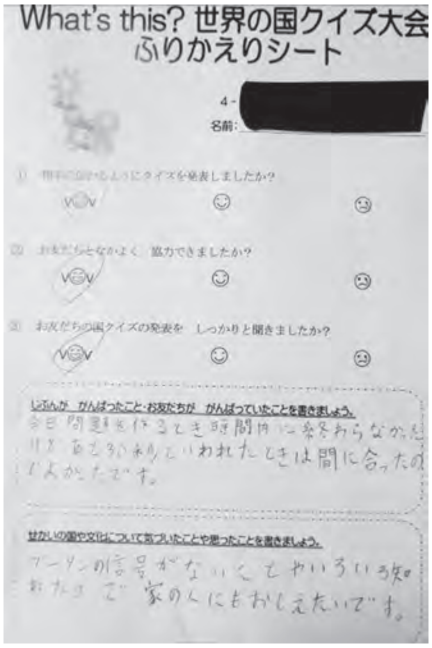
第4時

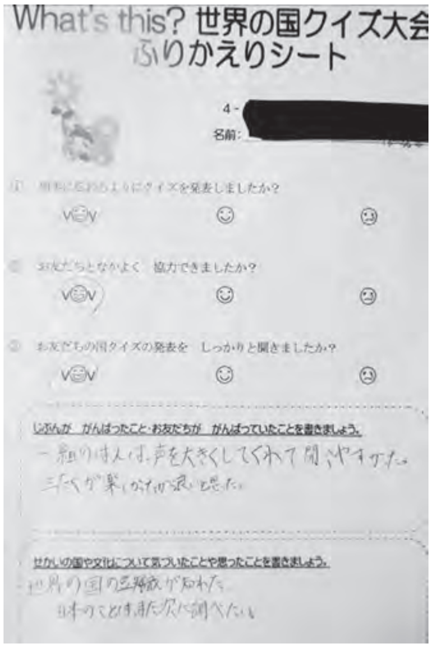

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
口を大きくあけて、大きな声でいってきた。
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
知らない国がたくさんあったのでもっと知りたいです。

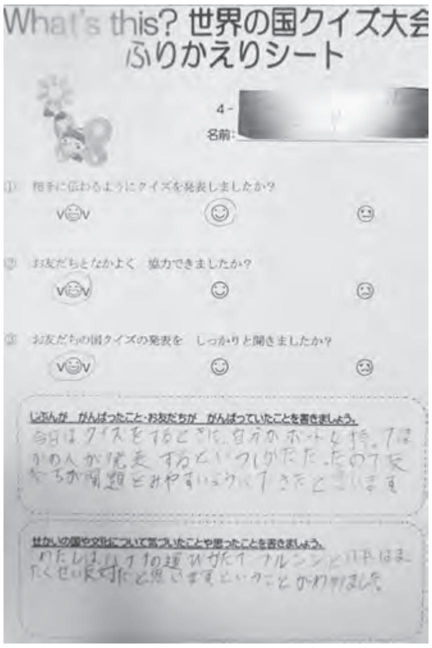

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
じぶんが友だちにつたわるようにえらびったことをがんばった
友だちがやるのをがんばっていた
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
人が少なくても多いところがあってそれぞれの文化があるときづいたこと

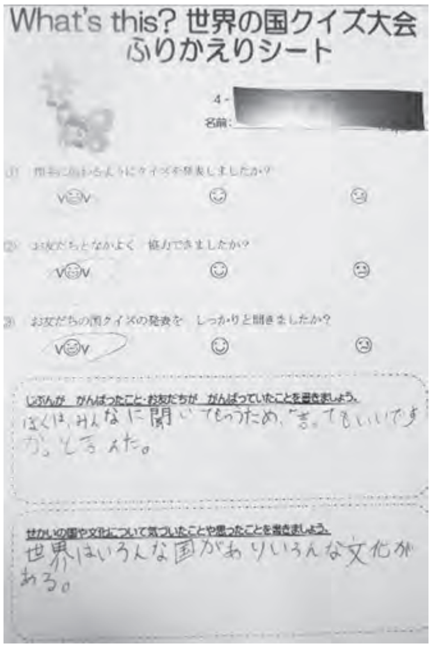

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。

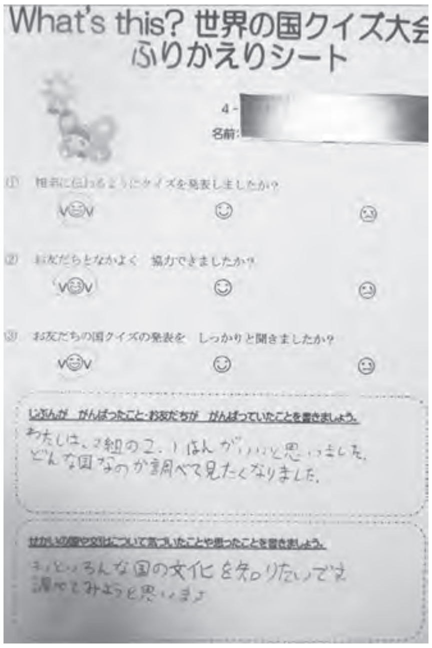

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
ぼくは大きく声を出してわかりやすくするように
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。

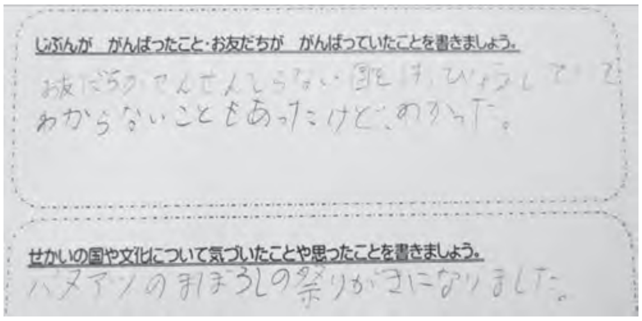

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
今日問題を作るとき時間内に終わらなかったけど、あと3分ありといわれたときは間に合ったのでよかったです。
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
ブータンの信号がないことやいろいろ知れたので家の人にもおしえたいです。

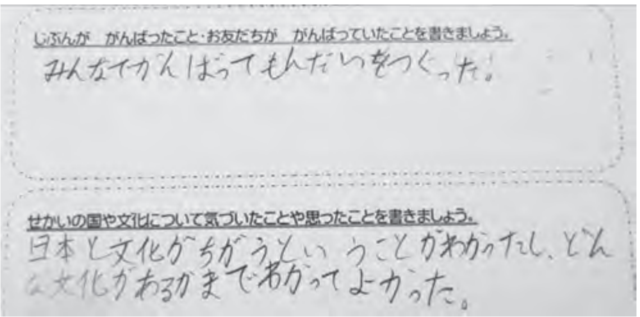

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
一組の〇はんは、声を大きくしてくれて聞きやすかった。三たくが早くかけたのが良いと思った。
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
世界の国の三択が知れた。
日本のこともまた次に調べたい。


What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
今日はクイズをするときに、自分がボードを持ってほかの人が発表するというのがよかった。友だちが問題をみやすいようにしてきたと思います
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
わたしは…の違いがタイ…と日本はまったく正反対だと思いますということがわかりました。


What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
ぼくは、みんなに聞いてもらうため、"言ってもいいですか。"と言えた。
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
世界はいろんな国がありいろんな文化がある。


What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート
4-
名前: [redacted]
① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？
② お友だちとなかよく 協力できましたか？
③ お友だちの国クイズの発表を しっかりと聞きましたか？
じぶんが がんばったこと・お友だちが がんばっていたことを書きましょう。
わたしは、2組の2.1はんがいいと思いました。どんな国なのか調べて見たくなりました。
せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。
もっといろんな国の文化を知りたいです。調べてみようと思います





【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

この単元を通して、ある児童は知らないことや分からないことへの許容範囲が広がってきた。

以前は分からないことがあると「わからん！」といってイライラし、その場で分からないと気が済まないときもあったが、この単元を通し、話を聞いてから質問し、「そうなんだ！」と納得するなど、穏やかな反応が見られた。世界の国々の学習を通して、世の中には知らないことや分からないことがたくさんあり、それを知ることはとても面白いことに気付いてくれるとしたら嬉しく思う。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞

異文化に関しては、外国語活動で接することのあるALTの母国（オーストラリアやアメリカなどの英語圏が多い）の紹介については、好奇心旺盛に話を聞き、質問もたくさんすることができていた。しかし、難しいことについては言葉の壁や理解力の差によって、その反応には差があった。さらに途上国については、まだその存在すら知らない児童がほとんどであった。

外国語教育に関するアンケートの中で、海外の文化に興味がある、海外の人に日本の文化を伝えたい、海外旅行へ行きたいと答えた割合は、こちらが思っている以上に少なかった。

＜授業後＞

この授業後、知らないことに対して、自ら質問したり、曖昧さに耐えて、自ら類推したり、想像したりすることができるようになってきた。

外国語活動の授業においても、受動的だった児童が、興味を持って自ら主体的に学ぶ姿勢が見え始めた。教材の中に出てくる外国の情報に対して、前向きな反応を示すようになった。

また、子どもたちの中にはまだ途上国という意識があまりなかったため、それが逆によかったのか、どの国々に対しても先入観のない公平な目で見ることができている。

【8】自己評価

1．苦労した点

小学校中学年に分かりやすく興味や疑問、課題意識を持たせることに苦労した。

自分がラオスで見たり聞いたり感じたり考えたりしたことと、自分が伝える相手である小学校中学年の興味関心や理解力には少し隔たりを感じ、これをどうかみ砕いて伝えるかが難しかった。

例えば、不発弾処理については、自分の中で大きな衝撃であったので、どうしても伝えたいと思ったが、どうすれば中学年が自分事として身近に感じてくれるのかが難しかった。そこで、今年校区内の工事現場で不発弾が見つかったことに絡めて紹介した。少し身近に捉えてくれた子どもたちもいたが、その校区内の不発弾発見すら知らない子どももいたので、様々な発達段階の児童すべてに自分事として考えてもらうためにはどうすればいいのかが課題である。

2. 改善点

もし授業を再度実施するなら、ぜひ学級担任の立場で行いたい。なぜなら学級経営を基盤に考え、他教科と関連づけたり、ゲストティーチャー等との連携を考えたりすることがやりやすいからだ。今後どの学校でどの立場から行うことになっても、自分一人で抱え込まずに、学年・学校全体で連携して行っていきたい。

3. 成果が出た点

児童が考える「外国」の枠組みが少し広がったことである。昨年度も「外国」を題材にしたクイズや紹介の活動を行ったが、児童が選ぶのは、どうしてもよくＴＶ等で見る国が多かった。今回、自分がラオスという国を紹介することを通して、自分も今までに知らなかった国を調べてみたいという意欲を持つ子が増えてきて、それが全体に広がっている。

4. 備考

この機会を与えてくれた方々に感謝している。まずこの教師海外研修を紹介してくれた事務職員、許可してくれた学校長、お世話して下さったJICA職員の方々、一緒に学んでくれた先生方、青年海外協力隊員、現地のホームステイ先の家族、現地のスタッフやコーディネーターなど、たくさんの人々との出会いによって、自分にとってはまだまだ遠い国であったラオスを身近に感じることができ、自分にとってより意味のある体験となった。これからの児童に対する実践や、自分の今後の人生に生かすことで恩返しができればと考えている。

【参考資料】

＜書籍＞

・『世界の文字と言葉入門【全15巻】』（小峰書房）

・『DOORアジア208の国と地域が分かる国際理解地図【全5巻】』（地図情報センター/帝国書院）

・『新版　いってみたいな　あんな国こんな国【全7巻】』（岩崎書店）

【資料1】本時使用スライド

2019
よー先生の夏休み

ラオスへ行ったよ　**どこ?**

世界地図を見てみよう！

ラオスと日本，にてる？にてない？

- これなーんだ？

衣：どんな服をきてるのかな？

小学生女子と男子の夏休みのふだん着

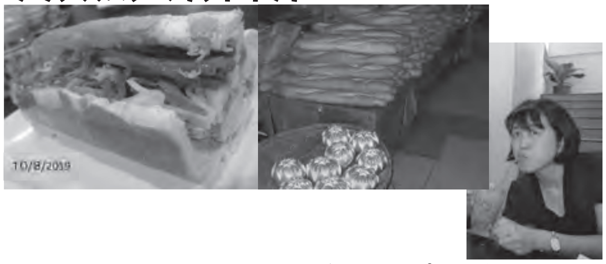
学校は制服が多い（小～大）

結婚式やお祭り

女性はシンという
巻きスカートが
正装

食：どんな食べ物があるのかな？
主食：もち米→カゴに入れて手で食べる

フランスパンのサンドイッチ

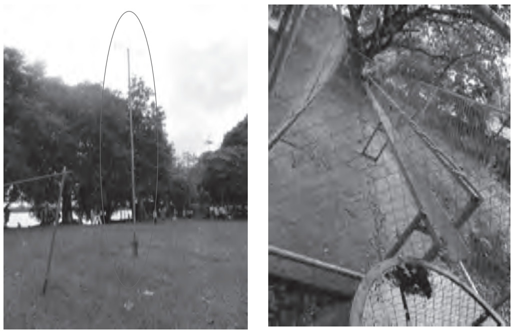


フレッシュトロピカルジュース

めずらしい食べ物？食べ方？もあったよ

住：どんな家に住んでいるのかな？

学校：どんなところなのかな？



遊び：どんな遊びしてるのかな？

乗り物：どんな乗り物があるかな？

文字・言葉：どんなことばを使うのかな？

ラオス語
英語
日本語
中国語
…
少数民族の言葉

世界には
どんな国があるのかな？

【資料2】第4時使用振り返りカード

What's this? 世界の国クイズ大会
ふりかえりシート

4－

名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

① 相手に伝わるようにクイズを発表しましたか？

v😄v　　☺　　😢

② お友だちとなかよく　協力できましたか？

v😄v　　☺　　😢

③ お友だちの国クイズの発表を　しっかりと聞きましたか？

v😄v　　☺　　😢

じぶんが　がんばったこと・お友だちが　がんばっていたことを書きましょう。

せかいの国や文化について気づいたことや思ったことを書きましょう。

ラオスから世界へ

氏　　名	坪池　由美子	学 校 名	熊野町立熊野第一小学校
担当教科	全教科	実践教科	総合的な学習の時間・道徳・社会科・国語科
時 間 数	８時間	対象学年	４年生、全校児童
		人　　数	34人（４年１組）

【1】単元のテーマ・目標

ラオスについて知ることを入り口として、世界には自分の知らない国や知っていると思い込んでいたけれど実態は違うという国がたくさんあることに気づくことができる。また、ラオスをはじめ世界にはさまざまな課題をもつ国があることを知り、興味をもつことができる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	ラオスに関心をもつとともに、世界の他の国々やそこにある課題にも目を向けることができる。
(イ) 思考・判断・表現	自分にとって興味のある課題を発見し、その課題の解決には何が必要かを考えることができる。
(ウ) 技能	写真や資料などから、自分の目的に合った情報を取り出すことができる。
(エ) 知識・理解	世界の国々が抱える課題を知ることができる。

【3】単元設定の理由

<児童観>

事前に調査したところ、本学級の児童にとってラオスとは、名前を聞いたことすらない未知の国であった。ラオスのイメージについては「楽しいことがいっぱいありそう」「スポーツが強そう」「電気が通ってないかも」という意見は出たが、あくまで想像でしかなかった。また、「発展途上国」という言葉自体知らない児童がほとんどで、今の世界が抱える課題についても目が向いていない状態だった。これに加えて、４年生という段階を考えると、発展途上国であるラオスが抱える課題の根本や歴史などを正確に理解することは、ハードルが高すぎると感じた。

そこで、「ラオスは発展途上国で、いろいろな課題がある大変な国。だから自分たちにできることを考えよう！」ではなく、「この世界には、私たちの知らない国（例えばラオス）があって、なんだか楽しそう。知らない国のことを知りたい！行ってみたい！」を入り口にすることにした。これを、今までに知らなかった国々について興味をもち、世界の国々の課題に目を向けさせるきっかけとしていきたい。

<教材観>

ラオスについての学習において一番子どもたちに感じてほしかったのは、私が感じた「ラオスって素敵！」という気持ちであった。しかし、こちらの説明を一方的に聞くだけではその良さは十分に伝わらないと考えた。そこで、ラオスに関する通信を掲示したり、子どもたちにラオスクイズやラオス語体験、実際にラオスの製品などを手に取ったり見たりすることを通して、ラオスの良さを体感してもらう活動を行った。

○「サバイディー通信」
　サバイディー通信とは、ラオスのことについて子どもたちに知らせるための新聞である。第1回目は子どもたちにとっても興味津々であろう「食べ物」について、第2回目は日本との違いが分かりやすい乗り物について、というように、毎回1つ項目を決めてラオスの文化について紹介した。

「サバイディ通信『ラオスって？』」

「サバイディ通信『乗り物』」

○「坪池先生の夏休み」
　ラオスの良さを伝える手段の1つとして、全校朝会でラオスへ行って驚いたことや行って良かったことなどを伝えた。

○「ラオス体験ツアー」
　ラオスの「良さ」を、体験的に、しかも子どもたちの目でできるだけたくさん見つけられるようにするために行ったのが、「ラオス体験ツアー」である。この体験ツアーは、「クイズでラオス体験コーナー」「ラオス語＆手話体験コーナー」「手と目と口で体験コーナー」の３つで構成される。子どもたちには、このツアーの中で「ラオス旅行を薦めるための３つのポイントを見つけること」が課題として示されている。
　「クイズでラオス体験コーナー」では、ラオスの生活や伝統、食べ物などについて 18 問のクイズを解く中でラオスの良さを知ることができた。
　「ラオス語＆手話体験コーナー」では、授業者が講師となって実際にラオス語や手話を体験した。簡単な挨拶や言葉、日本とは指の使い方の違う手話などを学習した。また、プリントにあるラオス語をなぞってラオスの文字も体験した。
　「手と目と口で体験コーナー」では、授業者がラオスで入手した資料を展示した。子どもたちは、ラオスの算数の教科書や学習帳、絵本、ティップカオなどの日用品を実際に手に取ることができる。また、ラオスの甘味「ナムワーン」の試食も行い、ラオスの味を体験した。

＜指導観＞
　本単元でねらうことは、「ラオスについて詳しく知る」ことではなく、「ラオスを入り口として世界の課題に気づき、もっと知りたいと思う心情を養う」ことである。
　そこで本単元を３つの部分で構成した。
１つ目は「ラオス体験ツアー」を中心とした、「日本と違う国（ラオス）を知ることを楽しむ」という部分。２つ目は、社会科や国語科の教材を中心とした、「世界の国々が抱えている課題に気づく」という部分。そして３つ目が、「課題を解決するためにどのような方法があるのか」を考える部分である。今回は「日本とは違う国に興味をもち、世界は様々な課題を抱えていることに気づく」ことを大切にしたい。
　１つ目の「ラオス体験ツアー」の目的は、「良い見出しを作る」ことではなく、「たくさんみつけたラオスの良さから見出しにふさわしい内容を選んでいくことで、しっかりラオスの良さを味わったり考えたりする」ことなので、見出しを考えるためのヒントを事前に用意する。それが、４年生の各クラスに配布した「サバイディー通信」や全校朝会で紹介した「坪池先生の夏休み」である。これらには、授業者が見つけたラオスの良さや見出しのヒ

ントになりそうな単語をできる限り使用する。
　2つ目の「課題に気づく」ためには、図書館の本を利用した。図書館司書さんの協力を得て、学校の図書室の本から世界の課題についての記述がある本を集めてもらう。インターネット等で調べていくにはあまりにも広く深すぎる内容であるため、まずは書籍にある情報を読むことから始めていく。
　3つ目の「方法を考える」に関しては、児童が今持っている知識で考えさせていく。世界が抱える課題をどうやって解決していくかということについては、この先ずっと考えていってもらいたい。そこで、詳しく調べていくということより自分の考えをもつことを大事にしたい。今回の学習をきっかけとして、ここで自分の考えたことをもとにさらに学びを広げ、深めていってほしいと考えるからである。

【4】展開計画（全８時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「教師海外研修報告」 対　象：教職員 ねらい：教師海外研修の目的や研修内容、ラオスで体験したことを紹介することを通して、教師海外研修やラオスについて理解を深めることができる。	・教師海外研修の概要についての説明を行った。 ・ラオスについて概要を説明し、日本とラオスの違いや共通点、今後生かしていきたいことなどを話した。	・パワーポイント資料
2	「坪池先生の夏休み」 対　象：全校児童 ねらい：ラオスのクイズを通して、ラオスの文化や良さについて知り、興味をもつことができる。	・夏休みにラオスに行ったことを伝え、ラオスで見たことをクイズ形式で紹介する。 ・ラオスが世界のどこにあるのか、どのくらいの大きさなのかなどといった基本情報を含め、ラオス独特の風習などを伝えた。	・パワーポイント資料
3 本時	「ラオス体験ツアー」 対　象：４年生 ねらい：ラオスのクイズやラオス語の体験などを通して、日本と同じところやラオスならではのいろいろな良さ・楽しさに気づくことができる。	・ラオスの良さに目を向けるため、「ラオス旅行を薦める見出しを考える」という活動を行う。 ・「クイズでラオス体験コーナー」「ラオス語＆手話体験コーナー」「手と目と口で体験コーナー」の３つのコーナーを通して、ラオスの良さを見つける。	・サバイディー通信 ・ラオスクイズ、解答用紙 ・ホワイトボード ・ラオス語練習プリント ・教科書（算数、わたしたちの身の回りの世界） ・ラオス語、日本語の学習帳 ・お札（ラオスキープ） ・不発弾からできたアクセサリー ・パンフレット（COPE Visitor center） ・絵本 ・工芸品（ミニバッグ、竹笛、ティップカオ、シン、ポーチ） ・ナムワーン ・ポスター（不発弾の扱いについて） ・地図 ・自動車運転ルールブック ・バス路線 ・英語とラオス語の対応表 ・コーヒー

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4	「世界の小学生」 対　象：4年1組 教　科：道徳 ねらい：日本と世界の国々には違いがあることを知る。	・教科書にある手紙を読み、日本と世界の国々には違いがあることを知る。 ・世界の人々に熊野の良いところを知らせる手紙を書く。	・教科書
5	「住みよい暮らしを守る」 対　象：4年1組 教　科：社会科 ねらい：ラオスの浄水場や電気の供給の様子を知る。	・日本とラオスでの水道局の仕事や電気の供給について、違いを知る。 ・日本でもラオスでも、それぞれの国の実情に合わせて、住みよい暮らしを守るために努力をしている人たちがいることを知る。	・教科書 ・写真資料
6	「安全な暮らしを守る」 対　象：4年1組 教　科：社会科 ねらい：日本でもラオスでも、安全な暮らしを守るために努力している人々がいることを知る。	・熊野町の豪雨災害に対する取り組みや、ラオスの不発弾処理への取り組みについて学習し、そこに暮らす人々の生活を脅かす問題に取り組み、安全を守ろうと努力する人たちの活動を知る。	・写真資料
7	「読書会をひらこう『世界一美しいぼくの村』」 対　象：4年1組 教　科：国語科 ねらい：「世界一美しいぼくの村」を読むことをきっかけに、世界の課題について関心をもつことができる。	・「世界一美しいぼくの村」の内容を読み取る。 ・世界で起こっている、または起こった様々な問題について書かれた本を読み、世界の国々が抱えている課題について関心をもつ。	・教科書 ・世界の国々が抱えている課題に関する本
8	「わたしたちの生活とロボットについて考えよう『ゆめのロボットを作る』 対　象：4年1組 教　科：国語科 ねらい：世界の課題を解決する方法を考えることができる。	・世界の課題は、どのような方法で解決することができるか考える。また、その方法を実現するロボットを考える。 ※3学期に実施予定	・教科書

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （10分）	1. 本時の学習課題を把握する。 ・ラオス旅行を薦めるためのチラシにつける見出しを考える。	○「サバイディー通信」や全校朝会で提示されてきたラオスの良さを想起させる。	・チラシ（見出しが抜いてあるもの）

展開 （70分）	・3つのコーナーを回って考える。音楽が鳴ったら、時計回りに次のコーナーへ移動する。 ・コーナーはグループで回る。 ・見出しを考えるときには、中央のスペースを使う。	○児童は、各自筆記用具と探検バッグ、水筒を持参する。	
	ラオスをおすすめする３つの見出しを考えることができる。		
	2．コーナーに分かれてラオス体験をする。（各コーナーは20分で移動する）		
	① クイズでラオス体験コーナー	○会場の壁面に18問のクイズを掲示しておく。その場で答え合わせができるようにしておく。 ○ヒントとして、サバイディー通信を掲示しておく。 ○クイズの解説文でも、ラオスの良さについて触れておく。 ○時間内に終わらなかったクイズについては、別のコーナーの時間が余ったら再度チャレンジしてもよいことを伝えておく。	・ラオスクイズ【資料1】 ・クイズの解答用紙【資料２】
	② 手と目と口で体験コーナー	○示してある物を実際に触ったり、読んだりして興味があるものとしっかりと触れ合うことを押さえる。 ○ナムワーンの試食コーナーは同学年の担任２名が担当する。 ○ナムワーンを食べるのは、食べてみたい児童だけでよいことを事前に伝える。食物アレルギーなどに関しては、事前に調査しておく。	・教科書（算数、わたしたちの身の回りの世界） ・ラオス語、日本語の学習帳 ・お札（キープ） ・不発弾からできたアクセサリー ・パンフレット（COPE Visitor center） ・絵本 ・工芸品（ミニバッグ、竹笛、ティップカオ、シン、ポーチ） ・ナムワーン ・ポスター（不発弾の扱いについて） ・地図 ・自動車運転ルールブック ・バス路線 ・英語とラオス語の対応表 ・コーヒー

	③ ラオス語＆手話体験コーナー	○簡単な挨拶や「可愛い」と話題になったラオス語のうち幾つかを学習する。ジェスチャーを使ったクイズ形式にして、興味をもたせる。 【学習するラオス語】 ・サバイディー ・コープチャイ（ライライ） ・ペンニャン（なぜ？） ・メンニャン（なに？） ・ボーペンニャン ・パニャニャンダー ○レベル３までに分けて、ラオスの手話を学習する。 【レベル１】「はい」「いいえ」数字の1～5 【レベル２】数字の６～10 【レベル３】数字の11～20、30、40、50、60、70、80、90、100 ・うまくできたときには、拍手の手話を使って褒める。	・ホワイトボード ・ラオス語練習プリント【資料３】
まとめ（10分）	3. 振り返りを行う。	○時間があれば、見出しを考える時間をとる。 ○体験ツアーの中で見つけたラオスの良さについて振り返らせる。 ○本時で考えた見出しを使ってチラシを完成させ、後日発表することを伝える。	

【授業実践の様子】

クイズでラオス体験コーナー

手と目と口で体験コーナー

ナムワーンの試食

ラオス語＆手話体験コーナー

【6】本時の振り返り

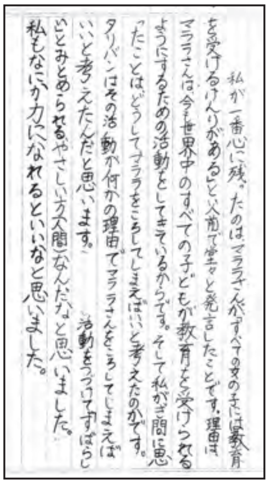
ラオスの良いところをしっかりと体験させるために今回の授業を行った。途中で時間を持て余すグループが出ることを心配していたが、クイズコーナーには何度戻ってもよいことにしていたので、最後まで楽しそうに活動し続けていたのでよかった。今回の活動によって、「ラオスはなんだか楽しそうな国だ！」という共通認識が児童の中にできたように思える。

大掛かりな活動になったが、同学年の担任の協力でスムーズに行うことができた。ナムワーンは、前日の放課後と当日の朝に家庭科室で調理してもらった。また、ナムワーンや「五感で体験コーナー」に置いてある資料についても、簡単に説明をしてもらえたことも非常に良かった。

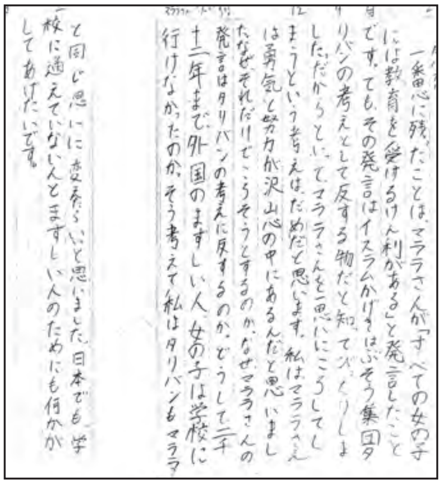
【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

<児童の感想より>

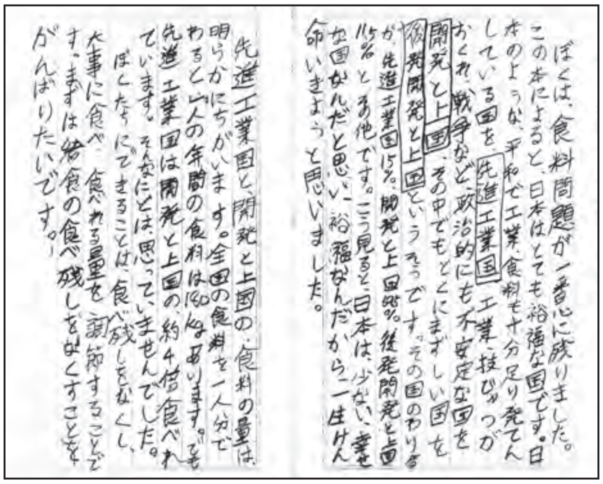
学習前には、「外国とは遠くてぼんやりした存在」だったが、学習する中で自分たちの暮らしと比べたり自分にできることは何かを考えたりと、「自分たちとつながる部分のある身近な存在」になってきたことがうかがえた。



私が一番心に残ったのは、マララさんが「すべての女の子には教育を受けるけんりがある」と人前で堂々と発言したことです。理由は、マララさんは今も世界中のすべての子どもが教育を受けられるようにするための活動をしてきているからです。そして私がぎ問に思ったことは、どうしてマララをころしてしまえばいいと考えたのかです。タリバンはその活動か何かの理由でマララさんをころしてしまえばいいと考えたんだと思います。活動をつづけてすばらしいとみとめられるやさしい人間なんだなと思いました。私もなにか力になれるといいなと思いました。



一番心に残ったことは、マララさんが「すべての女の子には教育を受けるけん利がある」と発言したことです。でも、その発言はイスラムかげきはぶそう集団タリバンの考えとして反する物だと知ってびっくりしました。だからといってマララさんを一思いにころしてしまうという考えはだめだと思います。私はマララさんは勇気と努力が沢山心の中にあるんだと思いました。なぜそれだけでころそうとするのか、なぜマララさんの発言はタリバンの考えに反するのか、どうして二千十二年まで外国のまずしい人、女の子は学校に行けなかったのか、そう考えて私はタリバンもマララと同じ思いに変えたらいいと思いました。日本でも学校に通えていないんとまずしい人のためにも何かかしてあげたいです。



ぼくは、食料問題が一番心に残りました。この本によると、日本はとても裕福な国です。日本のような、平和で工業、食料も十分足り発てんしている国を先進工業国、技じゅつがおくれ、戦争など政治的にも不安定な国を開発と上国、その中でもとくにまずしい国を後発開発と上国というそうです。その国のわりあいが、先進工業国15%、開発と上国85%。後発開発と上国11.5%とその他です。こう見ると、日本は、少ない、幸せな国なんだと思い、裕福なんだから一生けん命いきようと思いました。

先進工業国と、開発と上国の、食料の量は、明らかにちがいます。全国の食料を一人分でわると、一人の年間の食料は180kgあります。でも先進工業国は開発と上国の約4倍食べれています。そんなにとは思っていませんでした。ぼくたちにできることは、食べ残しをなくし、大事に食べ、食べれる量を調節することです。まずは給食の食べ残しをなくすことをがんばりたいです。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

学習前にはあまり外国に興味がなく、「外国とは、スポーツ選手の出身地やニュースの見出しに出てくるもの」という程度の認識しかないという児童が多かった。学習後は、自宅でテレビを見ている際に外国の地名が出てく

ると、「この前学校で読んだ本に出てきた」と言ってニュースを見る児童がいると聞いたり、「どうしてこんな問題が起こったのか？」という疑問が出てきた子がいたりした。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞
・「途上国」という言葉を知らない。
・児童にとってほかの国とは、大きく分けて「アメリカや中国などのように日本と同じように便利なものがたくさんあって、文化についても予想がつく国」か、「水を汲むのに苦労したり、電気も通っていなかったりするような大変な国」という2種類。

＜授業後＞
・自分たちが知らない国にもおもしろそうな国がある。楽しそうな文化がある。
・大人になったら外国へ行ってみたい。
・自分たちがよく知っているアメリカにも、困っている人がいて問題がある。

【8】自己評価

1．苦労した点
・自分がラオスに行って学んできたことの中から、何を4年生に伝えるのか選ぶのが最も苦労した点である。4年生にとって、ラオスの歴史や国同士の争いを理解することはとても難しい。しかし、ラオスの課題を「どこかに悪者がいて、ラオスを困らせている」と捉えることは間違っている。それに、ラオスを「過去にひどい目に合った可哀そうな国」と捉えさせてしまうことも大間違いだと感じた。今回は楽しかった点を前面に出し、児童が興味をもったところでラオスの楽しいだけじゃない部分も紹介していくという形にした。
・授業実践を2学期に行ったため準備が大変だった。「ラオス体験ツアー」に関しては夏休み中に準備することができたが、4時以降の学習は普段の授業と並行して準備が必要だったためなかなか時間がとれず、簡単に紹介する程度の内容になってしまった。

2．改善点
・SDGsについては扱わなかったが、1学期のうちにカードゲーム等で概要だけでも紹介しておくと、社会科や国語科の際の学習が広がり深まったのではないかと思う。本時の学習内容や単元の流れが分からなくては、あらかじめ児童に何を伝えておくかは決めにくいが、紹介程度でもよいので触れておくと、あとからでも活用しやすいのではないかと感じた。
・世界の課題に関わる本を読む授業では、JICA中国からもらった青年海外協力隊の活動についてのパンフレットが役に立った。今回は学校の図書館だけで本を集めたが、町立図書館なども利用するとより幅広い課題についての本が用意できたと思う。

3．成果が出た点
・児童にとってラオスが「全く知らない国」であったことは、「途上国＝かわいそう」という安易な発想にしないためにとても良かった。「途上国ラオスに何かしてあげよう」ではなく、「知らない魅力をたくさんもつラオスに行ってみたい」という内容の感想をよく聞いたことは、成果であったと思う。また、将来やってみたいことや夢を聞いてみたところ、多くの児童から「英語を習ってラオスの人と友達になりたい」「アメリカで警察官になりたい」「もっと外国の人と仲良くなりたい」などというような内容が聞かれたことも、児童の目が国外へもむけられつつあることの証拠であり、今回の学習の成果であると感じた。

【参考資料】

＜書籍＞
・2016年度　JICA中国 教師海外研修（ラオス）授業実践報告書
・2018年度　JICA中国 教師海外研修（ラオス）授業実践報告書
・山田紀彦（2018）『ラオスの基礎知識』
・亀田正人（2005）『旅の指さし会話帳６４　ラオス（ラオス語）（旅の指さし会話帳シリーズ』
・ASSOCIATION FOR THE DEAF/ADDP/日本財団『初心者のためのラオス手話』

＜Webサイト＞
・文部科学省
（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/05061501.htm）
・認定NPO法人開発教育協会（http://www.dear.or.jp/）
・一般財団法人 CHANGアジアの子供財団「ラオス概要と子どもデータ」
（https://chang-asia.com/lao-summary.html）
・外務省「ラオス人民民主共和国　基礎データ」
（https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/data.html#section1）
・OEC「ラオス（LAO）ー輸出、輸入、と貿易パートナー」
（https://oec.world/ja/profile/country/lao/）
・日本ユニセフ協会 子どもと先生の広場「世界の子どもデータ」
（https://www.unicef.or.jp/kodomo/data/da_country.htm）
・日本ユニセフ協会　子どもと先生の広場 ユニセフ子ども物語「先生になりたい」
（https://www.unicef.or.jp/kodomo/teacher/t-back03.htm）
・クックパッド「ラオス風白玉」（https://cookpad.com/recipe/845441）
・JICA 地球ひろば「どうなってるの世界と日本　わたしたちの日常から途上国とのつながりを学ぼう」
（https://www.jica.go.jp/aboutoda/interdependence/child_world/index.html）
・国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン「世界の問題と子どもたち」
（https://www.worldvision.jp/children/）
・小松製作所「対人地雷除去機の開発」（https://komatsu.disclosure.site/ja/）

【資料1】ラオスクイズ

問1
ラオスで自動車を運転するときに，こまることは何でしょう。

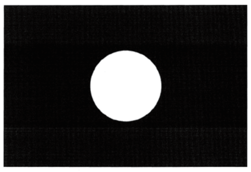
① 街灯があまりなくて，夜の運転があぶない。
② 信号がほとんどなくて，あぶない。
③ バイクに，３人乗りする人がいてあぶない。

答え1　全部

ラオスにも交通ルールはありますが，のんきなラオスの人たちは，そこまできちんとは守りません。ぎゃくに言うと，きびしいルールがなくてもおたがいがゆずりあって運転するので，何とかなるのです。ただし，最近になってバイクや車が急に増えたため，事故は多いようです。

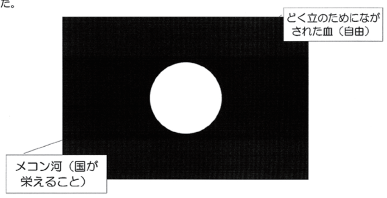
問2
ラオスの国旗の真ん中にある○は，何を表しているのでしょう。

① 仏様の瞳
② 空にかがやく太陽
③ メコン川にのぼる月



答え2　③月

ラオスの国旗は，1975 年にラオス人民民主共和国が成立したときに決められました。



問3
ラオスでは，何の宗教を信仰している人が多いでしょうか。

① 仏教
② イスラム教
③ キリスト教

答え3　①仏教

ラオスでは，９０％以上の人が仏教を信じています。それぞれの村や町に一つずつお寺があり，そこではお坊さんたちが修行をしています。小さなころから出家して，家族からはなれてお寺で修行をする子どもたちもいます。

問4
ラオス語で，「おはよう。」とか「こんにちは。」を表す言葉はどれでしょう。

① ハロー
② アーユボーワン
③ サバイディー

答え4　③サバイディー

ラオスには４９の民族があり，いろいろな言語を使っています。その中で一番多くの人に使われているのがラオス語。「サバイディー」は，朝でも昼でも夜でも使える，とっても便利な言葉です。
お店に入ったとき，人とすれちがう時，「サバイディー。」と声をかけると，だれでもにこっと笑って，「サバイディー。」と答えてくれます。その時，体の前で手を合わせるのがラオス流です。

問5
ラオスの多くの人が着る，伝統的な民族衣装は何でしょう。

① サリー
② シン
③ アオザイ

答え5　②シン

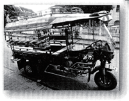
シンは，女性が機織り機で布を織って作ります。地方や民族によって，刺繍や織り方，かざりなどがちがうそうです。細かく刺繍された模様やパターンを見ると，うっとりします。
一見ぴったりして動きにくそうですが，ウエストにあるホックでとめるだけなのでとても動きやすくらくちんです。それに，生地がさらさらしているので，暑いときにもさわやかにすごすことができます。

問6
ラオスの人が一番好きな乗り物はバイクだそうです。では，バイクの次によく使う乗り物は何でしょう。

① バス

② ソンテウ

③ トゥクトゥク



答え6　③トゥクトゥク

トゥクトゥクは，タクシーのように自分の行きたいところまで行ってくれるので，ちょっと高いけれどたくさんの人が使っています。
ソンテウはトラックを改造した乗り合いバスです。決まった道を走ることが多く，料金も決まっています。
バスは一番安いのですが，時間通りに来ないのであまり人気がありません。それは，荷物をたくさん持っている人がいたり，道ばたで手を挙げている人がいたりすると，バスをとめて乗せてくれるからだとか。困っている人がいたら助けるという，ラオスの人らしいエピソードだなと思いました。

問7
ラオスの人は，カオニャオというもち米を食べます。さてラオスの人は，世界で何番目によくお米を食べる国なのでしょう？かっこの中は，一日に食べるお米の量です。

① ２位　（おにぎり　やく１０こと半分）
② １１位（おにぎり　やく１０こ）
③ ５０位（おにぎり　やく２こと半分ちょい）

答え7　①2 位

ラオスでは，お米を水にひたしてから竹の入れ物に入れて蒸します。ほんのりあまいもち米を，手で一口大にして，味のこいおかずなどといっしょに食べます。ベタベタしないけどもちもちで，いくらでも食べられます。きけんです。(うそ！安全ですw)
このおいしいもち米を使った麺やお菓子などもあることが，２位になった理由かもしれませんね。
ちなみに１位はバングラデシュで，日本はなんと５０位です。

問8
ラオスの女の人が道ばたで何かを待っています。何をまっているのでしょう。

① タクシーを待っている。
② おぼうさんたちが通るのを待っている。
③ 商品を売るため，お客さんが来るのを待っている。

答え8　②おぼうさんたちを待っている。

ラオスでは，おぼうさんはとても尊敬されています。バスや空港にも，おぼうさんのための優先席があるほどです。
毎朝，日がのぼる１０分前から始まる托鉢の時には，その村や町の人たちから食べ物がわたされます。おぼうさんたちは毎日この食べ物を食べて，修行をしています。たくさん集まったときには，かごに入れてほかの人たちに分けます。

ラオス人の心に根づく，「たくさん持っている人は少ししか持っていない人と分け合うのが当たり前。」，という助け合いの気持ちが，こういった所にも表れていますね。

問9
ラオスには「ワットプー」という世界遺産があります。高い山の上に，古い建物が建てられています。では、一番高い場所にある建物の中には，何があるでしょう。

① 昔の大金持ちの宝物
② 昔の王様のお墓
③ 仏様の像

答え9　③仏様の像

ワットプーは，今から８００～１６００年前に建てられたお寺で，世界遺産に指定されています。とても古く，くずれかけたような部分もありますが，ラオスの人たちにとっては大切な場所です。ゆっくり歩いても息が切れるような，急な階段を上らなくてはお参りには行けませんが，地元の人だけでなくいろいろな町や村からたくさんの人がやってきます。

問１０

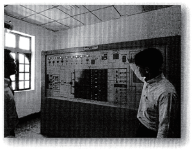
ドンコー村では，家の中に水をためた大きな入れ物がありました。この水は，何に使うのでしょう。

① シャワーとして使う。
② 災害が起きた時に使う。
③ 庭の花の水やりに使う。

答え１０ ①シャワー

ラオス全土では，やく２５%の人が水道を使えています。残りの人は，川の水や雨水，井戸水などを使っています。

きれいな水を作るため，ラオスにも浄水場があります。首都ビエンチャンの浄水場には，日本のいろいろな県の水道局から専門家の人たちがおとずれ，もっとたくさんの人がきれいな水を使えるようにするため，協力してその方法を考えています。



問１１

ラオスのお店で見つけたこのアクセサリーやスプーンなどは，何でできているでしょうか。

① ペットボトル
② ラオスでしかとれない，特別な金属
③ 爆弾の欠片

答え１１ ③爆弾の欠片

今から５０年ほど前にあった戦争で，ラオスに２００万～３００万トンもの爆弾が落とされたといいます。たくさんの爆弾が，土の中に「不発弾」として残っています。今でも，畑をたがやすときや工事をするとき，子どもが遊んでいるときなどに爆発することがあります。

不発弾を完全に取りさるには，あと２００年かかるとも言われています。

ラオスのすべての不発弾を取りのぞくため，日本をはじめとして世界中の国がラオスと協力しています。

問１２

ラオスのお金は「キープ」といいます。では，１００００キープは何円くらいでしょう。

① １４０円
② ５２０円
③ １０７０円

これが１００００キープ

答え１２ ①140円

ラオスは，日本に比べるといろいろな物がとても安いです。

絵本１冊が 22000 キープなので，だいたい 300 円くらいです。お札の色がよく似ていて，お金をはらうときにまちがって出すこともよくあったのですが，だいたいのお店の人は「これちがうよ。多すぎるよ！」と教えてくれました。ラオスは，外国人にもとても親切な人が多かったです。

問１３

ラオスで小学校へ行く子どもは，全体の何%でしょう。

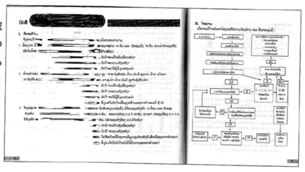
① ４６%
② ７２%
③ ９９%

答え１３ ③９９%

小学校にはほとんどの子どもが入学しますが，卒業するころには２０%どもは来なくなっているそうです。勉強がむずかしくて，という理由以外手伝いをしなくてはいけないとか，そもそも少数民族でラオス語が分からス語以外の言葉を使っている）といった理由があるようです。

これは，→→→

４年生の算数の教科書です。何について説明してあるか，分かるかな？



問１４

ホームステイをしたドンコー村で，先生は，「え！○○がないんだ？」とびっくりしました。何がなかったのでしょう。

① 警察
② 病院
③ スマホ
④ お店
⑤ 中学校
⑥ 消防署
⑦ 自動車
⑧ 電気
⑨ お寺

答え１４ ①②④⑤⑥⑦

警察，病院，お店，中学校
消防署，自動車

ドンコー村にも電気は通っていて，スマホもたくさんの人が持っています。立派なお寺もあります。

ドンコー村の人たちはとても仲がよく，何かこまったことがあってもみんなで協力して解決するから，警察は必要ないそうです。お金がないから作れない，ではなく，必要ないから作らないという感じです。

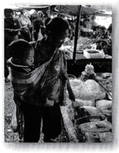
病院も中学校もお店もないので，船で向かい側の町へわたって利用します。村には大きな道がないので，バイクや自転車があれば自動車は必要ありません。

日本とちがうことが多くてびっくりしましたが，村は自然がいっぱいでとても平和で静か。村の人がゆったりのんびり楽しそうにくらしているのを見て，うらやましくなりました。

問１５

ラオスの市場には，いろいろな食材が売られています。次の中で，実際に売っていたものはどれでしょう。

① ナマズ
② 魚のひもの
③ しそ（大葉）
④ フランスパン
⑤ ココナッツ
⑥ とうふ
⑦ 白菜
⑧ バナナの花



答え１５ 全部

ラオスには大きな川があり，たくさんの林や森があります。あたたかい日が多くて雨もたっぷりふるので，野菜や果物もたくさんできます。だから，日本では見たことのないような食材や，日本でも見かけるような食材など，ものすごくたくさんのものが売られていました。

そんなさまざまな材料を使って作られるラオス料理は，ご飯と一緒に食べることを考えられているせいか，日本でもよくあるような味付けも多く，何を食べてもとってもおいしいのです。

問１６

ラオスでは，ある動物使いの免許をとることができます。さて，その動物とは何でしょう。

① イルカ
② 象
③ ヘビ

答え１６ ②象

かつてラオスは「百万頭の象の王国」という意味を持つ名前だったことがあるほど，象とのつながりがふかい国です。王様しか乗ることがゆるされず，一般の人にとっては尊い生き物としてあがめられていました。

その象に本当に乗って練習し，象使いになれる場所がラオスにはあります！象使いになろうと，いろいろな国の観光客がおとずれているそうです。

問１７

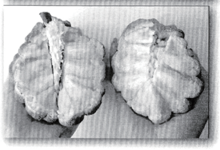
ラオスの南はあたたかく，いろいろな種類の果物がなります。日本では見ないような果物もたくさんあります。では，下の写真の果物は漢字で表すと何という名前でしょう。ヒント：見た目から名前がつけられました。

① 仏頭果（仏様の頭のような果物）
② 亀甲李（亀の甲羅みたいな李）
③ 松傘梨
（松ぼっくりににている梨）

答え１７ ①

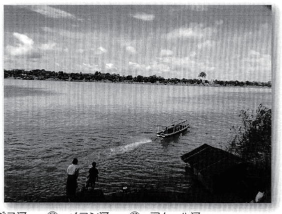
「バンレイシ」とか，「シュガーアップル」とも呼ばれる果物です。中身は白いところがクリームみたいになっています。ねっとりしていて，ところどころシャリシャリしていて，あまくて少しすっぱさも感じる，さわやかなおいしさのある果物です。

右のように仏様の髪の毛に似ているので，「仏頭果」とか「釈迦頭」と呼ばれます。



問１８

ラオスには大きな川が流れています。この川の名前は何というでしょう。



① ガンジス河 ② メコン河 ③ アムール河

答え１８ ②メコン河

メコン河は，全長４３５０㎞もある東南アジアで一番長い川です。この川がタイとの国境になっているところもあります。

メコン川にはたくさんの生き物がすんでおり，また水の量も豊かなので，ラオスの人々はいろいろな恩恵を受けています。川を大量に流れる水を利用して発電するのもその一つです。ラオスの８６%の家庭で電気が使えるのは，メコン河のおかげでもあるのです。

たくさんの家やビルに電気を送るため，電線はこんなに→→→なっちゃってました。

【資料２】ラオスクイズの解答用紙

ラオスクイズに挑戦（ちょうせん）！

4年　　組　　　はん

(1)　体験ツアーをめぐりましょう。

- はんで回りましょう。
- ③では，全部の物を見終わったら，②にもどってもよいです。
- 見出しを考えたくなったら，フロアの真ん中で書きましょう。

①　ラオス語＆ラオス手話体験コーナー ②　クイズでラオス体験コーナー ③　手と目と口で体験コーナー

- 20 分経ったら，音楽が流れます。時計回りに次のコーナーへ行きましょう。

(2)　クイズでラオス体験コーナー（解答欄（かいとうらん））

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯
⑰	⑱		

(3)　見出しを考えましょう。よいところをえらんで，短い言葉で表しましょう。

【資料３】ラオス語練習プリント

ラオス語に挑戦（ちょうせん）！

名前

① こんにちは。
ສະບາຍດີ
サバイディー

② わたしの名前は○○です。
ຂ້ອຍຊື່○○
コイスー○○

③ わたしは日本から来ました。
ຂ້ອຍມາແຕ່ຍີ່ປຸ່ນ
コイマーテーニープン

ຊ. ຊ້າງ

ຍ. ຍຸງ

ນ. ນົກ

ຜ. ເຜີ້ງ

みんな地球に生きる人

氏　　名：谷口　和輝
担当教科：全教科
時 間 数：15時間

学 校 名：八頭町立郡家西小学校
実践教科：国語・道徳・学級活動
対象学年：４、５、６年生
人　　数：143人

【1】単元のテーマ・目標

自国と他国の文化の共通点や相違点に気付くことを通して、国際理解への関心を高める。

【2】単元の評価規準例

(ア)関心・意欲・態度	外国についての興味や関心を持つことができる。
(イ)思考・判断・表現	SDGs について知り、自分たちにできることを考えることができる。
(ウ)技能	日本と外国の文化について、共通点や相違点を見つけ伝えることができる。
(エ)知識・理解	外国の文化や生活様式について、理解することができる。

【3】単元設定の理由

＜児童観＞

本学級では、「総合的な学習の時間」に児童の住む町について調べ学習を行い、歴史や文化を知り、郷土には素晴らしいものがあることに気付いてきた。郷土への愛情も高まってきている一方、外国についての知識は乏しく、テレビやインターネットによる情報を鵜呑みにする傾向がある。外国への興味はあるが、正しく理解していない現状がある。また、本校の外国語の時間で ALT と触れあう以外に外国の方とコミュニケーションを図る機会は少なく、生活の中で他の外国の文化について考えたり学んだりすることはほとんどない。

＜教材観＞

本単元は、児童が外国の文化に興味を持ち、国際理解について関心を持つことをねらいとしている。そのため、図書館の本を紹介する活動を通して、外国の文化や生活様式について知る機会を設ける。そして、自発的に外国について調べるきっかけづくりとしたい。また、自国と他国の相違点に目をむけるだけでなく、共通点を考えることを通して、国際理解の心情を育てていきたい。

＜指導観＞

指導にあたっては、次の点に留意したい。

○教師海外研修で撮影した写真や動画で「ラオスタイム」（ラオスを紹介する時間）を行い、児童に外国の文化に対する興味や関心を深めるきっかけとする。

○司書教諭の立場で、上学年に「ブックトーク」の活動を通して、日本と外国の文化の共通点や相違点を考えさせる。

○国際理解や国際協力について関心を持ち、国際親善に努めようとする心情を育てる。

【4】展開計画（全15時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	『ラオスタイム（ラオスについて学ぼう）』 （学級活動） ・ラオスの風景や文化、食事、生活習慣などについて学び、外国への興味関心を高める。	○ラオスの国や人々の生活の様子について知る ・ラオスの位置 ・ラオスの衣食住 ・ラオスに残る不発弾の問題 ・ラオスに対する日本の支援 ・SDGs について	・PowerPoint で作成した「ラオスタイムスライド（導入編）」【資料 1】 ・現地で撮影した写真や動画 ・ラオスで購入した物
2	『みんな地球に生きる人（ブックトーク）』 （国語科） ・日本人であると共に世界の人類の一員であることを意識し、国際理解への関心を高める。	○国際理解への関心が高まるような本を紹介することを通して、世界の人々のくらしを知ったり、文化の違いを受け入れたりする心情を育てる。 ・生活習慣（あいさつやお風呂等）について ・食について ・住について ・SDGs について	・PowerPoint で作成した「ラオスタイムスライド（ブックトーク編）」 ・テーマにそった本とブックリスト ・ラオスで購入した物 ・ブックトークワークシート
3 ～ 14	『くらしの中の「和」と「洋」』 （国語科） ・自分のくらしの中にある「和」と「洋」について調べ、目的に応じて引用したり要約したりして、調べたことを文章にまとめる。	○くらしの中の「和」と「洋」を資料から見つけ、引用し、説明文にまとめる。 ・学習の見通しを立てる。 ・「くらしの中の「和」と「洋」」について、何をどのように比べて述べているかに注意して、教材文に書かれている内容を読み取る。 ・引用や要約について正しく知る。 ・自分のくらしの中から、「和」と「洋」にあたるものを考えて調べることを決め、本や資料を読んで情報を集める。 ・集めた情報を引用したり要約したりしながら、調べたことを説明文にまとめる。 ・完成した説明文を互いに読み合い、感想を交流する。	・「和」と「洋」に関する本
15 本時	『他国の文化にふれるよさとは』 （道徳科） ・海外に渡った２人の生き方の共通点を考えることを通して、国際理解に関心を持ち、他国の文化を受け入れようとする心情を育てる。	○道徳教材「国のちがいをこえて」を基に、外国の文化にふれるよさについて、話し合う。 ・日本の文化と外国の文化の相違点 ・ソムシーさんの生き方について ・山口さんの生き方について ・二人の共通点について	・道徳の教科書 ・挿絵 ・ワークシート

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5分）	1. 日本の文化と他国の文化の相違点を考える。 ○「ブックトークの学習で、日本の文化と他国の文化はどんなところが違いましたか」 ・住む家が違う ・食べるもの、食べ方が違う ・あいさつが違う	1. 知っていることや想像できることを自由に発言させ、自国と他国の文化の違いに目を向けさせるようにする。 ・文化の違いを想起させやすいよう、他教科で行ったブックトークで紹介した本を掲示しておく。 ・共通点が出てきた場合、文化の共通点があることもおさえる。	・ブックトークで紹介した本
展開 （35分）	2. 教材「国のちがいをこえて」を読んで、話し合う。 ○「花岡ソムシーさんは、なぜ日本とタイのちがいを見つけるのが楽しくなったのだろう」 ・相手の国のことを「すごい」と思うことができたから。 ・新しい発見があり、ちがいをおもしろいと感じたから。	2. 知らない国に一人で行くことについて、自分のこととして考えさせる。 ・教材を一部だけ電子黒板に提示し、ソムシーさんの気持ちを理解しやすくする。 ・ソムシーさんの体験を通して、文化の違いを受け入れることについて考えさせる。その際、『ちがいがおもしろい』と感じたことについて、問い返しながら考えさせる。	・挿絵（ソムシーさん）
	○「山口さんは、どうして現地の人たちと同じテーブルで作業をしたのだと思いますか」 ・現地の人に考えを理解してもらうため。 ・自分のことを分かってもらうため。 ・現地の人と仲良くするため。	・他国で会社を立ち上げ、現地の人と打ちとけた山口さんの生き方について考えを深めるために、『現地の人の考えを理解する』とはどういうことか、問い返しながら考えさせる。	・挿絵（山口さん）
	3. 二人の生き方について深く考える。 ◎「花岡さんと山口さんの考え方で共通していることは何だろう」 ・楽しそうだけれど、大変そう。 ・他の国について、たくさん知ることができて新しい発見がありそう。 ・自分の国のことを外国の人に伝えたい。	3. 二人が異国の文化や人を大切にして生きていることについて考えさせる。 ・共通点が見つけにくい児童には、「なぜ外国に行きたいと思ったのだろう」と問うことで、外国に興味を持っていたことに気付かせる。 ※二人の女性の生き方や外国にとびこんだ人の経験を通して、自国と外国の違いを意識し、どのように外国の人と関わっていきたいか、考えることができたか。（ワークシート）	
まとめ （5分）	4. 教師の説話を聞く。	4. 担任がラオスに行った理由を話し、まとめをする。	

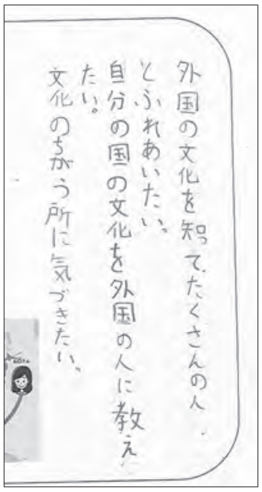
【授業実践の様子】

図書館前のラオスコーナーの様子

本時　授業の様子

【6】本時の振り返り

担任する学級と、隣の学級の２クラスで授業を行った。最初にした授業では、ねらいを『国際理解に関心を持ち、国際親善に努めようとする心情を育てる』こととしていた。しかし、授業を見ていただいた本校の先生から、「国際親善に努める心情は、高学年のねらいであり、中学年は国際理解に関心を持つことでよい」と助言していただいた。また、同じ先生から、『共通点』をもっと意識した授業にしたほうが、児童も考えやすく、考えも深まりやすいという助言もあった。そのことから、本時では、導入で外国との相違点を挙げ、展開では、二人の生き方の共通点を考えさせた。相違点では、第２時のブックトークで外国の文化をたくさん紹介し、図書館前に並べていた本を教室に置くことで、「食」や「住」の視点からたくさん挙がった。展開では、「外国での新しい発見を楽しいと思うこと」や、「外国の人と仲良くなり、いろいろ教えたい」「文化のちがいに気付きたい」など、国際理解につながる部分が多く見られた。

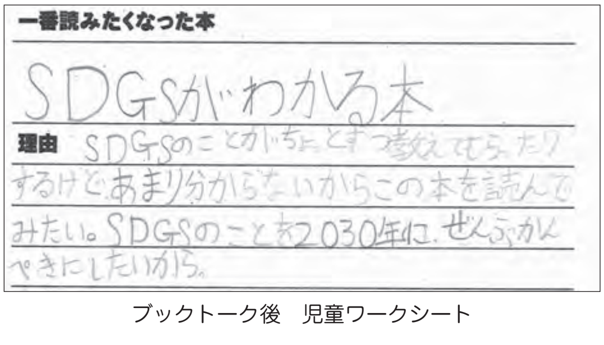


児童のワークシート

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

第１時のラオスタイムでは、「ラオスを学ぶ」というねらいで、ラオスの現状を伝えた。学年 53 名全員で行ったが、授業前にラオスで買った物を並べているだけで、子どもたちは「これは何ですか」と尋ねてきて、関心を持っていることがうかがえた。たくさんの情報を伝え、ラオスという国がどんな国か、日本とどう違うのかをそれぞれ考え、国際理解に関する本単元の導入にした。不発弾は特に心に残ったようだったが、４年生の児童の実態を考え、偏見を生まないようにするためにも、あまり教師の思いを伝えすぎないようにした。それでも、日本と比べて「家がぼろい」「町が汚い」など、マイナスイメージを持つ児童も見られた。ただ、それ以上に、外国はどんな所か興味を持つ児童の方が多かった。

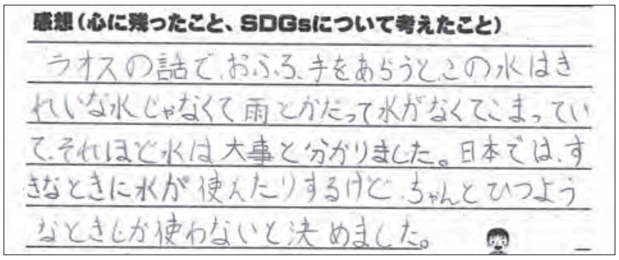
第２時のブックトークでは、司書教諭の立場から 4、5、6 年生に本を通して外国について文化や生活習慣などを伝え、授業の終末には SDGs について知らせた。5 年生、6 年生には、SDGs についてもともと知っていた児童はそれぞれ１名程度だったが、授業後興味を持ち、図書館の本を借りたり、自分で調べたりする児童が何名かいたことを各担任から聞いた。

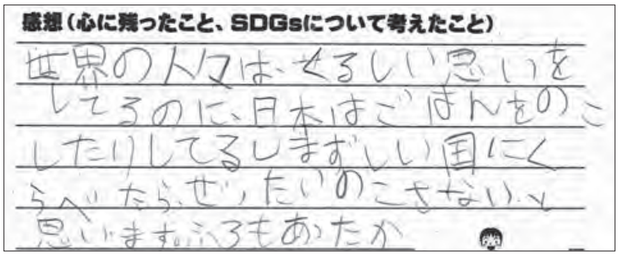


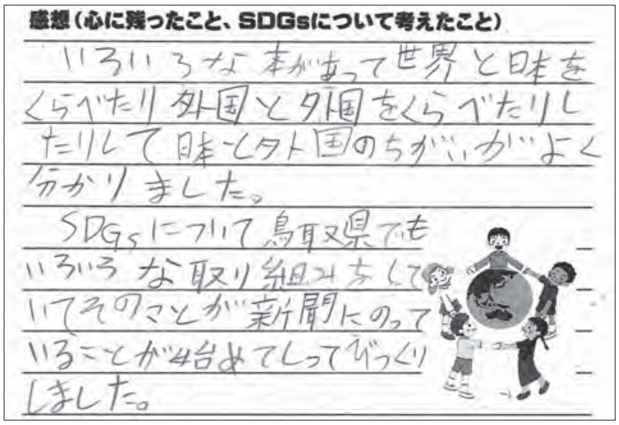
ブックトーク後　児童ワークシート

第３時の国語の学習では、「和」と「洋」について、「衣食住」の視点から違いを見つけ、それぞれのよさを説明文に表す活動を行った。「食」や「住」の違いではラオスのことが挙がったが、なかなか説明文に生かすところまではできなかった。

授業で外国のことが出てくると、児童は「ラオスと比べて…」というように、日本と同じような感覚でラオスのことを身近に感じている様子が見られた。中には、休憩時間にしりとりを始めた児童の最初の言葉が「ラオス」からはじまったことに驚いた。さらに、今まで教室にはっていた世界地図を見る児童はほとんどいなかったが、ちょっとした隙間の時間に眺める児童が増えた。また、懇談では保護者の方から、「家に帰ると、子どもが世界地図を眺めていた。『何しているの？』と尋ねると、『ラオスを探したり、ニュースで聞いた国を探したりしている』と返事があった。外国にとても興味を持ったようです」と教えていただいた。







ブックトーク後　児童ワークシート

【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

国際理解に関する学習をすすめていく中で、児童の自主学習に変化があった。SDGsについて、自ら調べまとめたり、中には目標に対する自分の意見を書いたりする児童が見られた。ブックトークを行った上学年からは、143人中、20名程度の児童が何らかの形で自主的にSDGsについて調べている。調べてきた児童には、担任から「SDGs大使」のシールをわたし、クラスでSDGsを広げていく役割を担っていくよう声かけした。また、本学級では教室にノートを掲示し、他の児童の参考になるようにした。

自分の意見を交えた児童の自学

担任が作成したSDGs大使のシール

＜授業前＞
本単元の授業前は、児童の外国に対する興味は低くはないものの、自国との相違点に目が向き、偏った見方をしている児童もあった。また、アメリカやイギリスのような先進国についてはテレビで見たり聞いたりしているものの、発展途上国についてはあまり知識がなかった。日本が当たり前で、外国の文化は違うもので受け入れにくいという意識は高かったように思う。

＜授業後＞
児童にとって、外国と言えばラオスというくらい今回紹介した国を身近に感じていた。また、ラオスをきっかけにして、外国の歴史や文化についてもっと知りたいと思う児童が増えた。さらに、世界には貧しい国があると知り、豊かな国も貧しい国も、SDGsという目標があり、世界共通で達成していく課題であることを理解した。しかし、世界共通で達成していくのは簡単なことではないという感想を持った児童もあった。

【8】自己評価

1. 苦労した点
私がラオスで見たり聞いたり考えたりした情報量が多すぎて、そこからどう絞って児童に伝えるか悩んだ。特に、私の伝えたいことをどこまで伝え、考えさせるのかということや、私の思いで偏った知識を伝えてしまわないかという心配があった。そのために、ラオスを教えることと、ラオスを通して教えることを区別し、授業作りを行った。

2. 改善点
本は児童にとって身近で、学習を深める有効な教材である。今回、ブックトークでは、本を紹介することを通して世界のことを児童に伝えた。しかし、情報がめまぐるしく変化する現代では、インターネットを有効に活用することも必要である。その際、情報活用能力を身につけ、正しい情報か判断し活用できるよう指導したうえで、インターネット等から最新の情報を使用することも大切である。

3. 成果が出た点
「先生、今度ラオスの話はいつしますか」と、ラオスをきっかけに外国のことをもっと知りたいと思う児童はとても増えた。好奇心旺盛な4年生の時期だからこそ、世界について考える素地を養うことで、高学年で「国際理解教育」につながると思った。

4. 備考
今回の研修では、物との出会いよりも、やはり人との出会いが国際理解に大切なことであると実感した。自らの価値観を変えたいと思って本研修に参加した。一緒にラオスで研修した中四国の先生方をはじめ、現地で出会ったすべての人とのコミュニケーションの中で、多様な価値観にふれることができた。これは、自らの教師生活において大きな財産となった。改めて、本研修に参加できたことに感謝し、身近な教員にすすめていきたい。

【参考資料】

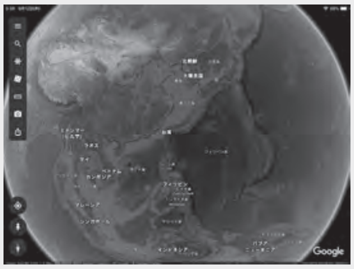
＜書籍＞
・教科書「みんなの道徳　4年」（学研）
・教科書「新しい国語 4下」（東京書籍）
・「学校ブックトーク入門〜元気な学校図書館のつくりかた〜」（高桑 弥須子（2011）／教文館）
・「SDGsってなあに？」『ちゃぐりん6月号』（中 綾子（2019）／家の光協会）
（ブックトークに使用した書籍）
・「世界のあいさつ」（長 新太 作／福音館書店）
・「手で食べる？」（森枝 卓士 文・写真／福音館書店）
・「人間の知恵23　おふろの話」（神崎 宣武、小林 稔／さ・え・ら書房）
・「世界あちこちゆかいな家めぐり」（小松 義夫 文・写真／福音館書店）
・「すごいね！みんなの通学路」（ローズマリー・マカーニー 文、西田 佳子 訳／西村書店）
・「ふたり☆同じ星のうえで」（谷川 俊太郎 文、谷本 美加 写真、塚本 やすし 絵／東京書籍）
・「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」（国谷裕子 監修／文溪堂）
・「ポリぶくろ、１まい、すてた」
（ミランダ・ポール 文、エシザベス・ズノーン 絵、藤田 千枝 訳／さ・え・ら書房）

【資料１】第１時使用スライド

基本情報

正式名称：ラオス人民民主共和国
首　都：ビエンチャン
面　積：24万㎢
（日本の本州とほぼ同じ）
人　口：685万人
（埼玉県の人口とほぼ同じ）
宗　教：仏教
物　価：日本人の月収がラオス人の年収

《メモ》
かつてはフランスの支配下
1975年 ラオス人民民主共和国成立



誰が何をするもの？

誰が何をするもの？

誰が何をするもの？

誰が何をするもの？

誰が何をするもの？

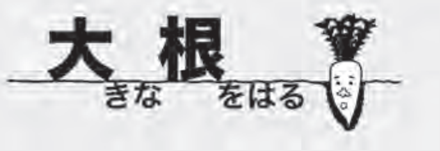
もうわかったね！

路線バスです！！

何をしている人？

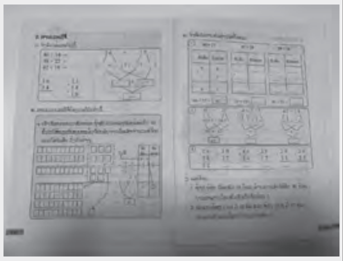
これは何？

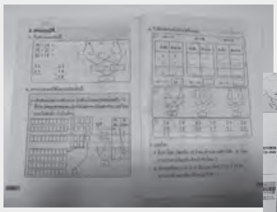
学年目標

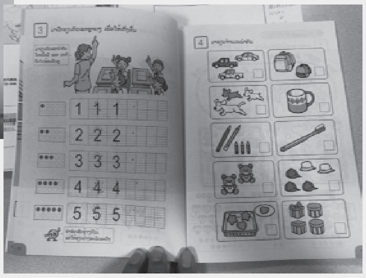


学級目標

1組　本をたくさん読む　元気なクラス
2組　ちょうせんしよう　しっぱいしたら　助け合おう！







授業実践報告

中学校編

中学生の考える、ソーシャル・アクションとは？豊かさとは？

氏　　名 ： 松下　直樹
担当教科 ： 社会科
時 間 数 ： 11時間
学 校 名 ： 愛光中学・高等学校
実践教科 ： 社会科（地理的分野）および人権LHR
対象学年 ： 中学1年生
人　　数 ： 220名

【1】単元のテーマ・目標

・チャンパサック県立病院を通して、ラオスが抱える課題を自分たちの目で見つめ、その課題の解決に向けて、自分たちのアクションプランを構想し、海外協力隊（以下、JOCV）に提案する。
・ドンコー村のくらしと自分のくらしを比較しながら、豊かさとは何かについて、自分なりの考えをつくる。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	・難題に対しても他者と協働しながら粘り強く取り組む。
（イ）思考・判断・表現	・シンキングツールなどの思考ツールを活用して思考を整理しながら、アイデアやビジョンを作る。
（ウ）技能	・学びの過程でタブレットなどの ICT 機器を的確に活用する。
（エ）知識・理解	・ラオスの抱える課題や、村のくらしのようすなどを知る。

【3】単元設定の理由

＜生徒観＞
　教師海外研修の出発前、生徒たちに「ラオスと聞いて思い浮かぶことは何か」というアンケートを実施した。回答をテキストマイニング分析したところ、ラオスと最も共起の程度が強かったのが「どこ」であった。また、実践の1時間目の授業で「SDGsを知っているか」と問うたところ、「知らない」と答えた生徒が全体の9割を超えた。実践が始まった当初の生徒たちにとって、ラオスやSDGsは遠い存在だったようである。

＜教材観＞
　新学習指導要領では、探究学習や探究的な活動を取り入れた学びがこれまで以上に重視される。実践では、中学校「総合的な学習の時間」（平成29年告示）を想定した単元構成で、生徒たちは、ラオスが抱える課題に対してソーシャル・アクションを提案したり、豊かさについて考えたりすることができる、ESDに資する教材づくりを指向する。

＜指導観＞
「教師に指示されている限り僕らは何も学んでいない」。これは、授業者の指導観の根底である。決して、生徒たちには教師からの指示や答えを待つだけの受け身的な人であって欲しくはない。自分たちで考え議論を重ねながら、アイデアを生み出すことや、ビジョン・ルールを形成する力を存分に培って欲しい。何よりこうした学びの楽しさを知って欲しい。

【4】展開計画（全４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「SDGsとは何か」 ・地域的枠組みを考慮して、SDGsの目標、それぞれについて重要性を考える	(1) ロイロノート・スクールを使い、SDGsという言葉を知っていれば赤、知らなければ青のカードを提出する (2) SDGsとは何か、『未来を変える目標―SDGsアイデアブック』から作成した資料をもとに少しずつ理解する (3) 開発途上国と地元それぞれについて、SDGsの17の目標を重要度の高い順に、ダイアモンドランキングを使い、ランク付けする (4) 開発途上国と地元のランキングとを比較し、ランク付けの理由などをグループで共有する	・タブレット ・『未来を変える目標―SDGs アイデアブック』
2	「チャンパサック県立病院からみえる課題」 ・フォトランゲージを通して、ラオスの課題を発見する	(1) チャンパサック県立病院内で撮影された、グループごとに異なる11枚の写真にタイトルと簡単な解説文を付ける (2) グループごとに紹介し、クラス全体で共有する	・タブレット ・チャンパサック県立病院内の写真（JOCV 吉田さん提供） ・ポストイット付箋 ・A3 用紙 ・ブロッキー
3	「チャンパサック県立病院からみえる課題の整理」 ・メールの内容を踏まえ課題を再発見し、整理する	(1) JOCV吉田さんからのメールの内容を確認する (2) メールの内容をもとに、病院の抱えている課題・ラオスの課題について、読み取れること、考えられることを付箋に書き出す (3) グループで、出揃ったアイデア（付箋）をウェビングとベン図を使い、SDGsの観点でグルーピングする →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのウェビングおよびベン図を完成する	・タブレット ・メール（JOCV 吉田さん提供） ・ポストイット付箋 ・ポストイット付箋 ・イーゼルパッド ・ブロッキー
4	「チャンパサック県立病院からみえる課題の整理」 ・どの課題の解決に取り組むか決定する	【設定：2年間の任期でチャンパサック県立病院に派遣されたJOCVの看護師】 (1) 前時にグループで挙げた課題について、座標軸を使い、解決に向けた実現の可能性を探る (2) グループで、解決に向けて取り組む課題を1つ選定する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループの座標軸を完成する	・タブレット ・ポストイット付箋 ・ポストイット付箋 ・イーゼルパッド ・ブロッキー
4・5	「チャンパサック県立病院からみえる課題の原因分析」 ・選定した課題の原因を分析する	(1) くまでチャート（ロジックツリー）を使い、原因を細部まで分析する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのくまでチャートを完成する	・タブレット ・ポストイット付箋

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
5・6	「チャンパサック県立病院からみえる課題の解決策の構想・提案」 ・解決に向けたアイデアを練り、JOCV 吉田さんに提案する	(1) 前時のグループでの原因分析を踏まえて、どこに課題解決の糸口を見出すか考え、ステップチャートで課題をどう解決していくか論展開を考えながら、プロット図でその過程で現状がどう変化するか経過を示す (2) これまでを受けて、グループでストーリーボードを作成する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのストーリーボードを完成する →ロイロノート・スクールを使い、グループで作成したストーリーボードを提出し、JOCV吉田さんからフィードバックを受ける →ロイロノート・スクールを使い、リフレクションシートを提出する	
7	「JOCV 吉田さんから学ぶ」 ・JOCV 吉田さんがチャンパサック県立病院に赴任して、これまでどのようなことをして来たか、あるいはこれからしようと考えているのか、自分たちの提案したストーリーボードと比較しながら学ぶ ・JOCV 吉田さんの日々の成功や失敗談、葛藤などをありのままに話してもらうことで、自分の将来を考えるきっかけをほんの少しつかむ	(1) JOCV吉田さんによる講演 (2) ZOOMを使い、質疑応答など交流 (3) ロイロノート・スクールで、JOCV吉田さんに感想を提出する	・タブレット
8～10	「ソーシャル・アクションを考える」 ・中学生として、ラオスの病院あるいはラオスが抱える課題の解決に向けて、自分たちなりのアクションプランを構想し、提案する	(1) ロイロノート・スクールを使い、4時間目に作成したグループの座標軸を、ダイアモンドランキングに切り替え、「何とかしたいと思うこと」の順にランキング付けする (2) ランキングをもとに、グループで解決に向けて取り組む最も何とかしたいと思う課題を1つ選定する (3) グループで選定した課題に対して、『ソーシャル・アクション・ハンドブック―テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』のアクションの分類を参考に、中学生のあなたたちが考えるソーシャル・アクションのアイデアを、付箋やGoogleドキュメントを使って書き出す (4) SDGsを参考に、バックキャスティング思考で、「課題がある現状がどうなって欲しいか」というビジョンを描きながら、グループでのソーシャル・アクションを、Xチャートを使いまとめる	・タブレット ・ポストイット付箋 ・『ソーシャル・アクション　ハンドブック―テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39 のアイデア』

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		(5) 前時までを受けて、グループでアイデアシートを作成する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのアイデアシートを完成する →ロイロノート・スクールを使い、グループで作成したアイデアシートを提出する →Googleフォームを使い、授業アンケートに回答する	
11 本時	「豊かさとは何か」 ・自分にとって豊かさとは何かを考える	(1) ドンコー村のようすを知る (2) ジョン・フリードマンによる貧困の「力の剥奪」理論を参考にレーダーチャートを使い、ドンコー村の人たちの豊かさについて、8つの項目について、どの程度整っているか4段階で評価する (3) ロイロノート・スクールで提出されたレーダーチャートをいくつか紹介しながら、全体で共有する (4) ドンコー村で出家した少年たちについて知る (5) 同様のレーダーチャートを使い、自分の豊かさについて、8つの項目について、どの程度整っているか4段階で評価する (6) ドンコー村のレーダーチャートと、自分のレーダーチャート比較し、改めて、豊かさとは何か考える →「あなたが考える豊かさとは何かという小レポート（800～1,200字）をGoogleドキュメントで作成し、Google Classroomで提出する	・タブレット ・ステイ中に撮影した写真や動画 ・『開発教育教材 豊かさと開発— Development for the Future』

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入（5分）	本時の目標：自分にとって、豊かさとは何か、考える		
	○本時の目標を確認する	・これまでの10時間のまとめとしてこの授業を行うことを伝える	
展開（35分）	○ドンコー村のようすを知る	・Google Earthでドンコー村がメコン川の中州に位置することを紹介する ・ドンコー村の人口および平均年収を紹介する ・2日間のホームステイ経験を授業者の主観が入らないように脚色せずありのまま紹介する	・ステイ中に撮影した写真や動画

中学校編

		①パクセー国際空港へ ②メコン川を渡る ③村の子どもたちと遊ぶ ④子どもたちによる村案内 ⑤バーシー ⑥ステイ先の家 ⑦翌朝 ⑧村の生業 ⑨出発前	
	○ドンコー村の人たちの豊かさを考える ・ロイロノート・スクールを使い、理由を考えながらレーダーチャートを個人で作成する ・個人で作成したレーダーチャートをグループ内で共有し、作成したレーダーチャートについて、意見を交換する	・ロイロノート・スクールで提出されたレーダーチャートからいくつか取り上げて、ドンコー村の豊かさについて全体で共有する	・ジョン・フリードマンによる貧困の「力の剥奪」理論を参考にしたレーダーチャート（出典：『開発教育教材　豊かさと開発―Development for the Future』）
	○ドンコー村で出家した少年たちのことを知る	・3枚の写真を見せて、「違和感がないか」問いかける ①子供たちとした大縄跳び ②大縄跳びのようすをスマートフォンで撮影する2人の少年 ③レセプションセンターの外からこちらのようすを見つめる2人の少年 ・2人の少年たちは13歳、出家して1年目の僧侶であることを伝える ・2人の少年に通訳者を通じて「輪に入らないのか」と聞いところ、「女性がいると輪に入っちゃだめなんだ、そういう決まりだから」という答えが返ってきたことを伝える ・2人の少年は、自分の意思とは裏腹に、家庭が貧しかったり、親がいなかったりという理由で僧侶になったことを伝える ・出家すれば、寝食だけでなく教育も保証されることを伝える ・「この少年たちの豊かさとは」と問いかける ・これまでの10時間の中でとくに印象に残った生徒たちの言葉を紹介する	・ステイ中に撮影した写真

		①自分たちが、こうしたい・ああしたいと思って、今考えているソーシャル・アクションって、ラオスの人たちは、どれくらい望んでいるのだろう…日本（先進国）的な考え方を押し付けるだけになっていないか ②かわいそう…結局、カネかよ…ごめん撤回する、なんか違うんじゃないか	
まとめ （10分）	○自分の豊かさを考える ・ロイロノート・スクールを使い、理由を考えながらレーダーチャートを個人で作成する	・ドンコー村の豊かさを考えたレーダーチャートをもう一度確認するよう伝える ・「豊かさの概念は、1人1人違うのではないか」と問いかける	・ジョン・フリードマンによる貧困の「力の剥奪」理論を参考にしたレーダーチャート（出典：『開発教育教材　豊かさと開発―Development for the Future』）

【授業実践の様子】

ステイ経験の紹介

レーダーチャートの作成

レーダーチャートの紹介

【6】本時の振り返り

・生徒たちが抱きがちな「先進国は開発途上国より豊かである」というステレオタイプを払拭することに、少なからず寄与できたかもしれない。
・生徒たちは、豊かさの概念は、人によって異なり、それらは相互に承認・尊重されるべきもので、決して剥奪されてはならないものであると、改めて考えることができたかもしれない。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

○3時間目のリフレクションシートより抜粋

チャンパサック県立病院を通してラオスの医療が抱える課題を目の当たりにした生徒たちからは、現実を直視できないようすも見受けられた。

・「チャンパサック県立病院と、日本の病院との違いに驚いた。ペアンを放っていたり、ベッド・病室の不足など、日本ではありえないようなことが県立病院で行われてしまっていることに驚いた。他の病院はどうなのか気になってしまった。もっとひどいのかも…」

・「11枚の写真の中でほとんどが残酷な病院とは思えない写真ばかりで、みるのも辛いくらいの写真も多くあり、自分たちの班では古く汚れていたトイレの写真で予想通り個数も少なく、このようなものが病院にあることから、いかに自分たちが恵まれた環境の中で生活していたということを感じ、どうして、世界は平等ではないのだろうと思いました」

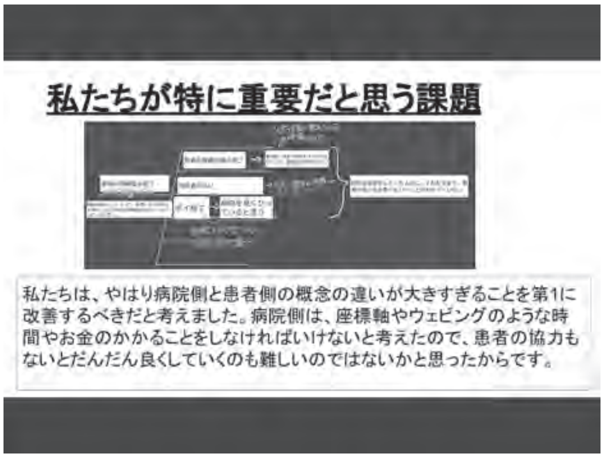
・「自分が思ってたよりラオスの現実が酷くてビックリしました。他の国から届いた医療器具を使わないことが理解できませんでした。でも、街で1番の病院なのにとても貧しく病院の設備が全然揃ってなくて日本の暮らしからは全く想像出来ませんでした」

・「メスの使い回しは非常に衛生面に問題があると思う。メスを使って手術を行うため、メスが汚かったら体全体に細菌が広がるのでは？と感じた。こんな状況は実際に見たいものではなかった」

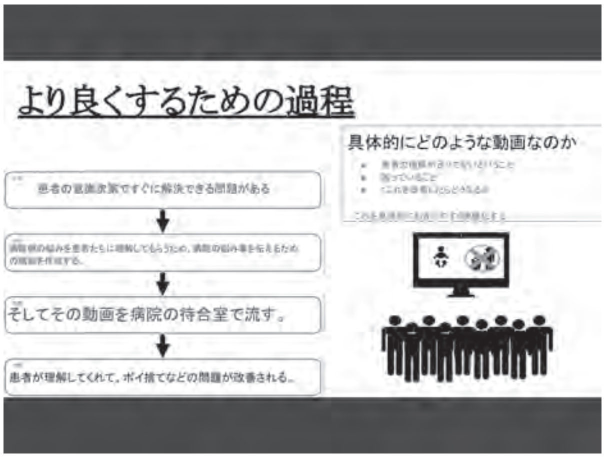
○生徒たちが作成したストーリーボード例

1

2



3



4

5

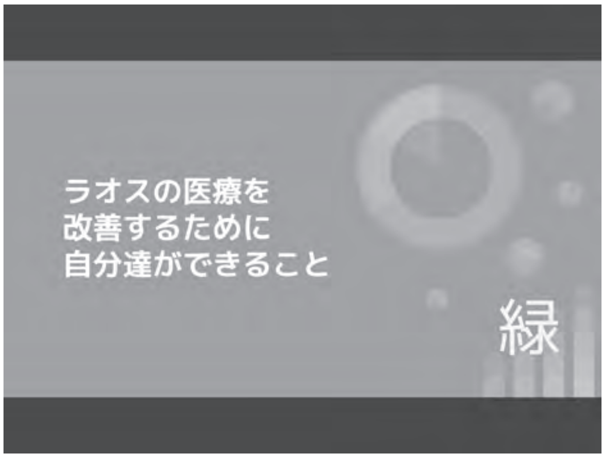
○6時間目のリフレクションシートより抜粋

生徒たちはJOCVとして課題解決に向かうストーリーボードを作成する過程で、少しずつSDGsを意識しながら、ラオスの課題がある現状が変わることを望むようになってきた。

・「ラオスの病院の課題や実態を写真から読み取り、その原因を明確にし、解決策を考えた。病院の環境は日本の病院とは大違いで、予想よりもひどいなと感じた。日本と違ってお金がなかったり、衛生観念が違ったりしていて患者の健康にも影響が出ているのだと思った。そして、二年間の看護師の時間を想定して、私たちは、JICAの支援物資の問題について考えることにした。課題の解決に少しでも貢献できるように解決策を出して、そのプロセスなどを細かく考えた。今回考えた私たちの考えが実際に行われて、ラオスの病院、その環境が豊かになって誰もが幸せになれるようになってほしいと改めて感じ、もっとSDGs持続可能な開発目標を世界で達成するのに貢献したいと思った。また、自分たちの考えが国境を飛び越えてラオスの人々に届いて欲しいと強く思った」

・「何ていうか本当に協力隊員になれたような感じでやれて、良くないラオスの現状をより一層知ることができたと思う。今は病院内の問題をやっていて、答えのない答えを探して苦心しているが、病院の外で病院すら入れない人もいることを忘れてはいけないと思う。他にも『してあげる』ではなく対等に接してあげないといけないのではないかと授業中思うことがあるが、よくうまく表せない。ラオスの人々のために本気になって考えているのかと言われても自分を含めてどうなのだろうか？自己中ではいけないと思う」

○生徒たちが作成したアイデアシート例



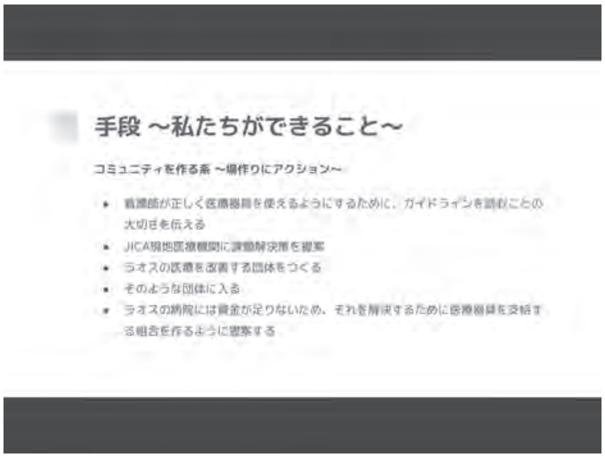
1

2

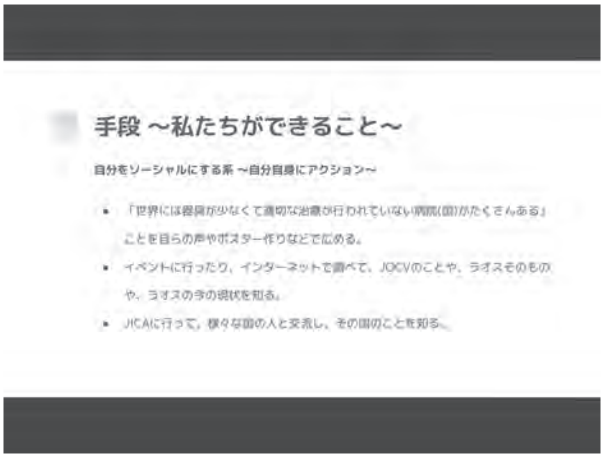
3

4

5



6



7

8

○10時間目の授業アンケートより抜粋

生徒たちは、ソーシャル・アクションについてのアイデアシートを作成する過程で、ラオスの課題はもちろん、グローバルあるいはローカルな課題に対して、「自分たちは何がしたいのか」「自分たちに何かできることはないのか」と、徐々にではあるが考えられるようになってきた。学びの自分ごと化とはこういうことなのかもしれない。

・「初めにラオスの中では大きい病院でもあれだけ不衛生で教育も行き届いていなかったため、特に物資を実習生などに見せてあげたいから使わないという考えに驚きました。また自分たちはその病院を変えることをとても簡単に考えすぎていたことを吉田さんの話を聞いてわかりました。そして、このラオスの課題を解決するかを考えたときに物資を集めたり学習環境を変えたりすることばかり考えて、日本化しようとしていたけど、それが正解なわけではないと考えた」

・「（省略）今ラオスではどんなことが起きているんだろう、そんなことを考えることが授業をしてからあります。ラオスだけではありません。他の国でも紛争やら難民やらいろんなことが起きています。そんな中で今自分が悠々と生活しているとなんだか申し訳なく思います。何でも自由に出来る自分達にとって今するのは何なのか少しでもいいから考えてみるのが大切だとおもいました」

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

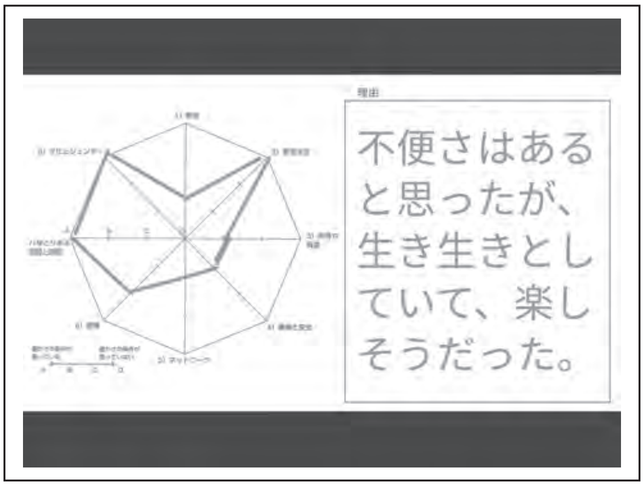
○7時間目の感想文より抜粋

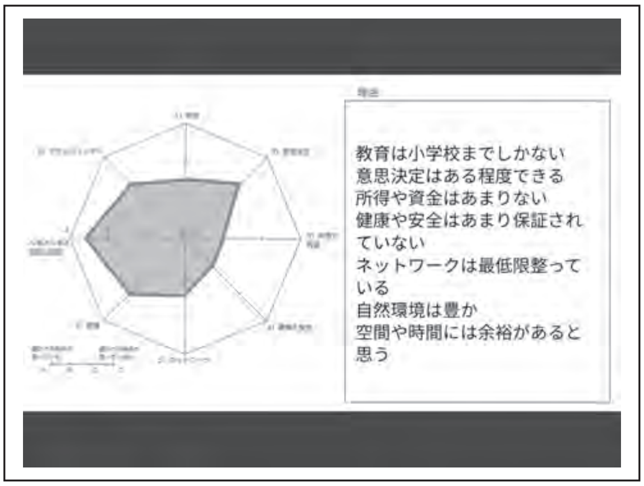
JOCV吉田さんとの交流を通じて、生徒たちのなかには、国際協力やボランティア、医学などへ興味・関心を抱き始めたり、それを強固なものにしたりした者もいたようである。「自分の人生を自分で始める」きっかけを提供できたのかもしれない。

・「（省略）ぼくはボランティア系の仕事に興味があります。ボランティアに限らず、『人を助けられる／人のためになる』仕事に興味があります。なんとなくやってみたいなと思っていたのですが、あまり実感がわいていませんでした。しかし、この講演で、このような仕事では、指導やそれの強化が大事なんだなと分かりました。仕事以外のことでも、このように人のためになることをして生きていこうと思います」

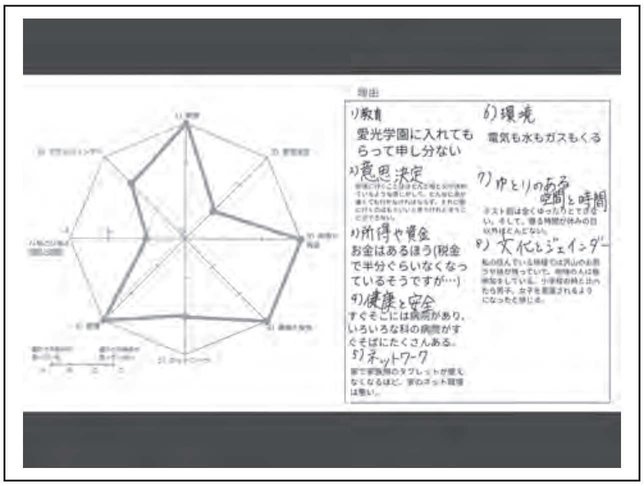
【途上国・異文化への意識の変容】

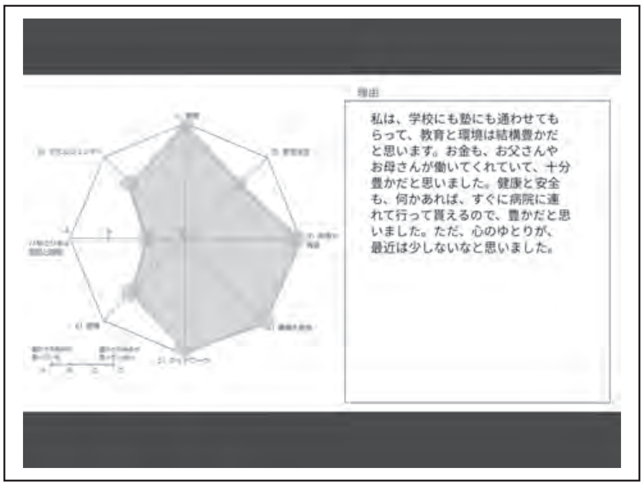
○11時間目の授業で作成したドンコー村の豊かさに関するレーダーチャート例





○11時間目の授業で作成した自分の豊かさに関するレーダーチャート例





○レポート「あなたが考える豊かさとは何か」例

豊かさとは何かと聞かれて一番に思いつくのはお金があることというイメージがあるが、本当にそうなのか。確かにお金は必要だが、お金だけ持っていても豊かだとは言えないと思う。 私が考える豊かさとは、心が豊かであるということである。 私の従兄弟はジャパンハートの長期医師ボランティアだ。ジャパンハートとは、ミャンマー、カンボジア、ラオスを中心に「医療の届かないところに医療を届ける」ことを理念に、医療が届かない場所で失われてゆく「命」を一つでも多くつなぎとめるために活動している。この活動は皆が平等に医療をうけることができ、生まれてきてよかったと思える社会をめざしている。 ボランティア活動なので一銭もお金をもらっていない。それでも従兄弟は、自らの意志で活動に参加している。しかし、活動をしている中で得るものが大きいと言っている。これはどういうことなのか。 それはお金以上に得るものがあるからだろう。 1つ目はやりがいだ。 患者さんの心を救う医療がそこにはあり、患者さんの感謝、喜び、笑顔が力になるのだろう。 2つ目は技術だ。 実際にジャパンハートでは5日で59件の手術がおこなわれる。その中には、長い間病気をほったらかしにし、ひどく悪化していて日本では有り得ない様な症状の患者さんもいる。多くの症状に触れることにより、技術が身につくのだろう。 3つ目は対応力だ。 十分に設備が整ってない場所で、限られた時間の中で限られたものを使って、様々な症例に立ち向かうためには、臨機応変に動かなければならない。だから、対応力が身につくのだろう。人のためにやっているのだが結局は自分のためになり、日本に帰ってきたときに役に立つのだと思う。 心の豊かさはお金ではなく、人が人を想う気持ちで感じるのだと私は考える。 だから、私の従兄弟は日本から離れた海外で、しかも発展途上国で一銭ももらわずとも医療活動に励むことができているのだろう。

【8】自己評価

1. 苦労した点

課題解決学習に一貫して取り組んだことで、終始、ラオスの課題にスポットが当たり続けてしまい、教師海外研修中に感じた「ラオスの良さ」や「ラオスらしさ」をなかなか紹介することが難しく、一歩間違えると生徒たちに、ラオスという国に対する偏った見方や考え方を抱かせかねなかった。

2. 改善点

生徒たちが作成したストーリーボードやアイデアシートを、発表する時間を確保できなかったことが大変悔やまれる。ポスターツアーなどの手法を取り入れて、生徒たちのプレゼンテーションを相互に評価し合う機会を提供すべきだった。

3. 成果が出た点

・教師海外研修前から意識していた、「教師が生徒に対して“ラオスを教える授業”ではなく、生徒たちが“ラオスで考える授業”」の実践に懸命に取り組むことができたと思う。
・ICTを積極的に活用したことで、ラオスと愛媛をつなぐ遠隔授業ができたことや、生徒の作成したストーリーボードやアイデアシートへ、JOCV吉田さんからフィードバックをもらうことができた。
・この単元を通じた生徒たちの学びを、JICAラオス事務所のFacebookページを通じて世界に発信することが叶った。

4． 備考

今回の研修を契機として、授業者は、開発教育のスタートラインに立った。今後は、授業実践にとどまることなく、いかにして本校をあげた取り組みにしてゆくか、生徒たちと次なるビジョンを描こう。

【参考資料】

＜書籍＞

・泉 貴久・梅村 松秀・福島 義和・池下 誠編2012.
『社会参画の授業づくり―持続可能な社会に向けて』 古今書院.

・一般社団法人 Think the Earth編2018. 『未来を変える目標―SDGsアイデアブック』紀伊國屋書店

・株式会社 アンド2018.
『ビジネスフレームワーク図鑑―すぐ使える問題解決・アイデア発想ツール70』翔泳社.

・株式会社 アンド2019.
『思考法図鑑―ひらめきを生む問題解決・アイデア発想のアプローチ60』翔泳社.

・栗田佳代子・日本教育イノベーションセンター2017.
『「学びの場」を変えたいすべての人へ インタラクティブ・ティーチング―アクティブ・ラーニングを促す授業づくり―』河合出版.

・黒上晴夫2019. 『ロイロノート・スクール シンキングツールを学ぶ』株式会社 LoiLo.

・近藤 牧子・西 あい編2016. 『開発教育教材 豊かさと開発―Development for the Future』
特定非営利活動法人 開発教育協会（DEAR）.

・佐宗邦威2019. 『直感と論理をつなぐ思考法―VISION DRIVEN』ダイアモンド社.

・ソーシャル・アクション ハンドブック作成チーム編2017.
『ソーシャル・アクション ハンドブック―テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』特定非営利活動法人 開発教育協会（DEAR）.

・ダン・ロススタイン、ルース・サンタナ著、吉田新一郎訳（2015）
『たった一つを変えるだけ―教師も生徒も自立する「質問づくり」―』新評論.

＜Webサイト＞

・文部科学省「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」
（https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm）

・文部科学省「中学校学習指導要領」（平成29年告示）
（https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf）

平和な世界を築くためにできること
～ラオス原爆展との交流を通して～

氏　　名：中川　尚子	学 校 名：岡山市立操南中学校
担当教科：英語科	実践教科：総合的な学習の時間・道徳・英語
時 間 数：９時間	対象学年：２年生
	人　　数：242名

【１】単元のテーマ・目標

・ラオスで活動する青年海外協力隊員による「原爆展」と交流することを通して、その活動や協力隊員の方々の想いを知る。
・一連の平和学習と関連付け、平和な世界を築いていくのは自分たちであることを意識し、そのために自分たちが行動することの大切さに気づいたり、その行動について考えることができる。

【２】単元の評価規準例

(ア)関心・意欲・態度	ラオス原爆展や、協力隊員の活動に関心を持ち、平和な世界を築いていくために大切なことについて、自分事としてとらえ、真剣に考えようとする。
(イ)思考・判断・表現	平和な世界を築くために大切なことについて、自分の考えを持つことができる。
(ウ)技能	グループ活動において、自分の考えを聞き手に伝えたり、人の意見を聞いて、自分の考えを深めることができる。
(エ)知識・理解	原爆についての各国のとらえ方の違いを知ったり、ラオスでの原爆展について知る。青年海外協力隊の活動について知る。

【３】単元設定の理由

我が校の2学年の総合的な学習のテーマは、広島研修を柱とする「平和学習」である。また、今年度は国際理解教育の一環として、ワトト・チルドレンズ・クワイア（HIVや内戦で親を失ったウガンダ孤児たちのゴスペルグループ）との交流会も実施するため、これらの一連の「平和」を考える学習と関連付けた取り組みにしたいと考えた。

＜生徒観＞
生徒たちは昨年度、カンボジアの地雷撤去に関する講演会を経験し、国際協力・国際貢献や平和についての学習への関心が高い生徒もいる。ボランティアに進んで参加する生徒も多い。しかし学年やクラスでの友達関係の中では、排他的な考え方や、いじりやからかいなどもある。自分とは異なる考え方を受け入れられなかったり、困っている人がいても無関心であったり、自分からは行動にうつせない生徒もいる。世界の平和について考えることで、自分の身近な平和についても考え、自らの行動につなげていくようにさせたいと考えた。

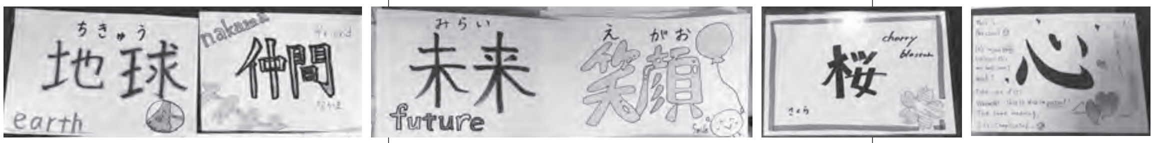
＜教材観＞
「ラオス」は生徒たちにとってはなじみの少ない国であり、JICAについての知識もあまりない。ラオスの原爆展との交流が唐突にならないように、ラオスを知ることや、JICAの活動について知らせる授業も取り入れた

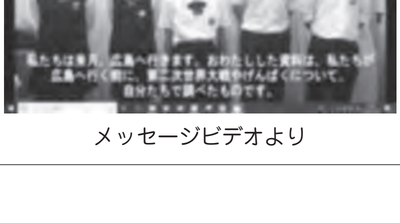
後、ラオス原爆展との交流を行うようにした。平和への熱い思いを持って原爆展に取り組む協力隊の方々からのビデオメッセージをいただくことで、平和について考えるだけで終わらせず、平和な世界を築くために、自分自身がどのような生き方をしていけばよいのかについても考えさせたい。

＜指導観＞

広島研修を通しての「平和学習」の後、平和な世界を作るために「自分は何をするのか」を自分事として考えさせたい。「世界の平和」となると、生徒たちにとっては壮大すぎるテーマであるが、平和な世界を築くための考え方や行動は、自分の身近な人たちとのより良い関係を築いていくための考え方や行動とも共通することに気づかせ、生徒一人一人に自分なりの答えを考えさせたい。また、ラオスの原爆展に自分たちが作った資料を提供し、その資料を使って原爆展で学習するラオスの学生さんの様子を知ったり、フィードバックをもらうという体験を通して、世界の人に発信することや世界の人と交流することの大切さにも気づくことができると考える。

【4】展開計画（全９時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「漢字紹介カードを作ろう」 ・教師海外研修でラオスへ行くことを知らせ、お土産を作ることでラオスへの関心を高める。	・ラオスの学生さんに紹介したい漢字カードを作成する。 ※日本語を勉強している学生さんへのお土産にすることを知らせる。  生徒の作成した漢字カード	・映像 ・スライド資料 ・学習カード
2 英語	「ラオスってどんな国？」 ・ラオスについて知る ・JICA について知る。	・JICA について説明する。 ・ラオスの基本情報や観光地など、簡単な紹介をする。 ・ラオス日本センターの学生さんとの交流、漢字紹介カードを渡した様子の動画を見る。 ・ラオスクイズをする。 各クラス８班に分かれてクイズに挑戦する。 Q1～Q8の写真や実物を見て答える。 ・答え合わせをしながら解説する。 ※２クラス合同×４で全クラス行った。 授業の様子	・問題カード Q1 ～ Q8 ・民族衣装シン ・ティップカオ ・不発弾から作られたスプーンとアクセサリー ・スライド資料【資料1】 ・ワークシート ・問題シート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
他 道徳	「いのちのもちものけんさ」 ・喪失の疑似体験をすることによって、内戦を体験したウガンダの子供たちの心情を理解し、命の大切さについて考える。	・※「いのちのもちものけんさ」のワークショップをする。 ・ウガンダの内戦、少年兵についての資料を読む。 ・ワトトについての DVD を見る。	※国連 UNHCR 協会開発のワークショップをアレンジして実施
他 総合	「JICA 国際協力出前講座」 ・元青年海外協力隊員による講演会（全校）	・ウガンダで青年海外協力隊員として活動された元隊員の方から、ウガンダの文化、歴史、協力隊の活動、国際理解・国際貢献についてのお話を聞く。	
他	「ワトト交流会・コンサート鑑賞会」（全校）	・ウガンダからのワトト・チルドレンズ・クワイアの子どもたちと体育遊びを通して交流する。 ・ワトトのコンサートを鑑賞する。	
3・4 総合	「広島研修事前学習」 ・第二次世界大戦や原子爆弾、核兵器の現状、核廃絶へ向けた取り組み等について知る。	・広島研修実行委員が、放課後の時間を使って、それぞれのテーマ別に調べ学習を行い、スライドにまとめ、学年全体に向けた授業を行う。 ≪テーマ≫ ①第二次世界大戦・世界の歴史 ②太平洋戦争・日本の歴史 ③原爆の威力と被害 ④キノコ雲の下の様子（写真集） ⑤戦後の世界と核兵器の現状、核廃絶に向けた取り組みについて ⑥在日韓国人被爆者について ・ラオスの原爆展を紹介し、作成したスライド資料などを使ってもらうこと、ラオス原爆展で作成された折り鶴を、自分たちが作った折り鶴と一緒に奉納することを知らせる。	・生徒作成スライド【資料２】
他	「メッセージビデオ作成」	・広島研修実行委員が、ラオス原爆展へのメッセージビデオを作成し届ける。  メッセージビデオより	・メッセージビデオ

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
他	「在日韓国人被爆者講演会」 ・太平洋戦争や原爆について、多角的にとらえる。	・在日韓国人被爆者の被爆体験を、ご本人から直接聞き、原爆被害について、多角的に考えられるようにする。 ・太平洋戦争における、日本による韓国植民地の歴史や韓国人差別などについても知る。	・振り返りシート
他	「広島研修」 ・戦争の恐ろしさを知り、平和の尊さ、命の大切さ、平和を願う心を学ぶ。	・広島平和記念資料館、原爆関連施設や碑などを巡り見聞したことを、新聞にしてまとめる。 ・「原爆の子の像」の前で平和集会を行い、生徒全員で折った折り鶴と、ラオス原爆展で学生さんが作成した折り鶴を一緒に奉納する。 平和集会の様子	・折り鶴 （操南中学校） ・折り鶴 （ラオスより） 奉納した２つの折り鶴
5 社会 英語 合同授業	「貿易ゲーム」 ・世界にある「格差」や、貧困から抜け出せない構造的な要因などを体感し国際協力の重要性について考える。	・貿易ゲームのルールを説明する。 ・各グループで相談しながら製品を作り、世界銀行へ売る。 ・集計結果を報告し、勝利国を決める。 ・「貿易ゲーム」を通して気づいたこと、感じたことをクラスで共有する。 ・世界にある「格差」が戦争を引き起こす要因になりうることをおさえる。 ・個人で感想を書く。 社会科教員との協同授業	・貿易ゲームのルール説明シート ・B4 用紙 ・図形制作用道具 ・グループ分の封筒 ・紙幣 ・点検用の図形 ・振り返りシート
6 道徳	「道徳　どう解く？」 ・答えのない問いに、自分の意見を持ち、意見交換をしながら考えを深める。	・「戦争はみんないけないことだと分かっているのに、世界中で戦争がなくならないのはどうしてだろう？」という問いに対する答えを考える。 ・個人→グループで共有→クラスで共有の後、もう一度個人で考えを書くことによって、考えを深める。	・道徳ノート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7 道徳 本時	「世界の平和を作るために」 ・戦争のない平和な世界を作るためにはどうしたらよいのか、自分の考えを持つ。	・アメリカの原爆のとらえ方は日本と大きく違っていることを紹介する。 ・ラオスの歴史の教科書を紹介し、学校では原爆については詳細を教えられていないことを知らせる。 ・協力隊の方々のラオス原爆展の様子の動画とビデオメッセージを見る。 ・留学先した学校のキノコ雲のロゴマークに異を唱えた日本人高校生の新聞記事と動画を見る。	・スライド資料【資料3】 ・ラオス原爆展・協力隊員メッセージ動画 ・「わたしがいるのは、あの日が曇りだったから」 新聞記事・動画
8 総合	「戦争をなくす方法」 ・戦争のない平和な世界を作る方法について話し合い、考えを広げたり深めたりする。	・「戦争を未然に防ぐための取り組み」について、班でランキングを付けることを通して、意見交換をする。クラスで共有する。 ・動画「戦争の作り方」を見る。 ・個人で感想を書く。	・「戦争をなくすための方法」ランキングカード・ワークシート【資料４】 ・「戦争の作り方」動画
9 道徳	「平和な世界を築くためにできること・私の行動宣言」 ・平和な世界を築くために、今自分が出来ることは何かを考え、自分の言葉で表す。	・前回書いた感想やキーワードをまとめたものを配布し前回の振り返りをする。 ・道徳資料「私のせいじゃない」（いじめ問題）を読む。 ・「誰にとっても居心地の良い学級を作るための方法」について、班でランキングを作ることで意見交換をする。クラスで共有する。 ・「いじめ」を引き起こす原因と「戦争」がなくならない原因に共通点があることに気づかせる。 ・世界の平和を身近な平和を築くことからとらえ、今自分にできる行動宣言を作る。 ・廊下に掲示し、学年全員で共有できるようにする。	・プリント（生徒感想からのキーワード） ・道徳教科書「私のせいじゃない」 ・「誰にとっても居心地のよい学級をつくるための方法」ランキングカード・シート ・行動宣言用紙【資料5】
他	文化祭での展示 図書館への展示 ・展示物や写真を通してラオスやJICA の活動に興味を持つ。（全校の希望者）	・教師海外研修で見聞したことを模造紙にまとめたものや現地のものを展示。 図書館展示	 文化祭展示

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5 分）	1. これまでの学習を振り返る。	・ワトト交流や広島研修を通して、学んできたことを振り返る。 ・今日の授業を通して、戦争のない平和な世界を作るために大切なことは何かを考えるよう伝える。	
展開 （40分）	2. 原爆投下に対する、アメリカ側の見方を知る。	・アメリカの高校にあるキノコ雲のロゴマークや、原爆が開発された町の博物館で売られている原爆のアクセサリーなどの画像を見せることで、原爆を肯定する見方が現在もあることが分かるようにする。 ・トルーマン大統領の言葉を紹介し、当時の戦況や、アメリカの原爆投下への見方が理解できるようにする。	・スライド資料
	3. ラオスの学校では、原爆についてどのように教えられてるかを知る。	・ラオスの歴史の教科書を見せたり、現地でラオスの人から聞いた話を紹介する。	
	4. ラオス原爆展の様子と原爆展に関わった協力隊員の方々からのビデオメッセージ動画を見る。	・広島研修実行委員が作った資料やメッセージ動画が実際に使われている様子を見せる。 ・「平和な世界を作るために大切なことは何か」について、思い浮かんだことをメモさせる。	・ラオス原爆展の動画と協力隊員からのビデオメッセージ 【P.108 参照】
	5. 留学先した学校のキノコ雲のロゴマークに異を唱えた日本人高校生の新聞記事と動画を見る。	・今年６月の記事であることや、年の近い高校３年生の女の子の話であることを伝え、親近感をもたせるようにする。 ・留学先は原子爆弾のプルトニウムを生産し、核関連産業の盛んな町であり、アメリカでも原爆については様々な意見があることにも触れる。	・新聞記事（抜粋） ・「わたしがいるのは、あの日が曇りだったから」動画 ※NHK WEB NEWS（2019年6月28日)より
	6. 自分の考えをワークシートに書く。 ◎平和な世界をつくるために大切だと思ったことは、どんなことですか。	・次回の意見交換が活発になるように、思い浮かんだことはすべて書くようにさせる。	

まとめ	7. まとめをする。	・次回、今日考えたことを元にクラスで意見交換をして、考えを深めることを告げる。	

【授業実践の様子】

学年道徳という形での授業

アメリカリッチランド高校の
ロゴマーク（キノコ雲）の紹介

協力隊員メッセージビデオ

【6】本時の振り返り

生徒たちは広島研修を通して原爆の恐ろしさを学んできた。アメリカにある「原爆投下が戦争を終わらせ、多くの命を救った」という原爆投下を肯定する考え方や、ラオスでは「原爆が落とされ戦争が終わった」という事実のみが教えられていていることを知ることで、原爆被害の恐ろしさを知る世界で唯一の国の日本人として、世界に伝えていくことの重要性を感じることができていた。世界で一番多く不発弾が残るラオスと、世界で初めて原爆を投下された日本の二国間で、平和への思いを共有したいという熱い思いを持って原爆展の活動に取り組まれている協力隊員の方々からのメッセージは、生徒の心を揺さぶる言葉であふれており、平和な世界を作るために大切なことは何かを、メッセージの中からたくさん感じ取ることができていた。また、平和な世界は当たり前にあるものでも勝手に与えられるものでもなく、自分たちが行動することで築いていかなければならないものであることにも気づくことができていた。世界の平和という壮大なテーマだが、生徒たち自身の身近な行動へとつなげて考えていけるようにさせたい。

【7】単元を通した生徒の反応

※生徒ワークシート・感想より

【2時】「ラオスってどんな国？」

・日本とはちがう文化がたくさんあっておもしろかった。
・日本には日本の良さがあり、ラオスにもラオスの良さがあることをすごく感じた。
・日本の当たり前と外国の当たり前は違うんだなと改めて実感した。
・もっと海外のことが知りたくなった。他の国についても調べてみたい。
・なぜ日本が発展途上国を援助するのかがよく分かり、途上国を支援していかないといけないと思った。
・今日の授業までラオスなど全く興味がなかったけど、クイズをしたりして面白そうだなと興味が持てたのでもう少し調べてみたいと思った。
・私は他の国にとても興味がわいたので、もっと海外に目を向けていきたい。大きくなったら青年海外協力隊をやってみたいと思った。
・途上国は環境も悪いのかと思っていたけど自然がすてきでびっくりした。途上国への見方が変わった。

【第5時】「貿易ゲーム」

・僕は今回発展途上国だったので、発展途上国のような不利な状況におかれている人の気持ちが分かった。このような「みぞ」が戦争につながるのかもしれない。
・人はお金や高価なものが手に入ると人格が変わって、いつもは協力している人でも、敵対することも分かった。だまされた人もいて、本当の貿易でもこのようなことがあるなら、恐ろしいと思った。
・やってみて発展途上国だけでは、お金をかせげなかったので、先進国が助けることも大切だと思ったが、助けるということはそんなに簡単でなく難しいことだなと実感した。
・このようなことが実際に世界でおこっていると思うと不平等なんだなと感じた。こういった不平等な世界だから戦争をおこしたりしてしまうのだと思った。戦争をなくすには国同士が助け合ったり協力したりして平等な世界を作っていくのが大切だと思った。
・戦争は、周りの国が発展途上国が困っていることに気づかず、自分たちの好き勝手にしているから起こるのだと思った。世界に目を向けるのは戦争を防ぐ第一歩かもと思った。
・今回の授業を通して、世界の資源や技術の差があることが分かって、どのようにすれば経済の格差が少しでも縮まるのか疑問に感じた。もっと世界の現状について学びたい。

【第6時】「戦争はだれもがいけないことだと分かっているのに、なくならないのはなぜか？」

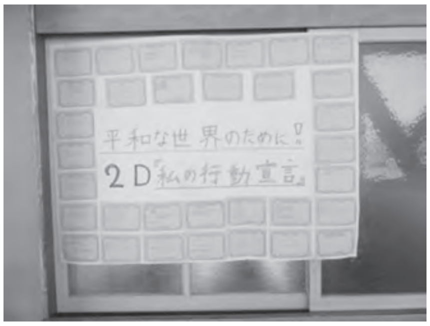
・経済が安定しない、格差がある、生活できない、など戦争しないといけない状況に追い込まれている状況があるから。
・言葉で解決できず、力で解決しようとするから。
・違いを認め合うことができず、相手を尊重しないから。
・自分の国のことしか考えず、世界に目を向けないから。
・感情があって、一度してしまうと後戻りできなくなってしまうから。
・国のトップに逆らえないから。
・戦争をしてメリットがある人がいるから。
・戦争でないと解決できないこともあって少し仕方ない。何かを得るためには何かの犠牲も必要。
・今まで勝ってきている国は、勝てると思う国に攻撃をしてほしいものを手に入れるため。
・攻められた国は自分の国を守らないといけないから。
・欲やプライドがあるから。

【第7時】「世界の平和を作るために」

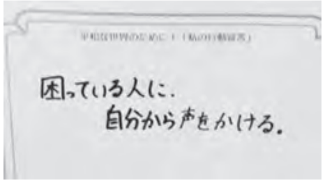
・協力隊員の方のメッセージビデオを見て、何事も行動することが大切だと思った。やはり願っているだけでは平和な世界はつくることはできないと思う。平和な世界を作るためには、まずさまざまな経験をし、考え方の幅を広げ、あらゆる角度から平和や核爆弾についても考える必要があると思う。また、平和を作るためには、人と関わり、知って理解し合うことが大切だと思う。もし原爆が落とされる前に戦争が始まってしまう前に「他人を理解し尊重する」という考えがあったならば、戦争で多くの人が亡くなるということはなかったと思う。
・自分たちが作った資料が、外国で活躍するのはとてもすごいと思う。そしてとても嬉しい。離れた国でも、少し関わっただけでも親近感がわく。ラオスにとても興味がわいて、親近感もわいた。青年海外協力隊の人の思いがよく伝わった。色々考えさせられた。
・ラオスの学生さんの「原爆は必要ない」「原爆を作った人は誰か知りたい」という感想を聞いて、とても印象に残りました。実行委員（操南中）さんが作った資料でそんなに強く思ってもらえたんだなと思いました。日本と戦争したくないと思ってくれる人が少しずつ増えてくれたらいいなと思います。平和を作るのは難しいし、でも平和になりたいのは世界共通だと思いから、それをどう行動にして表していくのかが、今の私たちに大切なのだと思う。
・ラオスの青年海外協力隊の方々が行った原爆展などの活動を、現地の人が真剣に受けていることを知って、この活動をラオス以外でも行い、世界中の人が、原爆や戦争について理解を深めることで、少しづつ平和な世界に近づいていくと思った。

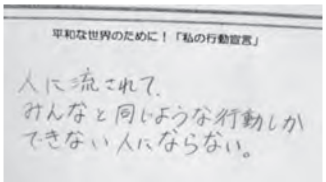
・JICAの海外青年協力隊にすごく興味を持ちました。ただ学ぶだけでなく、その地に実際に言って学ぶことや、行動する大切さを学びました。また「平和は勝手にできるものでなく、行動することでできる」という言葉がとても印象に残りました。
・昔何があったのかという歴史を知り、そのことを伝えていくことが大切。色々な国の事をしることも一歩なので、少しのことでも挑戦することが大事。
・お互いが他の人のことを思うことが大切だと思った。相手の意見を受け入れ、自分の意見を言うことが大切だと思った。人間だから嫌いな人がいるのは仕方のないことだとおもう、だからといって話さないことはよくないと思った。
・平和への一歩は、人のことを知って、好きになったり話したりすること。うわさやイメージに流されず目の前の人に、面と向き合うのが大切。
・メッセージビデオを見て、嫌いな人や苦手な人も、一歩ふみだしていけば、こんな一面もあるんだ、こんな人だったんだと感じて仲良くなっていく、こんな小さなことでも、少しづつ平和な世界につながっているんだなと思いました。
・平和を作るためには、まず色々なことに興味をもつこと。そして考えるだけじゃなく、どんな小さなことでも行動すること、これが大切だと思います。また、平和は勝手になるのではなくて、今を生きている私たちが作っているということを理解することも大切だと思いました。
・自分だけが豊かというのではなく、1人でも見捨てないことが大切だと思います。クラスなどで“1人”を作らないようにしたいです。誰か１人だけの力だと弱いけど、みんなで協力すれば平和を作ることができます。コミュニケーションなどを積極的にとろうと思いました。
・「平和への思いは世界共通だ」という言葉がとても印象に残りました。考え方が反対でも、このことを利用することで戦争のない平和な世界を作っていけるのではないかと思いました。

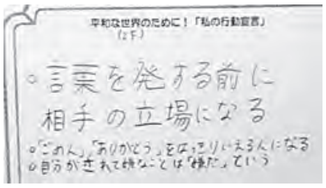
【第9時】「平和な世界を築くためにできること・私の行動宣言」
※2学年全7クラスで、一人一人が行動宣言を作成し、廊下に掲示して共有した。

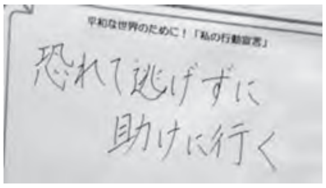


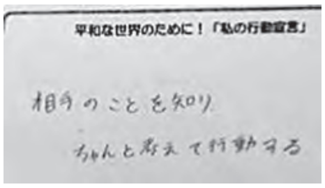
※行動宣言より

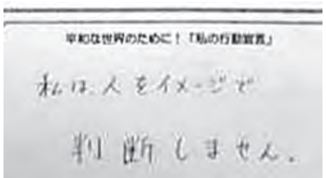


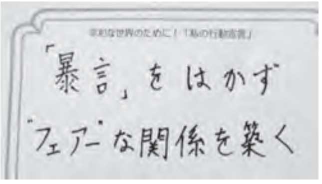


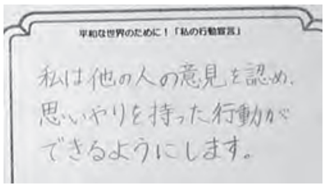


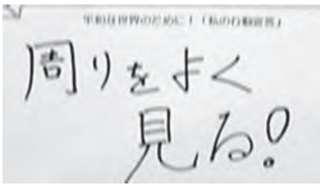


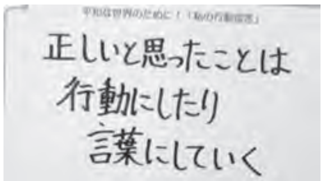


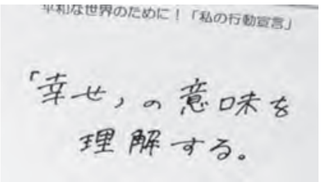


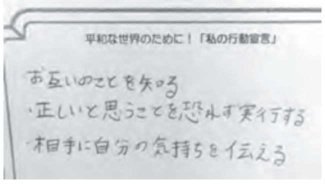


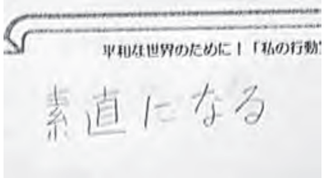


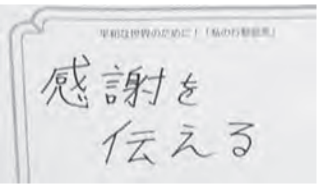


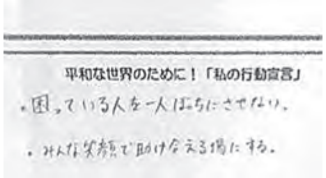


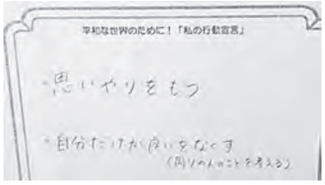












【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

・人に流されず自分で考える事や、行動することが大切だという意識が高まった。
・グループで話し合ったり、クラスで意見を共有する機会を重ねるにつれて、自分の意見を自分の言葉で伝えたり、質問をしたりと、話し合いが活発に出来るようになってきた。
・世界のことを知ることへの興味、関心が高まり、もっと知りたいという感想を持った生徒が多くいた。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞※生徒のワークシートから
・ラオスという国を知らなかった。
・ラオスなど全く興味がなかった。
・途上国は環境が悪いところだと思っていた。
・JICAという言葉を聞いたことがなかった。
・途上国は貧しくてかわいそうな国だと思っていた。

＜授業後＞※生徒ワークシートから
・印象がガラッと変わり、おしゃれな服も来ているし私たちの生活とさほど変わらないところもある。
・今まで思っていた悪いイメージから良いイメージに変わった。
・「まずしい」ことは「不幸」なことではないと思った。
・日本もラオスの良いところを取り入れていけば良いと思った。
・僕もラオスに行ってのんびり生活をしたいと思った。
・なぜ日本が発展途上国を援助するのかが良く分かった。
・少し関わっただけでも親近感がわく。ラオスにとても興味がわいて、親近感もわいた。
・世界平和を願う気持ちは、どこの国も同じなんだと思った。
・青年海外協力隊をやってみたいと思った。

【8】自己評価

1．苦労した点

学年合同や他教科との協同授業を行ったので、授業日程や場所の調整が難しかったが、やはり、学年全体で取り組むことに意義があると感じた。協力隊の方とのメールで連絡を取り合いながら進めていくことや、学年団の先生方、他教科の先生方との打ち合わせなどは、苦労した点とも言えるが、その中で自分の気づかない視点や見えてくるものもあり、苦労よりもやりがいや楽しさを感じることが多かった。

2．改善点

①このような取り組みが、今後も継続して実施できるように、教科、総合、道徳等の計画の中に位置付けていくこと。
②研修してきたことや、学年の取り組みを、他学年と共有することができなかった。職員研修などを利用して共有する機会をもつこと。

③生徒同士の話し合い活動を充実させること。話し合いのさせ方の工夫や、開発教育の手法などをもっと取り入れていくこと。

3. 成果が出た点

①学校や学年行事、総合の計画と関連付けた取り組みにすることで、学年の先生方の協力体制が作りやすかった。生徒たちにとっても効果的な学習が出来た。
②平和学習を「戦争の恐ろしさ」を学ぶだけで終わらせず、平和な世界を築いていくのは自分たちであるという意識を持ち、行動していくことの大切さを生徒たちが認識することが出来た。
③平和学習を自分の身近な行動へとつなげて学習することができた。
④ラオスの原爆展との交流で、平和を願う気持ちが同じであることを知ったり、ラオスを身近に感じたりと、途上国や異文化への理解を深めることができた。
⑤ラオスの原爆展へ、資料提供、折り鶴奉納という形で、生徒が参加できたのは、生徒にとって大変貴重な体験となった。
⑥JICAの活動を知ったり、青年海外協力隊の方々からのお話を聞くことで、国際協力や国際貢献への興味・関心を高めることができた。

4. 備考

従来の「平和学習」は、戦争の恐ろしさを知り、平和の大切さを学ぶことで終わることが多かった。「戦争は繰り返してはいけない」「平和な世界にしないといけない」といった感想だけで終わるのではなく、そのために「自分ができることは何か」を考えさせることを目標として、今回の授業に取り組んだ。「世界の平和」という壮大なテーマであったが、生徒たちは、自分の身近な「学校・クラスの平和」に置きかえ考えることで、自分自身と真剣に向き合って、具体的な行動まで考えることが出来ていて嬉しく思った。このような取り組みを、今後も継続していけるように実践していきたいと思う。

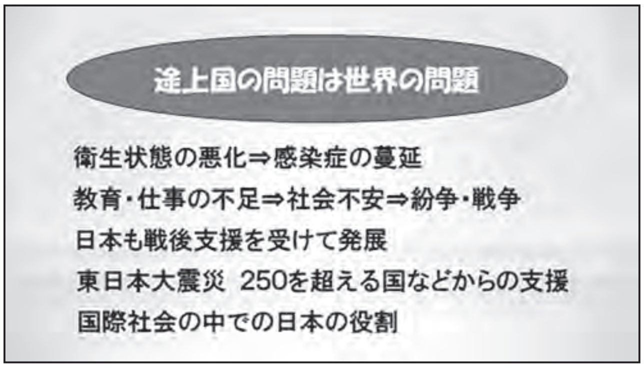
今回の授業実践は、学年団をはじめとする先生方のご理解とご協力があってこそのものであった。また、ラオス原爆展に関わった協力隊員の方々には大変なご尽力をいただいた。打ち合わせの過程で、協力隊の方からのアドバイスをいただいたり、新しい視点をいただいたりと、一緒に授業を作らせていただいたという思いです。生徒たちの取り組みを、Facebookや動画で紹介してくださったことは、生徒たちにとっても喜びや自信となった。ラオス教師海外研修に参加させていただいたことに感謝し、研修を通じてできたつながりを今後も大切にしていくとともに、自分自身も勉強、実践を続けていきたいと思う。

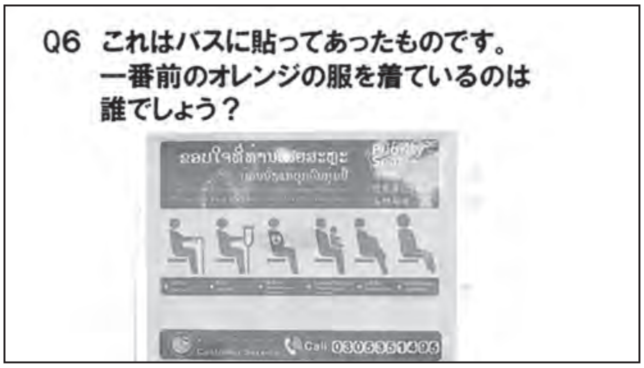
【参考資料】

＜書籍＞
・「もっと話そう！平和を築くためにできること」（2003・開発教育協会）
・りぼん・ぷろじぇくと「新・戦争の作り方」（2016・マガジンハウス）
・「難民についての授業の手引き」～いのちのもちものけんさ～（令和元年・国連UNHCR協会）
・「JICA　PROFILE」（独立行政法人　国際協力機構）
・教科書「新しい道徳２」～４私のせいじゃない～　（2019・東京書籍）

＜Webサイト＞
・NHK　NEWS　WEB「私がいるのは、あの日が曇りだっだから」（記事・動画）
（https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190628/k10011970651000.html）
・「戦争のつくりかた」アニメーションプロジェクト-What Happens Before War?-（動画）
（https://www.youtube.com/watch?v=cUGu73hnjdY）

【資料1】】第1時「ラオスってどんな国？」（スライド資料より抜粋）





【資料2】生徒作成資料（抜粋）

※ラオス原爆展で使っていただいた。

（資料作成：岡山県岡山市立操南中学校２年生）

原子爆弾について

原子爆弾は、第二次世界大戦（太平洋戦争とも言います）で、世界ではじめて、私たちの国、「日本」に落とされました。たった一発で、多くのものをこわし、多くの人を殺してしまう恐ろしい兵器です。

○原子爆弾とはどのようなものか？

原子爆弾には、２種類のものがあります。第二次世界大戦では、日本の「広島」と「長崎」に原子爆弾が落とされていますが、これらの２発は、種類のちがったものでした。それぞれの原子爆弾について説明します。

「広島型」

１９４５年８月６日、午前８時１５分投下されました。この爆弾のニックネームは「リトルボーイ」。大きさは３．１２m、直径は０．７５m、重さは５ｔです。中に入っているのは「ウラン」という物質です。その年の終わりまでに亡くなった人の数は１４万人です。

「長崎型」

１９４５年８月９日、午前１１時０２分投下されました。この爆弾のニックネームは「ファットマン」。大きさは３．５m、直径は１．５mメートル、重さは４．５ｔです。中に入っているのは「プルトニウム」という物質です。その年の終わりまでに亡くなった人の数は、７万人です。

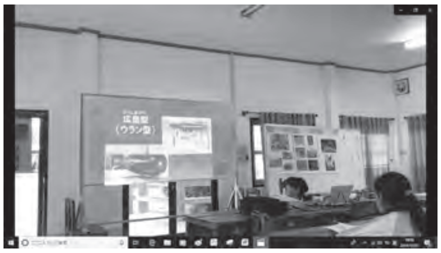
第二次世界大戦での日本人の死者数は、３１０万人です。そのうちの約１５人に１人が、このたった２発の原子爆弾で亡くなってしまったのです。とても恐ろしい兵器です。

【資料3】　第7時「世界の平和を作るために」（スライド資料より抜粋）

アメリカの高校にあるキノコ雲のロゴマーク

原爆ピアス

◆ラオス原爆展・協力隊員メッセージ動画（ラオス青年海外協力隊員・花岡早織さん作成）より
※ラオス原爆展の様子


生徒が作成したスライド資料を使って学習

中学生からのビデオメッセージ視聴

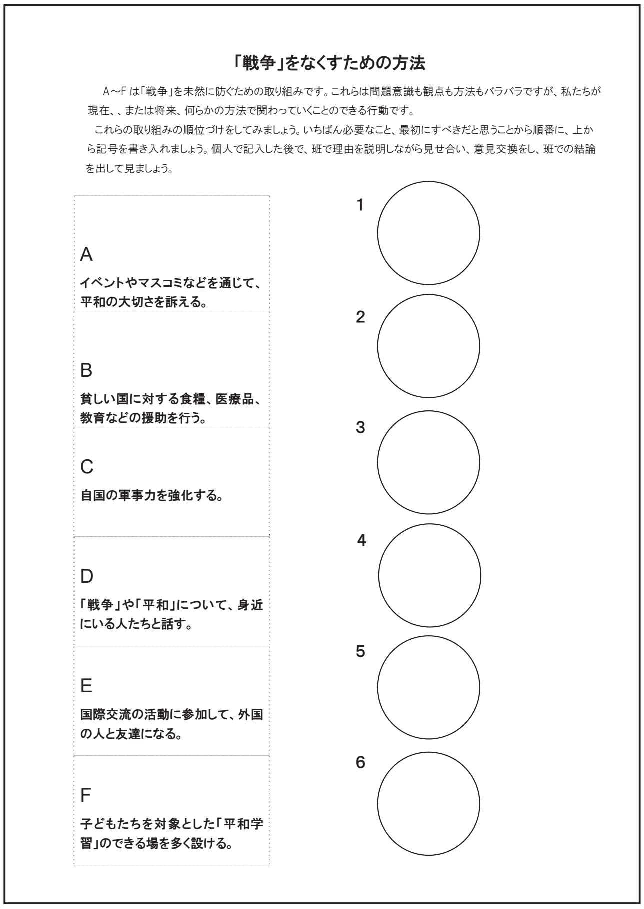
原爆のしくみについて説明

折り鶴作成（ラオス学生）

中学生作成の資料を使っての学習

原爆展で作られた折り鶴は、協力隊員の方々が千羽鶴に整え、操南中学校へ送ってくださいました！

【資料4】　第8時
「戦争をなくすための方法」　ランキングワークシート


「戦争」をなくすための方法

A〜F は「戦争」を未然に防ぐための取り組みです。これらは問題意識も観点も方法もバラバラですが、私たちが現在、、または将来、何らかの方法で関わっていくことのできる行動です。

これらの取り組みの順位づけをしてみましょう。いちばん必要なこと、最初にすべきだと思うことから順番に、上から記号を書き入れましょう。個人で記入した後で、班で理由を説明しながら見せ合い、意見交換をし、班での結論を出して見ましょう。

A
イベントやマスコミなどを通じて、平和の大切さを訴える。

B
貧しい国に対する食糧、医療品、教育などの援助を行う。

C
自国の軍事力を強化する。

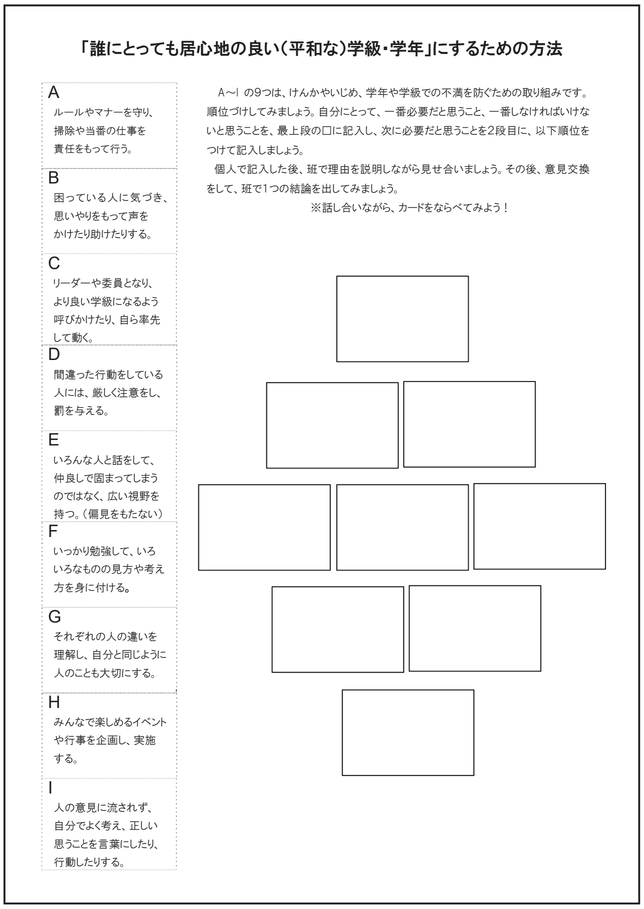
D
「戦争」や「平和」について、身近にいる人たちと話す。

E
国際交流の活動に参加して、外国の人と友達になる。

F
子どもたちを対象とした「平和学習」のできる場を多く設ける。

1
2
3
4
5
6

【資料5】　第9時
「誰にとっても居心地の良い学級にするための方法」
ランキングワークシート


「誰にとっても居心地の良い（平和な）学級・学年」にするための方法

A〜I の9つは、けんかやいじめ、学年や学級での不満を防ぐための取り組みです。順位づけしてみましょう。自分にとって、一番必要だと思うこと、一番しなければいけないと思うことを、最上段の口に記入し、次に必要だと思うことを2段目に、以下順位をつけて記入しましょう。

個人で記入した後、班で理由を説明しながら見せ合いましょう。その後、意見交換をして、班で1つの結論を出してみましょう。

※話し合いながら、カードをならべてみよう！

A
ルールやマナーを守り、掃除や当番の仕事を責任をもって行う。

B
困っている人に気づき、思いやりをもって声をかけたり助けたりする。

C
リーダーや委員となり、より良い学級になるよう呼びかけたり、自ら率先して動く。

D
間違った行動をしている人には、厳しく注意をし、罰を与える。

E
いろんな人と話をして、仲良しで固まってしまうのではなく、広い視野を持つ。（偏見をもたない）

F
いっかり勉強して、いろいろなものの見方や考え方を身に付ける。

G
それぞれの人の違いを理解し、自分と同じように人のことも大切にする。

H
みんなで楽しめるイベントや行事を企画し、実施する。

I
人の意見に流されず、自分でよく考え、正しい思うことを言葉にしたり、行動したりする。

ラオスを通じて自分の可能性を広げよう！

氏　　名：中山　舞
担当教科：英語
時 間 数：７時間

学 校 名：広島市立二葉中学校
実践教科：英語・道徳
対象学年：３年生
人　　数：39〜234名

【1】単元のテーマ・目標

・ラオスの人々や生活、文化や歴史を知ることによって、世界の国々に関心を持つ。
・ラオスの文化や生活について知り、日本の文化や自分たちの生活と比較したりして、自己の生き方について考える。
・国際協力について学び、世界の平和のために自分に何ができるのか考え、思いを共有することができる。
・ラオスで働く青年海外協力隊の方々や現地で働かれる日本人のお話を通じて、世界で働くことに興味関心を抱くとともに、語学を学ぶことへの大切さに気付く。

【2】単元の評価規準例

(ア)関心・意欲・態度	・ラオスの人々や生活、文化や歴史に関心をもつ。
(イ)思考・判断・表現	・学習を通じて感じたことや学んだことを、自分の言葉で表現している。 ・世界平和について自分との関わりの中で考え、物事を多面的・多角的に考えることができる。
(ウ)技能	・ペアワークやグループ活動などの話し合いの場面で、自分の考えを聞き手に伝えることができる。
(エ)知識・理解	・ラオスと日本の生活と似ているところや、違いに気がつき、日本とのつながりを理解する。 ・ラオスで行われている JICA の国際協力について知る。

【3】単元設定の理由

＜生徒観＞

本学級の生徒は、「海外の文化に興味がありますか」という質問に対し、75.6%が肯定的回答を示している。このことから生徒は海外の音楽や文化に興味をもち、世界の国々について知りたい気持ちがあると伺える。しかし、英語の授業で行った世界における諸問題について学ぶ場面において、世界の諸情勢に視点をおいて、考えることが難しい生徒が多かった。

また、平和のためにできることとして「身の周りにいる人を大切にする」という思いをもっているが、国際的視野に立ち平和に貢献することについて考える機会は少ないと思われる。そのため道徳の授業を通じて、国際的な視点に立ち、世界の平和のために自分に何ができるのかを考えさせたい。

＜教材観＞

単元の最初に、教員がラオスで手にいれたものや経験したことを基に、ラオスを身近に感じられるようにできるだけ写真や動画を日本と比較したりしながらクイズ形式で提示するようにした。

道徳の「命のトランジットビザ」は、第二次世界大戦当時、外交官としてリトアニアに赴任していた杉原千畝

が、ユダヤ人を救うために、外務省の命令に背いて、日本通過のビザを発給する実話である。杉原千畝が、自分自身や自分の家族の安全を脅かすことになるかもしれない中、ビザを発給した心情を考えさせることを通じて、人のために行動し、目の前の人の命を救ったことが世界の平和に繋がっていることに気づかせることができる教材である。

また、英語の本文の中の「働くこと」をテーマに、世界を舞台に活躍している方々のインタビューを紹介することで、様々な生き方に触れたり、語学を学ぶ意味についても考えられるようにした。

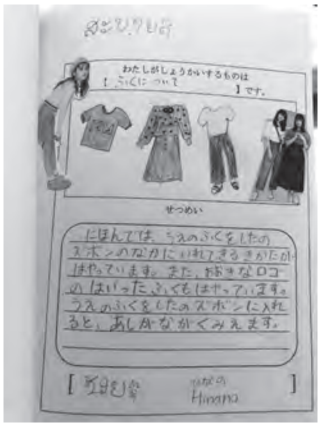
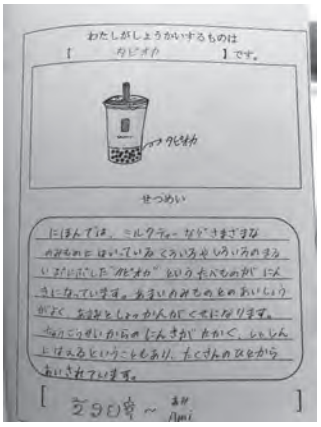
＜指導観＞

単元全体を通じて、ラオスと日本の文化や生活様式について違いを認め合いながらも、それぞれの国の良さについて理解しながら、異文化に興味をもってもらいたい。

道徳の授業では、杉原千畝やラオスで活動する日本人の行動から、「目の前の人を助けたい」という気持ちが世界の人々の平和に繋がっていることに気づかせたい。また、現在ラオスで活動する日本人を紹介し、自分の好きなこと・得意なことをどのように世界の平和のために役立てていけるのか、グループで話し合い、周りの人の意見を聞くことで物事を多面的・多角的に考えさせる学習展開にする。

【4】展開計画（全７時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「ラオスの人達に、日本の文化を伝えよう」 ・ラオスの人達との交流を通じて、帰国後の実践に向け、生徒の関心を高める。	・教員が、JICA 教師海外研修に参加することを伝える。 ・JICA の説明、参加する目的、ラオスがどのような国であるかを簡単に説明をする。 ・事前に日本語を学ぶラオスの人達から「日本の中学生の間で流行っているものは何ですか?」という質問を受けていたので、生徒にラオスの人達へ手紙を書いてもらう。 ・英語の教科書『ONE WORLD』教育出版より 桂かいしさんが、世界中に日本の文化・落語を広める活動をしていることを例に挙げて、自分が桂かいしさんだったら、ラオスの人達に何を伝えたいかを考えさせながら書かせた。 156 名の手紙をラオスの学生に渡した	・パワーポイント ・手紙を書くためのワークシート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 生徒が紹介したもの	
2	「ラオスまでの行き方を知る」 ・海外に行くための方法を知る。	・海外に行くためには、パスポートが必要である。世界の中の日本のパスポートの価値について、日本のパスポートの色の違いを確認する。 ・空港には、様々な言語のサインが書かれてある。自分たちが学んでいる英語もいたるところに書かれてあるので、意味を確認する。 ・アライバルカードに書かれてある英語の意味を確認する。 ・空港でよく利用する / 利用される英語の表現を聞き取らせる。	・「ラオスへどうやって行ってきたの？」ワークシート【資料１】

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
3	「ラオスってどんな国？」 ・ラオスの紹介を「文化・食べ物・言語・生活・人々」の５つの項目に分け、異文化に興味・関心を持ち、知識を深める。	・授業を始める前にアンケートを行う。ラオスの基本情報について質問したあと、生徒自身の考えを聞く質問も行う。 ・クイズとラオスボックスを組み合わせた“Laos Quiz”をパワーポイントで写真や動画を提示しながら、また実物を触りながら、グループで考える。 シンを着る生徒 クイズを考えている様子	・国際理解アンケート【資料２】 ・クイズ用写真と動画【資料３】 ・現地で調達したもの（シン・教科書など）
4	「戦争が残したものについて考え、JICA の取り組みについて知る」 ・日本が行っている国際協力について紹介する。	・英語の教科書『ONE WORLD』教育出版より「The Diary of Anne Frank」を学習し、第二次世界大戦中、ユダヤ人迫害を逃れるためにオランダで身をひそめて暮らしたアンネ・フランクさんの日記を英語で読み、戦争の被害を受けた少女がどのようなことを考え、意見を交流させる。 ・ラオスもベトナム戦争の際に多大な被害を受けており、今もラオスの様々な地域で不発弾や地雷の被害に遭い、生活をしている人たちがいることを伝える。 ・不発弾を撤去するために日本が行っている様々な支援について紹介する。	・UXO-Lao で撮った写真 ・不発弾で作ったスプーンやピアス ・不発弾除去を行った際の動画音声

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
5 道徳 本時	「命のトランジットビザ」を読み、自分が得意なことを通じて世界の平和のためにできることは何か考える。	・ラオスで出会った日本人について紹介する。 ・紹介した２人と杉原千畝さんに共通すべきことは何か考えさせる。 ・自分が好きなことや得意なことを通じて世界の平和のために何ができるか考えさせる。	・『中学道徳 あすを生きる』日本文教出版 ・ワークシート 【資料４】 ・パワーポイント
6	「働く」ことについて考える。 ・様々な国の職業観について書かれた英文を読み、「人はなぜ働くのか」について考える。	・英語の教科書『ONE WORLD』教育出版より ブータン、スウェーデン、日本の中学生が考えた働くことについて書かれた内容（Lesson6「Why do You Have to Work?」）を読む。 ・ラオスで出会った学生達の職業観を紹介する。	・ラオスの学生達と交流した際の動画や写真
7	「自分たちが働く理由・英語を学ぶ意味」について考える。 ・世界で働く方々の話を聞き、働くことについて考えたり、語学を学ぶことの大切さを知る。	・世界（ラオス）を舞台に活躍される日本人の方々へインタビューした動画を見せる。 （インタビュー内容） ・海外で働きたいと思った理由は？ ・ラオスで働いてやりがいを感じることはあるか？ ・ラオスで働いて自分の力になったこと？ ・海外で働くために必要な力は何か？ ・インタビューを聞いて、一人一人が将来働く意味・英語（語学）を学ぶ意味・目的について考える。 青年海外協力隊（看護師）の吉田さん	・インタビュー動画

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入	○ラオスで働く日本人について紹介する。 ・永田彰さん（不発弾除去の職場で働いている） ・花岡早織さん（学校でパソコンを教えている）	・2人の日本人がどういう思いで活動しているのか伝える。	・パワーポイント
展開	○杉原千畝について紹介する。 教材の時代背景について教師の説明を聞く。 ○教材「命のトランジットビザ」を読む。	・当時の時代背景や難しい言葉の意味を確認する。	
	○杉原千畝はなぜビザを発給したのか ・目の前に救える命があったから。 ・困っている人を放っておけなかったから。 ・目の前の人を助けたいと思ったから。	・当時の時代背景を伝えながら、登場人物の心情をおさえる。	
	○杉原千畝とラオスで働く日本人の３人の思いや行動に共通していることはどんなことか ・目の前の人を大切に思っている。 ・困っている人を助けてあげたい。 ・自分が持っているスキルで出来るだけ多くの人を助けたい。	・人を大切に思うことが世界の平和に繋がっていることを、具体例を挙げながら伝える。	
	○好きなこと・得意なことを通して世界の人々の平和のために、自分に何ができるか。 ・作曲や歌を歌うのが好きなので、世界の平和を歌った曲を作る。 ・野球が得意なので、野球を通じてスポーツの楽しさを教えてあげたい。 ・ゲームが得意なので、海外の人に日本のゲームを紹介して日本のことを知ってもらう。	・自分が好きなこと・得意なことを通して世界の平和のために、自分にできることは何かをグループで考えさせる。 ・机間指導の際に、悩んでいる生徒に具体例をいくつか挙げる。	・ワークシート

まとめ	○今日の授業で自分が考えたことを振り返ってワークシートに書く		

【授業実践の様子】

ラオスで活躍されている日本人の方々を紹介している時の様子

グループで考えている時の様子

【6】本時の振り返り

・中学生が考える社会貢献といえば、募金や寄付といった行動が思いつくが、自分の興味あることや得意なことを活かして社会貢献・世界を平和にすることができるという発想を子ども達がもつことができたことは良かったと思う。
・授業の前に生徒それぞれに「平和って何だろう」と考えさせる時間を作り、クラス→日本→世界とスモールステップのように身近なところから考えてみると考えが深まったのではないかと思う。
・今回の内容を1時間で終わらせるのではなく「杉原氏が命をかけて行動しようとしたことそれまでの葛藤」と「それを基に、自分が平和な世界を築くためにできること」と2時間構成にしてみたらもう少しじっくり考えられたかもしれない。

＜生徒の感想＞
・私は今日の授業を受けて、小さなことでも良いから、人のためになることを行っていきたいと思いました。
・自分たちの利益などよりも、人の命を優先する心が大切だと思った。平和な社会にしていくためにも、自分の得意なことを活かして人の役に立っていきたい。
・今日の授業で改めてわかったことは、核兵器廃絶などの大きなことだけではなく、自分の好きなことや得意なことからでも、平和に繋げていくことができるということが分かりました。
・みんなの好きなことや得意なことを聞いて、それらを通じて困っている人を助けたりするなど、世界を平和にする方法はたくさんあるということがわかった。
・自分が得意なことを伸ばすことで、将来誰かの役に立てるかもしれないから、今は自分が続けていることを精一杯頑張ることが大切だと思った。
・今日の授業で分かったことは、誰にでも好きなことはあるし、その好きなことを通じて世界の人と通じ合えるということです。杉原さんのように、困っている人がいれば助けられるような人間になりたいと思いました。
・最初は“平和になるために何が出来るか”について考えたら人を助けることしか思い浮かばなかったけれど、クラスの人の意見を聞いて、自分が好きで楽しいことを教えて、それで相手が幸せな時間を過ごすことができたら、平和に繋がるという意見はとてもいいなと思いました。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

＜授業前＞
・ラオスは貧しい国だと思う。
・ラオスは日本とあまり関係がないと思う。
・ラオスがフランスの植民地だったということを知らなかった。

＜授業後＞
・ラオスのトイレが日本と全く違っていたり、風呂のバスタブがないことには驚いた。経済的には日本と比べて貧しいかもしれないけれど、先生が見せてくれた写真の人々は、皆笑顔で幸せそうだった。家族と過ごす時間をとても大切にしていて、幸せと感じる価値観が日本と違うのだと思った。
・ラオスは日本とほとんど関係がないと思っていたけれど、ラオスで活躍する日本人の人達の活動を知って、世界ではいろいろな場所で多くの人々のために頑張っている日本人がいることが分かった。将来海外で働くか分からないけど、現地の人達とコミュニケーションをとって、自分も活躍したい。
・ラオスには今もまだ、不発弾に苦しむ人たちがたくさんいることが分かった。JICAが不発弾を除去するために、いろいろな支援をしていて驚いた。広島にも被爆者の方々がいるので、被爆者の方々の話を聞いて、もっと当時のことを知りたいと思った。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

（生徒の感想より）
・海外旅行に行ったことがなかったので、海外の空港にたくさん英語や他の言語が書かれていることを知った。今まで教科書の中で学んでいた表現が実際に使われていたので、英語を学ぶことは大切だと思った。
・今はまだ将来の夢がなくて、大学生になってから考えたらいいと思っていたけれど、そもそも働く理由について考えたことがなかった。生きていくためという考えしかなかったけれど、友達の意見や、世界の人の考え方を知って、何のために働くのかを考えながら、将来の夢を考えていきたいと思った。
・ラオスで働いている多くの日本人が、海外で働くためには“コミュニケーション能力”が必要だと言われていた。普段のグループ学習の中でも積極的にいろんな人と話をしたり、英語の勉強を頑張りたいと思った。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞
・途上国よりも、アメリカやイギリスなど綺麗な国に行ってみたい。
・今後関わることがないと思うから興味がない。
・どんな生活をしているのか興味はあるけれど、危なそう。

＜授業後＞
・東南アジアなどの途上国にはもともと興味はなかったけれど、日本とは全く違う生活様式や、言葉、文化を知って、興味が出てきた。今まで知らなかった国だけど、知ったらいろんな発見があることが分かった。
・ラオスは日本と比べて、最初は道路が整っていなかったり、ルールを守っている人が少なかったり、日本と全然違うと思ったけれど、家族を大切に思っているところや、お坊さんがいるところは同じで、ラオスの人達と話してみたいと思った。ラオスに行く機会は少ないかもしれないけれど、もしラオスの人達が日本に来ていたら、話をしてみたいと思う。

【8】自己評価

1. 苦労した点

単元全体を通じて、授業実践をする時間を確保することが難しかった。特に道徳の研究授業では、学年の先生に事前に内容をお伝えし、同じ授業を行って頂き、アドバイスをもらいながら何度も指導案を書き直した。残りの授業は全て自分の担当教科である英語の授業の中で実践した。単元の目標を達成するため、教科書の題材とラオスでの活動を結びつけながら、教材を作った。

2. 改善点

・自身の経験を担当教科の英語だけでなく、今回行った道徳など、他教科の先生方とも連携をとりながら行うことが出来たら、もっと広い視点で考えられたのではないかと思う。

・3年生の後半時期になると、受験と時期が重なり、授業の中で実践の予定を組んでいくのが難しかった。

3. 成果が出た点

・他国の文化や生活に対して関心を抱いたことがなかった生徒達が、ラオスの文化や生活について知り、それぞれの国の良さを発見し、他の国々にも興味を持つようになったこと。

・英語科教員として、英語を学ぶ意味を生徒達と一緒に考え「英語を頑張りたいと思う」という気持ちをもった生徒が大勢いたことは、私にとって大きな成果である。

4. 備考

今回の研修では、事前・事後研修の中で大学教授の先生や、過年度参加者の先生方から開発教育の手法を教わる機会があり、多くのことを学ぶことが出来た。今回のラオスでの経験を、今年度、全て授業実践することが出来なかったので、教わった様々な手法を使って、来年度以降にも新たに教材作成を行い、参加者の先生方と情報共有を行いながら、今後も実践を続けていきたいと思う。

＜追記＞

夏休み明けの最初の日、担当クラスの生徒の机の上にラオスで買ったポストカードの裏に一言メッセージを添えて、夏休み明けの初日を迎えた。生徒と写真をきっかけに互いの思い出話に花を咲かせた。

中学校編

【参考資料】

＜書籍＞
・2017年度JICA中国　スリランカ教師海外研修　授業実践報告書
・2018年度JICA中国　スリランカ教師海外研修　授業実践報告書
・「かくれ家のアンネ・フランク」（セニー・ファン・デル・モーレン作 西村由美訳　岩波少年文庫）

＜資料(パワーポイント)＞
・「汎用性のある学習指導案の要件（JICA地球ひろば作成）

＜Webサイト＞
・「JICA地球ひろば　先生のお役立ちサイト」(https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html)

ラオスへどうやって行ってきたの？

How have I been to Laos?

First, I have to prepare my (　　　　　　　　).

Q: Do you know what is the difference between two?

(　　　　　　　　)

(　　　　　　　　)

You should travel abroad!

The world is waiting for you!

But, don't forget your (　　　　　　　　) anytime! ☺

Second, when you reserve your ticket, you can go to the (　　　　　　　　).

Departures⇔(　　　　　　　　)

Check your flight☞

Let's check the words.

No.	意味
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	

How many languages are they used? (　　　　　　　　).

※transit(　　　　　　　　).

Third, after the check-in, you can explore in the airport or you can relax until your flight is (　　　　　　　　).

Also, if you have time, you can exchange your money.

使えるフレーズ

①両替はどこでできますか？
(　　　)(　　　)(　　　)exchange the money?
②20000円をアメリカドルに両替してくださいませんか？
(　　　)(　　　) exchange 20000 yen into US dollars?

Finally, it's time to get on your flight.

Flight attendant: F / Customer: C

何か飲むものはいかがですか？
F: Would you like something to (　　　　　)?
オレンジジュースください。
C: I'd like to (　　　　　) an orange juice please.
夜ごはんに牛肉と魚どちらがよいですか？
F: Which would you like for dinner,
beef or fish ?
お肉をください
C:(　　　　　) please.

【資料2】第3時使用 国際理解アンケート(事前)

国際理解アンケート
(　　　)年(　　　)組　名前(　　　　　　　　　　　　)

サバイディ～！みんな、夏休みはどうだった？充実していましたか？
中山先生は、みんなに言ったとおり、ラオスに行ってきました！みんなが、授業で作った日本の文化紹介、ラオスの生徒は本当に喜んでくれました。みんなのおかげです、ありがとう。
さて、今日は先生が夏休みに訪れたラオスの国について簡単なクイズをします。その前に、今みんなが素直に思っている、知っていることを教えてほしいなと思います。

①ラオスという国について何か知っていることはありますか？（ある　・　ない）
あると答えた人は、知っていることを教えてください。
(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
ないと答えた人は、ラオスという国にどのようなイメージをもっていますか？
(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

②ラオスの場所は地図上のどのあたりか？場所に○をする。

③ラオスと日本の時差は？
（時差なし・ラオスは日本より2時間進んでいる・ラオスは日本より2時間遅れている。）

④ラオスにはベトナム戦争の影響で（　　　　　　）が人々の生活を脅かし、それが原因で足や手を失っている人がいる。

⑤ラオスのお金はお札しかない。（本当　・　嘘）

⑥ラオスのビールは（　　　　　　）を入れて飲む。

次の質問にあなた自身の考えを書いてください。
⑦海外（日本以外の国やその国の文化）に興味がありますか？（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑧国際問題(世界中で起きている様々な問題)に関心がある。（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

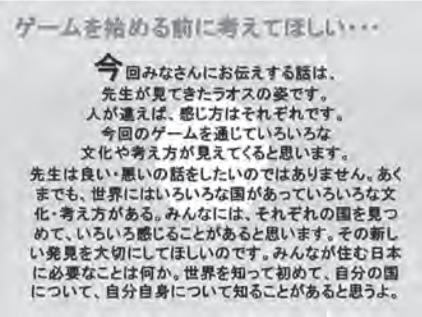
⑨あなたはラオスのような発展途上国を訪れてみたいと思いますか？（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

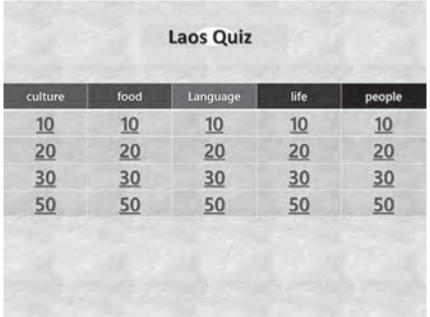
⑩他の言語（英語など）や文化について学ぶことは大切だと思う。（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

○今日の授業を聞いて、ラオスについて知りたいと思ったこと、不思議に思ったこと、学んだこと、考えたこと、感じたことを書きましょう。

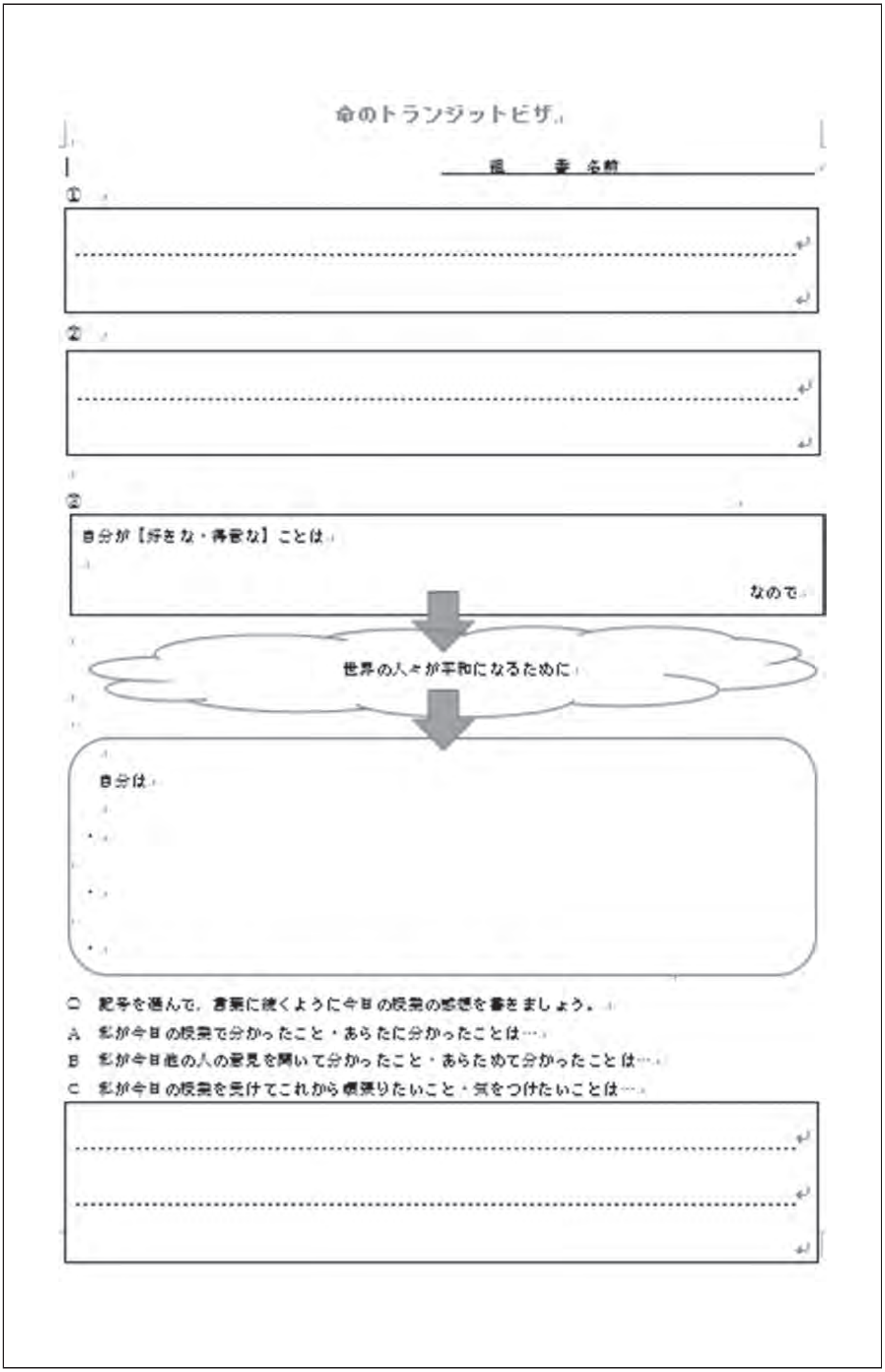
コープチャイ！

【資料3】第3時“Laos Quiz”のスライド一部





【資料４】本時（道徳）のワークシート



命のトランジットビザ

組　番　名前

①

②

②

自分が【好きな・得意な】ことは

なので

世界の人々が平和になるために

自分は

・

・

・

○　記号を選んで，言葉に続くように今日の授業の感想を書きましょう。

A　私が今日の授業で分かったこと・あらたに分かったことは…

B　私が今日他の人の意見を聞いて分かったこと・あらためて分かったことは…

C　私が今日の授業を受けてこれから頑張りたいこと・気をつけたいことは…

中学校編

全7時間の授業を終えて生徒が書くふりかえりシート(事後)

国際理解アンケート

（　　　）年（　　　）組　名前（　　　　　　　　　）

サバイディ〜！夏休み明けからラオスについて色々なことを勉強をしてきました。
毎時間のみんなの感想をいつも楽しく読ませてもらっていました。ラオスを通して自分が考えたこと、感じたことを振り返りましょう。社会人になっていつかラオスを訪れて、今回みんながワクワクしたこと、疑問に思ったことをぜひ自分の目で確かめてきてくださいね。

全7回の授業を終えて、印象に残った授業は何ですか？（複数回答可）

テーマ	回答
1. 「ラオスの人達に日本の文化を伝えよう。」	
2. 「ラオスまでの行き方を知る。」	
3. 「ラオスってどんな国？」	
4. 「戦争が残したものについて考え、日本の支援について知る。」	
5. 「命のトランジットビザ」	
6. 「働くことについて考える。」	
7. 「自分たちが働く理由・英語を学ぶ意味について考える。」	

「授業を通じて、興味をもったこと、もっと知りたいこと、考えたことを書きましょう。」

ふりかえりシート

①ラオスの場所は地図上のどのあたりか？場所に○をする。

②ラオスと日本の時差は？
（時差なし・ラオスは日本より2時間進んでいる・ラオスは日本より2時間遅れている。）

③ラオスにはベトナム戦争の影響で（　　　　　　）が人々の生活を脅かし、それが原因で足や手を失っている人がいる。

④ラオスのお金はお札しかない。（本当　・　嘘）

⑤ラオスのビールは（　　　　　　）を入れて飲む。

次の質問にあなた自身の考えを書いてください。

①海外（日本以外の国やその国の文化）に興味がありますか？（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　）

②国際問題(世界中で起きている様々な問題)に関心がある。（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　）

③あなたはラオスのような発展途上国を訪れてみたいと思いますか？（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　）

④他の言語（英語など）や文化について学ぶことは大切だと思う。（はい　・　いいえ）
理由（　　　　　　　　　　　　　　　）

コープチャイ！

授 業 実 践 報 告

高 等 学 校 編

ラオスの「今」を通して考える豊かさと開発
～多様な価値観に触れる～

氏　　名：阿部　絵理子
担当教科：地歴公民科
時 間 数：全４時間
学 校 名：広島県立芦品まなび学園高等学校
実践教科：現代社会
対象学年：第1学年
人　　数：19名

【1】単元のテーマ・目標

・ラオスの概略を知る
・ラオスが抱える課題に気づき、それに対する支援・開発を知る
・支援・開発が生む新たな課題を想定する
・「豊かな社会」について考える
・「途上国」＝「貧しい」＝「かわいそう」＝「発展する（開発される）とよい」という考え方が一面的であることに気づき、「途上国」への支援・開発を多面的な視点から考える

【2】単元の評価規準例

(ア)関心・意欲・態度	・ラオスについて関心を持ち、積極的に活動に取り組んでいる ・豊かさと開発について積極的に考えようとしている ・多様な価値観を受け入れようとしている
(イ)思考・判断・表現	・豊かさと開発について、他者の考えを受容し、自分の意見を形成し、表明できる
(ウ)技能	・資料からラオスの課題を読みとることができる ・課題に対する支援・開発を考えることができる ・支援・開発が生む新たな課題を想定できる
(エ)知識・理解	・ラオスの概略について理解することができる

【3】単元設定の理由

＜生徒観＞

第1学年を対象としている。「ラオス」について事前に行ったアンケートでは、半数以上の生徒が国名を聞いたことがあると回答したが、その位置を正確に知っていた生徒は0名、東南アジアにあることを知っていた生徒が5人ほどであった。また、「ラオスという国について知っていること、またはイメージすることは何か」という質問に対しては、「砂漠」「暑い」「貧しい」「ジャングル」「動物が多い」など、後発開発途上国に対して抱いているイメージを漠然と当てはめている生徒が多いことがわかった。

このクラスは自分の意見を持ち、表現することがよくできる生徒が比較的多いが、知識不足であったり思い込みが強い生徒も多い。そのため、授業を通して正しい知識を習得、多様な価値観を受容し、世の中の対立や矛盾・答えの多様性を実感することで、彼らの思考の幅を広げることができると考える。

＜教材観＞
本単元は「現代社会」の導入である「私たちの生きる社会」に位置づけることができ、「現代社会の諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として幸福、正義、公正などについて理解させ、いかに生きるかを考察する」力を養うことを目的としている。
ラオスを通して後発開発途上国が抱える問題と、支援・開発がもたらす新たな課題を知り、豊かな社会とは何か、幸福とは何かを考察することを目指したい。

＜指導観＞
指導にあたっては、次のような工夫をする。
・ラオスについて積極的に学べるようクイズ形式とし、またできるだけ実物資料を用意して関心を高める
・自分の考えを形成することを最終目標とするため、個人→グループ→個人という思考になるよう授業を組み立てる
・「豊かさと開発」という国際理解教育の教材を用いて、生徒が自らの「豊かさ」への価値観と向き合う時間をつくる。また、それを他者と共有することで、価値観の多様性を実感できるようにする

【4】展開計画（全４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「私の夏休み～ラオスってどんな国？～」 ・ラオスの概略を知る	○ラオスクイズ ・場所、国旗などについて ○ラオスボックス（クイズ） ・衣服、通貨、生活　などの実物教材を用いて	・ワークシート ・PowerPoint ・写真 ・実物資料
2 本時	「豊かな社会ってどんな社会？」 ・教材「豊かさと開発」を用いて考える	○フォトランゲージ ・写真を見て、ラオスが抱えている課題を読み取る ○ラオスの課題に対して日本が行っている支援を予想・確認する ○支援や開発が生む新たな問題を考える ○「豊かな社会」にとって必要な条件を考えるアクティビティ ○アクティビティを通して考えたことや感想を記入する	・ワークシート ・PowerPoint ・写真 ・DEAR 教材「豊かさと開発」
3	「今も残る戦争の傷跡」 ・ベトナム戦争と不発弾	○不発弾を生活用品やアクセサリーとして加工する「不発弾ビジネス」について知る ○ラオスの不発弾の現状について ・不発弾処理現場訪問の様子を視聴 ○ラオスに不発弾がある歴史的背景を知る ・ベトナム戦争について ○日本にも残る不発弾 ○振り返り	・ワークシート ・PowerPoint ・写真 ・不発弾でつくられたスプーン
4	「国際協力について考えよう」 ・ラオスにとって必要な国際協力について考える ・国際協力はどのような国をめざすのかの理念が現れるものであることに気づく	○国際協力の在り方について考える ・これまで扱っていないラオスの現状や支援・開発について学ぶ （病院、鉄道、教育、特産品の開発） ・ラオスにとって最も必要だと考える支援・開発をダイヤモンドランキングで表現する ・グループ、全体で共有する ○振り返り	・ワークシート ・PowerPoint ・写真

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5 分）	(1) 前時に続きラオスについて学ぶことを確認する		
展開 （25分）	(2) フォトランゲージ 写真を見てラオスが抱える課題を見つける。 ①交通渋滞 ②水道が整備されていない	・写真を見て気づいたことでもよいことを伝える	・ワークシート 【資料 1】 ・以下随時 PowerPoint 【資料 2】 ・首都ビエンチャンの交通渋滞の写真（2枚） ・山からの水を引いてきた写真 ・ホームステイ先の雨水を貯めておく貯水槽の写真
	(3) ①②の課題に対して日本が行っている支援について知る ①：公共バスを整備し、渋滞の緩和を図る ②：水道の整備を行う	・まずは予想し、その後実際に行われている支援について解説する	・ビエンチャンバス公社運営能力改善プロジェクトで日本が提供した京都バスの写真 ・ビエンチャン水道公社事業管理能力向上プロジェクト視察時の水道局の写真
	(4) この支援・開発で起きた別の問題について考える。 ①ラオスの伝統的なトゥクトゥク業者の廃業、失業 ②無料だった井戸水（山水）から、有料の水道への負担増加 ⇒開発は本当に人々を幸せにするのだろうか。	・支援・開発により新たな問題が生じることを生徒に告げ、支援・開発の負の側面に気づかせる ・新たにどんな問題が生じたかを生徒に予想してもらう	・ビエンチャンのトゥクトゥクの写真
	(5) 自分にとって“豊かな社会”に必要な条件を 3 つ考える	・全体で共有	

まとめ （15分）	(6)「豊かさと開発」アクティビティ ・個人で、25 枚のカードからあなたにとって豊かな社会に必要な条件を５つ選び理由を考える。 ・グループに分かれ、25 枚のカードから豊かな社会に必要な条件を５つ選び理由を考える。 ・グループで、25 枚のカードから、世界の人々にとって豊かな社会に必要な条件を５つ選び理由を考える。 (7) 振り返りとして①～④について記述する。 ①ラオスについてわかったこと ②開発・発展・支援について、考えたことや感想 ③豊かさについて考えたことや感想 ④今日の授業を通して考えたことや感想	・全体で共有 ・全体で共有	・25 枚の項目が書かれたカード （認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）作成教材「豊かさと開発－Development for the Future」を教員がラオスでの研修を踏まえたものに一部改変） ・振り返りシート

【授業実践の様子】

第１時「ラオスボックス」

本時「豊かな社会に必要なこと」を選ぶ

【6】本時の振り返り

・本時の目的は生徒に開発が必ずしも幸福や豊かさにつながるものではないこと、豊かさの基準は多様であることを気づかせることであった。後の生徒の感想からも読み取れるが、生徒たちは答えのでない豊かさと開発への問いかけについて、しっかりと考えてくれた。
・個人の思考とグループ活動の切り替えを生徒がきっちりとでき、メリハリのある展開となった。
・生徒たちは「豊かさと開発」のアクティビティを通して、他国のみならず、いつも一緒にいる友人でさえも価値観が異なること、何を幸せと感じるかは人それぞれであることを改めて認識してくれた。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

＜開発・発展・支援について＞
・何が正しいとかよくわからなくなった。難しい…。
・他国の支援で国が豊かになるけど、それによって仕事が無くなったりするということがわかった。
・開発・発展・支援はすべてが良いようにはたらかず、マイナスな部分があることが分かった。
・日本が他の国に支援してたとしても、その国はその国で住みやすさや住みづらさがあったりするから難しい…。
・支援を小さい支援にしてそっちの国で発展したほうがいいと思いました。

＜豊かさについて＞
・世界の豊かさと社会の豊かさは人それぞれ全然違うということがわかった。
・色々な豊かさがあり、どれを優先すればいいかわからなかった。
・色々な人の視点から見た豊かさについて分かった。
・自分が思っていること、皆が思っていることは、やはりちがうんだなと思った。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

＜生徒の感想より＞
・豊かさの認識について
「“豊か”というのは、ただすごしやすい環境になるのとは違うなと思った。その人その人が今の生活に満足していて、幸せであり、そういう人が多い国を豊かというのではと私は思う」

＜その後の授業で＞
・「またラオスみたいな授業して」と言ってくれる生徒や、他国や異文化を知る、他者の意見を聞ける授業にしてほしい、という生徒が出てきてくれた。これまで講義の授業に慣れ、受身で、自分の意見はあっても発信することを苦手としていた生徒たちの成長を感じることができた。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞
・多くの生徒が「途上国」を一括りで捉えている。「途上国」各々が独自の文化・歴史・自然の特性を持ち、「途上国」の中でもその条件や内情が異なることを意識できていない。
・「途上国」＝「貧しい」＝「かわいそう」＝「発展する（開発される）とよい」という一面的な見方。
・ラオス＝知らない国

＜授業後＞
・「途上国」＝「貧しい」＝「かわいそう」＝「発展する（開発される）とよい」という見方が一面的であり、多面的に物事を見てほしいという思いで授業を組み立てた。
ある生徒の感想：「“豊か”というのは、ただすごしやすい環境になるのとは違うなと思った。その人その人が今の生活に満足していて、幸せであり、そういう人が多い国を豊かというのではと私は思う」
このように考えた生徒がいる一方で、「水道が整備されていなくてかわいそう」「貧しい生活の中でもがんばっている」という感想を持った生徒もいた。
・教員が行った国ということで、東南アジアの中でもラオスの認知度と親近感が高まった。

【8】自己評価

1．苦労した点

・伝えたいことが多すぎて、生徒に何を伝えるかを焦点化するのに苦労した。

・現地に行ってみると、当初考えていた授業テーマではない部分に興味を持ち、帰国後授業テーマを大幅に変えた。そのため、思うような写真や資料をそろえられない部分があった。

2．改善点

・ラオスの課題を全面に出した授業となってしまい、現地で感じたラオスの人の温かさや穏やかさを伝えることができなかった。そのため、「水道がなくて大変、かわいそう」という価値観から脱せない生徒が出てしまった。

・日本の抱える問題や隠れた貧困を取り上げてラオスと比較することで、物質的豊かさと精神的豊かさ、豊かさへの価値観をより揺さぶることができるのではないだろうか。

3．成果が出た点

・まずはラオスという新しい国を生徒が知ったことである。国際理解では「知る」ことが大きな一歩だと考える。

・今回の授業実践では、実物教材・クイズ・選択・ランキングづけ・シンキングタイムなど様々な手法と活動を授業内に取り入れた。講義では寝てしまう生徒も集中して活動・思考できていた。「知らないことを知ることは楽しい」と生徒に思わせることができた。

・ラオスという異文化を知ること、いつも一緒にいる友人でさえ考え方が違うこと、こうしたことに気づく授業を通して、違いを知り違いを受け入れるという経験をさせることができた。

４．備考

すべてのできごとを授業に活かせてしまうのが地歴公民教科のよいところだが、物事をぼんやりと見ていても問題意識は持てない。教師海外研修では現地の方々や同行した先生方から多様な視点を得ることができた。

生徒たちがラオスを通した授業に熱心に参加してくれた。教師が現地で見て感じて語る言葉、実物教材には力があるのだと実感した。日々起きているできごとや経験をどのように自分の言葉とし、授業にしていくか。自分自身をもっと高めていきたい。

最後に、夏休みの多忙な時期に快く送り出してくださった高坂学校長をはじめとする諸先生方、お世話になったJICAの皆さま、現地の方々にお礼申し上げます。

【参考資料】

<書籍>

・菊池陽子他(2015)『ラオスを知るための60章』　明石書店

・地球の歩き方編集室『地球の歩き方　ラオス　2019～2020年版』（2018）ダイヤモンド・ビッグ社

・柿崎一郎（2011）『東南アジアを学ぼう「メコン圏」入門』(ちくまプリマー新書)

<教材>

・認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）作成教材「豊かさと開発－Development for the Future」(2016)

<Webページ>

・JICA　ラオスでの水道公社事業管理能力向上プロジェクト概要
(https://www.jica.go.jp/project/laos/012/outline/index.html)

・JICA　ビエンチャンバス公社運営能力改善プロジェクト概要
(https://www.jica.go.jp/project/laos/010/)

【資料1】本時のワークシート

現代社会 | 氏名　　　13

開発と豊かさ

Q1．①②の写真から，ラオスが抱える課題を見つけよう。

①下はラオスの風景です。写真を見て，気づいたことをあげてみよう。

②下はラオスの風景です。写真を見て，気づいたことをあげてみよう。

Q2．①②の課題に対して日本はどんな支援をしているだろう？

①

予想	実際

②

予想	実際

Q3．あなたにとって"豊かな社会"に必要な条件を3つ書いてみよう。

Q4．25枚のカードからあなたにとって豊かな社会に必要な条件を5つ選び，理由を書いてみよう。

番号	理由

Q5．グループでQ4を共有し，豊かな社会に必要な条件を5つ選び，理由を書いてみよう。

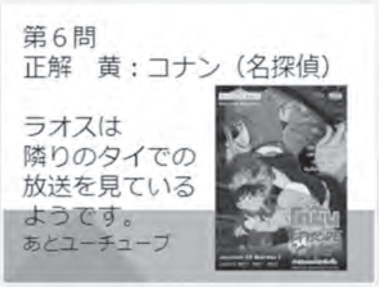
番号	理由

Q6．25枚のカードから世界の人々にとって豊かな社会に必要な条件をグループで話し合い，5つ選んで理由を書いてみよう。

番号	理由

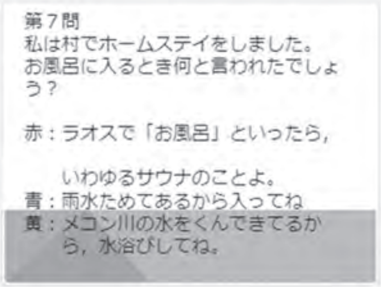
Q7．あなたにとって豊かな社会と，世界の人々にとって豊かな社会について，考えた感想を書こう。

【資料2】本時使用パワーポイント資料



19

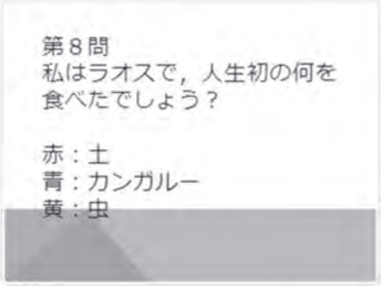
20



21

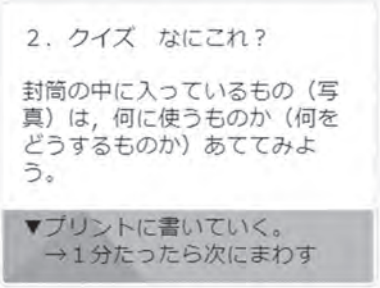
22

23



24

25

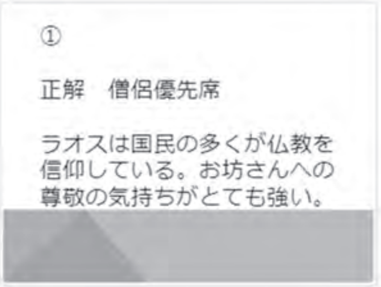


26

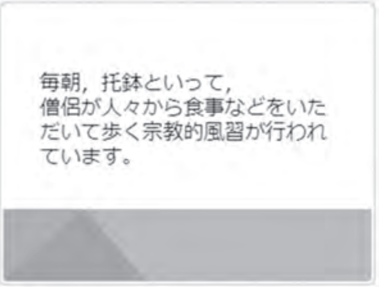
27

28

29



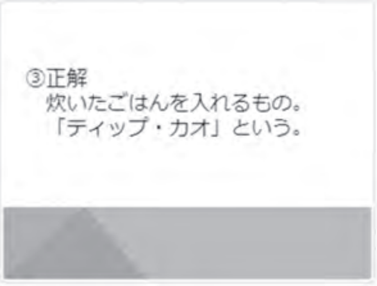
30



31

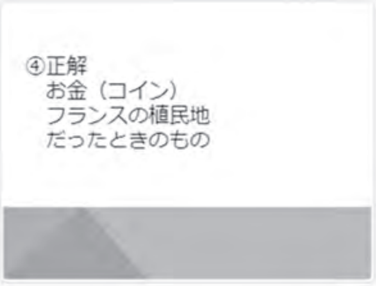
32

33



34

35



36

⑤正解
スカート
「シン」という伝統衣装。

37

⑥正解

スプーン

実はあるものを利用してつくられています。
何でしょう？

38

答え

不発弾

39

不発弾とは？？

落とされても爆発しなかった爆弾

40

1954年　ベトナムが南北に分断され，北は社会主義国家，南は資本主義国家になった。

社会主義国家を増やしたくないアメリカは北ベトナムに対して空爆を開始。

このとき，北ベトナムを応援するラオスにも大量の爆撃を行った。

41

このとき落とされたのが"クラスター爆弾"

親爆弾の中に300個もの子爆弾が入っている。
子爆弾のなかには，約８０個の鉄の塊と爆薬がしこまれている。
爆発すると鉄の塊が飛び散るしかけ。

42

43

不発弾を処理する現場を訪問

44

ラオスにはこうした不発弾が
７８００個残っていると言われている。

ある調査では，すべてを取り除くのに200年かかるとされる。

45

さて，この不発弾，どこで見つかったでしょう？

46

沖縄県那覇市

民間業者が軍港内で浚渫（しゅんせつ）工事をしていた際、海底からすくい上げた土砂の中に入っていたという。

47

２０１９年6月１１日の話

48

なぜ日本に不発弾があるの？

49

１９４５年　沖縄戦

アメリカ軍が沖縄に大量の爆撃

今も不発弾が残っている

沖縄の不発弾を完全に撤去するのに８０年かかるとされる

沖縄が最も多いが，日本全国で見つかっている

HTTPS://赤-N.黄OM/青LOG/FUH赤TUD赤N_UNEXPLODED-青OM青.HTML

50

●東京五輪のテニス競技会場となる「有明テニスの森公園」近くで４月、重さ約２５０キロの不発弾が見つかった。（2019年6月）

●不発弾　陸自が爆破処理　広島県江田島（2013）
オリーブ園をつくる工事中

●不発弾　陸自が爆破処理　福山市南本庄町（2013）
建物撤去中　20発の不発弾
1945年福山大空襲のものか？

51

⑦正解

紙幣

最高が10万キープ，
使用されている最少は500キープ

ミネラルウォーターは5000キープ
（65～70円くらい）

52

⑧正解

ラオ語学習ノート

53

⑨正解
川で魚を取る道具

54

高等学校編

日本が行っている支援
・ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクト

55

56

日本が行っている支援
・水道公社事業管理能力向上プロジェクト

57

「開発とは何か？ ラオスの農村開発を事例にして」
ラオスの生活文化の多様性と国際理解、諸課題と国際協力

氏　　名：中村　秀司
担当教科：地理歴史
時 間 数：４時間
学 校 名：鳥取県立鳥取西高等学校
実践教科：地理A
対象学年：2年生
人　　数：18人

【1】単元のテーマ・目標

B 国際理解と国際協力
(1) 生活文化の多様性と国際理解
(2) 地球的課題と国際協力

特色ある生活文化と地理的環境や地域の持続可能性に関わる諸課題、国際協力との関わりを捉える学習を通して、国際理解や国際協力の重要性を認識する。その際に、国連の持続可能な開発目標（SDGs）との関連を捉えながら学習を進めることによって理解を深める。（新高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）「地理総合」における単元設定）

場所や人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。
(ア)ラオスの人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。ラオスで見られる地域の諸課題を基に、課題相互の関連性などについて大観し理解すること。
(イ)ラオスの人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。ラオスで見られる地域の諸課題を基に、その解決には持続可能な社会の実現を目指した取組や国際協力が必要であることなどについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ア)ラオスの人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。ラオスで見られる地域の諸課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

（学習構造）
〈a〉ラオスの人々の特色ある生活文化やラオスで見られる地域の諸課題（知識）を基に、〈c〉場所の特徴や自然および社会的条件との関わり、地域の結び付きや持続可能な社会づくり（考察内容）に着目して、〈d〉主題「開発とは何か？ ラオスの急速な経済成長を事例にして」を設定し、それに応じた「小項目全体に関わる問い」を学習上の課題として生徒に提示する。この「問い」を踏まえて、〈e〉多様性や変容の要因、現状や要因、解決の方向性を考察し表現して、〈b〉人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容すること、諸課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した取組や国際協力が必要であることの理解に至る学習構造を用いる。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	世界の特色ある生活文化と地理的環境や地域の持続可能性に関わる諸課題との関わりに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
（イ）思考・判断・表現	世界の特色ある生活文化と地理的環境や地域の持続可能性に関わる諸課題との関わりを多面的・多角的に考察し、その解決の方向性などを公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
（ウ）技能	世界の特色ある生活文化と地理的環境や地域の持続可能性に関わる諸課題との関わりに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
（エ）知識・理解	世界の特色ある生活文化と地理的環境や地域の持続可能性に関わる諸課題との関わりについて、その特色や我が国が抱える地理的な諸課題を理解し、その知識を身に付けている。

【3】単元設定の理由

受講生徒は18名。学習に対する意欲や関心は、授業アンケートによると中～高程度にある。開発途上国に関する知識や意識が画一的になりがちであり、先進国と途上国との関係性について、議論に基づいた理解を深める必要がある。また、地図や自然環境の学習においては、必修化される防災の分野を含めた関心の高まりが重要である。

＜生徒観＞

主に第２学年生徒18名を対象にしながら、全学年の希望生徒を対象とする放課後の自主セミナーを実施した。18名の生徒は、地理Ａを受講する生徒で、前期から様々な形でペア活動やグループ活動を実施してきた。また、知識構成型ジグソー法を用いた協調学習により、地理的な見方や考え方を養う学習活動にも度々取り組んできた。互いの考えを持ち寄って、課題解決を試みる経験があることから、今回取り組む課題解決についても、抵抗なくグループ活動を行う下地があると考えられる。

ラオスという国や開発教育に関する既有知識は、ほとんどないと言ってよく、国の位置や自然環境、社会、文化に関する知識も、ほとんどなかった。また、開発教育や国際協力についての知識や必要性については、生徒により差がある。すでに様々なグローバル活動に取り組んでいる生徒もあれば、ほとんど経験のない生徒もあった。

＜教材観＞

本単元は、前述の学習構造をもち、最終的に「人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容すること、諸課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した取組や国際協力が必要であること」を理解することを目的としている。そのために、私はラオス研修前に、質問づくりの機会を作り、ラオスの概要を理解するとともに、関心を高めることとした。また、ラオス研修後の単元では、まずすごろくを用いて、より一層の関心を高めるとともに、地域の諸課題を主体的に発見する試みをすることとした。さらに、農村の実態について、ホームステイ疑似体験をすることを通して、個別具体的な課題発見を試みた。また、その後ダイヤモンドランキングを用いて、生徒自身や日本とラオス、ラオスの農村とを結びつける学習を行うこととした。このことを通して、「遠く離れた」実態から、「直接的に結びついた」状態へと変容することを期待した。

<指導観>

指導にあたって、次のようなことに留意した。

①先入観に捉われることのないよう、生徒も教師も常に白紙に近い状態で学習に望む。

②現地と生徒自身の距離感を大切にして、概要をつかむ、ラオス学生と交流する、ラオスの農村に暮らす、日本との関係を考えるなど、時間ごとにスケールを変える。

③課題解決を考えるのだが、安易に解決に向かわず、必要な情報がない、解決方針が正しいか分からない等のジレンマに直面させる。

④学習を通して大切なことが、自らの意識変容であることを自覚させる。

⑤教師自身も、いつも学習者と同じ土台に立って、互いに学び合う。

【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○ラオスの諸資料を用いて、ラオスの自然環境、社会・文化等について疑問を出し合って、関心を高める。	○ラオスに関する諸資料とワークシートを用いて、個人･グループで出し合い、ディスカッションを行い、疑問を作る。	・事前研修で配布された資料18枚：一人1枚18種類の資料 ・ワークシート
2	○「ラオスすごろく」を用いて、ラオスの特色ある生活文化やラオスで見られる地域の諸課題について関心を高め、地域の諸課題①～⑤を見いだす。	○「ラオスすごろく」を4人前後のグループで実施して、順番に問いに対する自分の考えを述べていく。正解はなく、グループのメンバーも自分の意見を述べたりして、考えを共有する。全体の場で、感想を述べ合う。また、すごろくの内容について、動画を見せたりして、ラオスの生活文化や地域の諸課題について考えを深める。最後に、ワークシートに気づいたことや地域の課題について記述する。	・学習指導案 ・「ラオスすごろく」（シート、サイコロ、iPad） ・ワークシート
3 本時	学習上の課題として、農村の開発に関する事例を提示し、これらの課題を解決するために、どのような情報が必要かを話し合う。それらの情報が見つけられたら、解決方法を話し合うが、情報がないのであれば、どのような方法で情報を作ることができるか話し合う。 ①～⑤のうち、⑤の課題「ドンコー村の未来」を考察し、相互に発表しあう。	前時で記述した学習上の課題を全体の場で共有する。 その中から「農村の開発」を事例として、課題を見つけることを目標とすることを示す。 「ドンコー村の未来」のプレゼンテーションを聞きながら、農村の課題を見つけ合う。個人で活動した後、グループで考えを共有する。必要だと考えた課題と解決方法をカードにする。	・前時のワークシートをまとめたスライド ・プレゼンテーション ・ワークシート ・付箋
4	「ラオスの農村開発を進める9つのプロジェクト」のカードを用いて、ダイヤモンドランキングの方法により、国際協力や開発の概念について見直す。	カードを用いて、ダイヤモンドランキングの方法で、国際協力や開発について考えを共有する。	・カード

※放課後、希望者が参加する自主セミナーを実施した。

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5 分）	前時の学習活動において生徒がまとめたラオスの課題を紹介する。 本時のねらいとして、ラオスの課題のなかから、農村開発を事例とした学習を行うことを説明する。	・ワークシートを用いて、各自が気付いたラオスの課題を話す。 ・いくつかのラオスで考えるべき課題があることを例示する。	・ワークシート ・前時をまとめたスライド
展開 以下、次時 （80分）	①生徒は4～5人のグループになる。 ②「ドンコー村の暮らし」を聞きながら、村の現状を把握し、課題を発見し、目標を考える。村人が必要とし､望んでいるかを検討する。 ③課題の解決方法を、グループで９つぐらい作成し、カードにする。 ④９枚のカードを読んで、ラオスの農村課題を解決するために効果的なプロジェクトを、１～９まで順位をつける。 ⑤順位づけの結果を、ダイヤモンドの形になるように並べる。 ⑥各グループの結果を発表する。グループ間で討議する。 ⑦どのように分類できるか、検討する。ウェビングにする。 ⑧ランキングの議論ののち、自分たちの住む地域の課題とその解決への変化を考える。開発が途上国だけの問題ではないことを理解し、問題構造を、身近な問題として把握する。	・スライドを用いて、農村の生活から、どのような課題が取り出せるか、に留意する。 ・取り出した課題から、解決方法を考え、付箋にアイデアを出す。 ・カードを作りながら、不十分な場合は、例示したカードを用いることにする。 ・ダイヤモンドの優先順位については、説明する。 ・相互に結果を発表しあう。 ・どのような相関関係があるか、カード同士の内容を構造化する。 ・ワークショップを行いながら、気付いたことについて、相互に感想を述べ合う。	・プレゼンテーション ・付箋 ・カード ・ダイヤモンドランキングのシート
まとめ （5 分）	本時の感想を述べ合い、感想をワークシートに記入する。		

【授業実践の様子】

ラオスすごろくを４人組で実施している。順番に問いに対する自分の考えを述べていく。
明確な正解はなく、グループのメンバーも自分の意見を述べたりして、互いに考えを共有した。

カードを用いて、ダイヤモンドランキングの方法で、国際協力や開発について考えを共有している。優先順位や必要なことについて議論が定まらず、悩みに悩んでいて、なかなか結論が出ない。

　希望者が参加する自主セミナーの様子。セミナーでは、主に次のことについて考えた。
「『開発途上国が下で、先進国が上だ』のようなステレオタイプにみていないか、途上国での開発は『先進国が支援してあげる』ものだとみていないか、これらを私たちは問い直してみる必要があります。実際、経済成長のステージに乗って、世界は同じ方向に豊かになりたがっているものだと思っていたことは、大きな間違いでした。この価値観によると、人々を同じ方向性に導くこと、

それが正しい開発ということになってしまいます。ところが、ラオスの人々は、そんなことを望んではいないことがわかりました。もちろん、望んでいる人もいますし、少なくとも政府は、それを望んでいるようです。しかし、『できるだけゆっくりと、今の満足を維持できるようにすること』、この価値観を踏まえた関係を築く必要があると感じました。わたしは、日本が空港や橋を作ったりして、ラオスが日本から学んできたという誤解もしてきましたが、それはほんとうに誤った理解です。日本が、ラオスから学ぶことがたくさんあります。わたしは自分がしていることを、もっと振り返らなければなりません」

【6】本時の振り返り

生徒は、農村課題を見つけようとプレゼンテーションを聞きながら、メモを取ったり、自分の考えを出そうとしたりしていた。グループでの話し合いでも、各自が一人残らず自分の考えを出していた。情報が十分ではなく、必要な情報がないという生徒の指摘もあった。指摘に対して、実際に情報がない中で課題解決に取り組まなければならない状況にあることを説明し、国際協力の難しさを感じていた。次時のダイヤモンドランキングにおいても、何を優先すべきかがグループの中でまとまらず、時間内に結論を出せないほど悩んでいた。学習後、国際協力の難しさや今までの考えの変化を感想に書いており、当初の学習のねらいをほぼ達成できたものと思う。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

＜授業の感想＞

日本や生徒自身とラオスとの違いが明確になったことが挙げられる。また、国際協力を通して課題解決につなげようとする際に生じる困難さに気付いていることが挙げられる。総じて、ラオスの人々の暮らしについて、関心が高まっている。

・私にはしっかり浄化された水がでてくるところがあったり、ちゃんとしたサッカーゴールがあったりと、それが当たり前だと思っていました。けどラオスの人々はそんなものがなくても、皆生活が楽しそうだと思いました。私はもしラオスに住むとしたら、日本との違いがありすぎてなかなか住むのは難しいと思います。けど道具や水などだけで生活が良いとか悪いとか判断してはいけないなと感じました。

・ドンコー村では、産業発展はなくともある種の理想的な暮らしが実現しているように思いました。安全な生活とこの暮らしの両方が成立するためには、国際理解がとても重要な気がします。国際的に見たときに、産業発展を必要としない暮らしがあるということは、何か影響を及ぼすのかどうか疑問に思いました。

・今日の授業でラオスは他の国の支援を受けて今、発達しようとしていることがわかった。けれども、まだ衛生面では特に水がきれいなのかという問題があると思うし、もっと水道などをしっかり整備できたら寿命も伸びていくと思う。

・ラオスという国を知っていても、どんな国かということは知らなかったので、今回の授業で概要や情勢を知ることができました。しかし、データがないと具体的な課題発見は難しいと思いました。

＜セミナーの感想＞

・ラオスと日本では違うところがたくさんあり、日本と同じ１日を過ごしていても、ゆったりおおらかに暮らしているんだなと思いました。治安は日本に比べて良いとはいえないし、マナーやルールもあまりきちんと決まっていない気がして不思議に思いました。でも、型にはまらない生活を送っているように感じ、少しうらやましいように思いました。一人一人の国民の距離が近いのも日本から失われた豊かさだと思います。情報や新しい文明に囲まれ忙しい暮らしを送ることが真の豊かさであるのか考え直すいい機会になりました。

・途上国に開発支援することが、現地の人にとって良いことだと思っていたのは、先進国に住んでいる私たちの一方的な意見だったと分かりました。村を開発することで、人々の暮らしやつながりを失わせてしまうことになると分かりました。これから、このような問題を考えるときには、双方からのことを考えようと思いました。時間が長く感じる人とつながる生活も体験してみたいです。

・私も、日本のような先進国は貧困を救うために経済的・技術的な支援を行わないといけないというステレオタ

イプを持っていた。しかし、実際のところは、ラオスの人々は経済的には日本よりも貧しくても、精神的には日本よりも豊かな生活を送っている。先進国が過剰な支援を行ってしまうことでむしろ民主主義の思想が中途半端に入ってしまうことで今の国民性が変わってしまったり、国民の混乱を招いてしまうことになってしまうと思った。セミナーを受けたことで、日本と全く違う文化、生活、思想をもっているラオスの人々に、今までなかったリスペクトの思いが生じた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

SGH（スーパーグローバルハイスクール）で実践してきた総合的な探究の時間での課題研究では、主体的な態度で課題解決に取り組む姿を見ることができる。教科での授業は、その基礎となる態度を養ったり、関心を育てたりする場となる。今回の開発教育の手法による単元は、解決する地域の姿がより現実的であり、課題も実態に即したものであることから、教科で養う資質・能力を超えて、課題研究で養う学習活動に近いものが実現したように感じている。そのため、生徒はすごろくや村の課題解決に関する学習、ダイヤモンドランキングを通して、それぞれ真剣に取り組んでいたし、課題解決の難しさに直面する経験も貴重なものとなった。なにより、これまで途上国開発について、漠然とした意識を持っていたことや、安易に先進国の支援が生徒たちにできる解決方法だと思っていたことについて、意識変容が進んだことが最も大きな成果であったと感じている。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞

ラオスという国や開発教育に関する既有知識は、ほとんどないと言ってよく、国の位置や自然環境、社会、文化に関する知識は、ほとんどなかった。また、開発教育や国際協力についての知識や必要性については、生徒による差がある。すでに様々なグローバル活動に取り組んでいる生徒もあれば、ほとんど経験のない生徒もあった。

＜授業後＞

ラオスの特色である生活文化やメコン川の中州という自然環境、地域が置かれている医療や水道、学校といった課題について関心が高まっている。そのなかで、課題を自ら発見しようとして、解決方法の難しさに直面しながらも、意欲的にさらに追究しようとする姿勢がみられる。

【8】自己評価

1．苦労した点

派遣前に行った1時間目の授業では、資料を用いて素朴な疑問を出し合うことのできる雰囲気であった。派遣後は、簡単な動画を用いて、旅行の様子を知らせたり、事前に出てきた疑問への答えを報告したりした。その後の授業づくりにあたっては、当初検討していた水の課題を教材化することもできたが、大幅に計画を変更した。その背景に、派遣の間に入手した膨大な教材（動画、写真、実物教材、聞き取り内容等）があり、なるべく多くを活かすことができないかと考えたことがある。この点が最も苦労したことであり、大量の情報を処理する能力や技能が、試された点に苦労した。

2．改善点

・　再度実施するに当たり、単元で扱う学習量がかなり多いので、多くの時間数を要する点は要注意である。短縮版も可能なので、柔軟に時間数を変えることはできるが、その汎用性は改善点である。
・　農村の課題と、ダイヤモンドランキングで扱うカードの内容に飛躍がある点。大きな視点から開発を考えることになり、地元の人々の視点から、日本の国際協力に携わる視点へと大転換を強いることになっている。その対比から、自分を振り返ることもできるが、感情の面で追いつかなくなるため、転換の場面での上手な配慮が必要だと思う。

3. 成果が出た点

苦労して考えた単元であるだけあって、想定していた以上に生徒が素材に向き合ってくれた。SGHで取り組む課題研究でも直面する困難な課題解決事例には、向き合う場面が限られる。今回取り組んだ課題は、類似する構造をもつ課題が相当にあると考えられ、新たに取り組んだり、さらに深掘りしたりする生徒が現れることが期待できる。今後も、継続して取り組みたい。

【参考資料】

＜書籍＞

・2018年度　JICA中国 教師海外研修 授業実践報告書（スリランカ）

・「開発教育実践ハンドブック　参加型学習で世界を感じる」（特定非営利活動法人開発教育協会・2012）

授業実践報告

特別支援学校編

世界を知るっておもしろい！

氏　　名：大久保　幾代
担当教科：全教科
時 間 数：11時間
学 校 名：徳島県立国府支援学校
実践教科：生活単元学習、日常生活の指導
対象学年：高等部２年２組
人　　数：６名

【1】単元のテーマ・目標

・ラオスの生活文化等を知ることにより、諸外国に興味・関心を持つことができる。
・互いの国の共通点や相違点に気付き、外国の文化や人々をよく知ることの楽しさや大切さに気付くことができる。
・互いの違いを認め、相手を大切にするとともに、コミュニケーションを図ることの大切さに気付くことができる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国について興味・関心を持つことができる。
(イ) 思考・判断・表現	相互理解にはコミュニケーションが大切だということに気付くことができる。
(ウ) 技能	ラオスの食文化に興味を持ち、調理に取り組むことができる。
(エ) 知識・理解	日本と他国の共通点や相違点に気付くことができる。 ラオスの文化や生活様式について理解することができる。

【3】単元設定の理由

＜生徒観＞
本学級は、障がいの種別や認知発達の程度が様々な6名の生徒で編成されている。本校在籍年数は生徒によって様々で、男子1名は、今年度7月に転入してきたばかりである。転入生は少しずつ本校での生活に慣れ、友だちや教師と楽しく活動することができている。この単元への意欲も高く、転入生が加わったことで学習にもよい雰囲気が生まれている。
本学級は明るく、笑いの絶えないクラスである。しかし、感情のコントロールが難しかったり、自分の意思や気持ちを伝えること、相手の気持ちや場の状況を読み取ることが苦手だったりする生徒が多い。日常の些細なことで他学級または他学年の友だちとトラブルになることもあるが、落ち着いて話をすると自分の悪かった点や今後どうすればよいかを理解することができている。
世界の国々に対する関心はあまり高いとは言えず、クラスでは1名だけ家族と海外旅行に行った経験がある。他の生徒は、テレビを見て他国について知ったことを時折話す程度であるが、ラグビーワールドカップの開催や、東京オリンピックの開催が目前に迫っていることから、少しずつ他国に関心を向けつつある。

＜教材観＞
本単元は、外国の文化や生活の様子に興味や関心を持つとともに、互いの国の違いに気付き、相手を理解するためにはよく知り、コミュニケーションをとることが大切であると気付くことをねらいとしている。ラオスでの実体験をもとに授業を展開する中で、生徒の視点を世界へと向け、興味・関心の幅を広げる。本単元を通して、国際理解にはまず相手［他国］を知ること、違いに気付いて受け入れる［認める］ことの大切さを知り、世界を

知るっておもしろい、楽しい、と思う気持ちを育てたい。そして、ラオスから学んだことを日常生活に活かし、周りの人とコミュニケーションを図りながら、よりよく生活していこうとする態度を養いたいと考えている。

＜指導観＞

指導にあたっては、次の点に留意する。

・PowerPoint資料に写真を多く取り入れたり、実物を見せたり等、視覚教材を活用して見たり触ったりする時間を多く取り入れるようにする。

・ラオスの学生と交流したことや現地の方（ホームステイ先、視察先、ガイドさん等）との話を伝える中で、日本との共通点や相違点に気付くことができるようにする。

・自分が知らないことを知ろうとすることや、相手をよく知るためにコミュニケーションを図ることの大切さに気付き、それを自分の身近な生活に置き換えて考えられるようにする。

・食文化の紹介や調理の時間を設定することで、授業への意欲を高められるようにする。

【4】展開計画（全11時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 2	「世界の国について知ろう！」 ・ラオスについて知ることで、外国に興味・関心を持つことができる （領域・教科を合わせた指導：生活単元学習）	○テレビに映し出したPowerPoint資料を見て、ラオスについて知る ○ラオスクイズに答える ・世界地図上での位置、日本からの距離 ・国旗 ・言語（挨拶の言葉、数の数え方） ・ラオスの人々の生活（食文化、お金、民族衣装など） ・宗教 ・振り返りシートを記入する（感想、もっと知りたいと思ったこと）	・PowerPoint資料 ・世界地図 ・振り返りシート ・シン(腰巻きスカート)
3 4	・絵本を通して、世界の子どもたちの生活に興味・関心を持つことができる ・日本と同じところや違うところに気付くことができる ・気付いたことを発表することができる （領域・教科を合わせた指導：日常生活の指導　生活単元学習）	○絵本『すごいね！みんなの通学路』の読み聞かせを聞く ・気付いたことを発表したり、質問したりする ・読み聞かせを聞いて、振り返りシートを記入する（感想、もっと知りたいと思ったこと） ○絵本『はがぬけたらどうするの？』 ・絵本内の世界地図を見て、抜けた歯をどうするのか、知りたい国をリクエストする ・日本と風習が似ている国や地域、全く違う国や地域があることに気付く	・絵本 ・振り返りシート ・世界地図
5 6	「ラオスの学生と交流したよ」 ・ラオスの文化に興味・関心を持ったり、学生の考え方や夢について知ったりすることができる ・自分たちと同じところや違うところに気付くことができる ・外国の人と仲良くなるための方法を考えることができる （領域・教科を合わせた指導：生活単元学習）	○ LJI（ラオス - 日本センター）における、日本語学習者との交流の様子をPowerPoint資料で見る ・ラオスの学生が興味を持っていることを知る ・質問に対するラオスの学生の回答から、自分たちとの共通点や相違点に気付く（将来の夢、幸福度など） ・休憩時間にいただいた、ラオスのおやつ（ミニ肉まん・ナムワーン）について知る ・振り返りシートを記入する（感想、もっと知りたいと思ったこと） ○『きつねとやぎ』（ラオス語と英語の絵本）の読み聞かせを聞く	・PowerPoint資料 ・世界地図 ・ラオス語の絵本『きつねとやぎ』 ・振り返りシート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7 8	「ラオスの食文化を知ろう」 ・ラオスの食文化に興味・関心を持つことができる ・気付いたことを発表することができる （領域・教科を合わせた指導：生活単元学習）	○これまでの学習の振り返りシートから、クラスの生徒がラオスや外国について興味を持っている内容を知る ・食文化への興味・関心が高い （食べてみたい） ○ PowerPoint 資料を見て、ラオスの食文化について知る ・ティップカオ（カオニャオを入れる竹で編んだ入れ物）の使い方 ・日本との食文化の違い ・ラオスの食文化と似ている国があることに気付く ・振り返りシートを記入する（感想、もっと知りたいと思ったこと）	・PowerPoint 資料 ・ティップカオ ・『旅の指さし会話帳 ラオス編』 ・振り返りシート
9	「ナムワーンの作り方を学習しよう」 ・調理に必要な材料や調理器具を考えることができる ・友だちと相談して、調理の役割を決めることができる （領域・教科を合わせた指導：日常生活の指導）	○ナムワーン作りの計画を立てる ・調理に必要な材料、調理器具を考える ・作り方の手順について学習する ・ワークシートに記入する ・材料（ココナッツミルク、タピオカ、かぼちゃ） ・調理グループごとに、調理の役割分担について相談して決める	・ワークシート
10 本時	「ナムワーンを作ろう！」 ・ラオス人のガイドや通訳の方の温かさを知る ・ラオスのデザート作りに興味を持って取り組み、試食することができる ・友だちと協力して調理に取り組むことができる ・他国に対する興味・関心を広げることができる （領域・教科を合わせた指導：生活単元学習）	○ PowerPoint 資料を見て、材料購入のために力を貸してくれた、ラオス人のガイドの方の優しさを知る ○ナムワーンを作ろう ・作り方の復習と役割の確認 ・調理の準備 ・調理 ・試食 ・感想を振り返りシートに記入し、発表する ・片付け	・PowerPoint 資料 【資料 1】 ・印刷した資料 ・ナムワーン作りの材料、調理器具 ・手順書 ・振り返りシート
11	「ラオスで国際協力の仕事に携わる日本人たち」 ・国際協力の仕事について知る ・様々な違いを認め、共に幸せに暮らすために大切なことを考えることができる ・インタビュー動画を見て思ったことを発表することができる （領域・教科を合わせた指導：生活単元学習）	○国際協力とは何か、ラオスで国際協力の仕事に携わっている日本人たちがいることを知る ・JICA とは ・ラオスでの視察先の様子、そこで活動する日本人 ○現地で働く日本人のインタビュー動画を見る ・現地で働くために必要な力 ・これから自分はどのようなことを心がけて生活していきたいか考える	・PowerPoint 資料 ・動画 ・世界地図 ・水道公社で用意してくれたペットボトルの水

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （3 分）	1　始まりのあいさつをする ・通常のあいさつの後、ラオス語であいさつをする 「サバイディー！」	1　日直に言葉かけをする ・これからの授業への期待感が高まるようにする	
	2　今日のめあてと学習内容を知る	2　今日のめあてと学習内容を記入したホワイトボードを見せて確認した後、黒板に掲示する	・ホワイトボード
	3　パワーポイント資料を見る ・振り返りシートから、友だちの感想を知る ・ナムワーン作りの材料購入を助けてくれた人について知る	3　これまでの学習を思い出せるように、印刷した写真資料も掲示する ・ラオス人ガイドさんの優しさ、親切さを伝える ・自分だったら、外国の人に親切にできるか、考えられるようにする	・PowerPoint 資料 ・印刷した資料
展開 （32分）	4　ナムワーンの作り方を復習する ・手順、役割分担	4　簡単に作り方を復習し、グループごとに決めた役割分担を確認できるようにする	・手順書 ・ナムワーン作りの材料、調理器具
	○調理の準備をする ・手洗い、消毒をする ・エプロン・バンダナを身に付ける	○全員の机を合わせて、調理の準備を始めるよう言葉かけをする ・黒板近くの長机に、材料と調理器具を並べる	
	○調理を行う ・タピオカの解凍とあたため ・煮たカボチャのあたため ・ココナッツミルク作り ・混ぜ合わせて紙コップにつぎ分ける	○生徒同士で協力して調理に取り組めるよう見守り、必要に応じて言葉かけを行う	
	○試食する	○生徒の表情を見ながら、ナムワーンの味についての感想を尋ねる	
まとめ （5 分）	5　振り返りシートを書く	5　本時の授業を通して、またはナムワーン作りについての振り返りが書けるように言葉かけをする	・振り返りシート
	6　終わりのあいさつをする （※片付けは休み時間に行う）	6　日直に言葉かけをする	

【授業実践の様子】

授業の導入部分の様子

ナムワーン作り

【6】本時の振返り

本学級の生徒にとって、調理実習や校外学習での外食は最も関心の高い活動のうちの一つである。本時のナムワーン作りは生徒全員楽しみにしており、学習意欲も高かった。その点において、授業実践後半に調理を設定したことはよかった。

調理は、使用した電子レンジのワット数の都合で温めに時間がかかり、調理時間が大幅に長くなってしまった。最初から本時を２時間の設定で実施していた方が生徒の反応や発言に細かな対応ができ、さらに授業を生徒と一緒に楽しむことができたのではないかと思うことが反省点である。しかし、作り方自体は簡単で、役割分担を決めていたことや手順書を準備していたことにより、生徒同士でコミュニケーションをとりながら活動に取り組むことができていた。味の好き嫌いはあったものの、最初から苦手意識を持つことなく、全員がラオスのデザート作りに興味をもって取り組み、試食できたことは異文化理解の観点からみてねらいを達成することができたと言える。

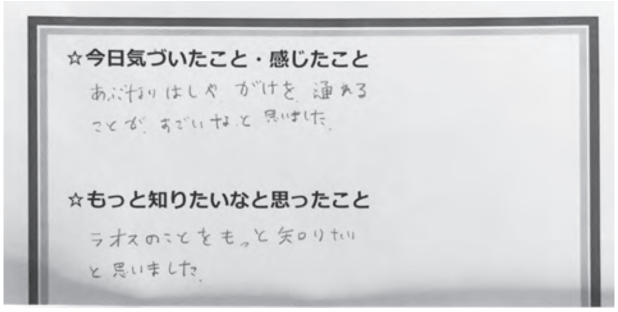
本時は、ただ調理を行って試食することが目的ではなく、ナムワーン作りの材料購入を助けてくれたラオス人ガイドさんとのエピソードを伝え、様々な違いをもつ相手［国、生活習慣等］を知ろうとすることの大切さ、コミュニケーションをとって理解し合うことの大切さに気付くことをねらいとして実践した。授業後の振り返りシートに、ラオスの人のやさしさについて記入した生徒がいたことから、少しでも授業を通して伝わるものがあったのだとうれしく思った。生徒自身が、学んだことを日常生活に結びつけて行動できるかについては、生徒と共に学びながら今後の様子を見ていきたいと思う。

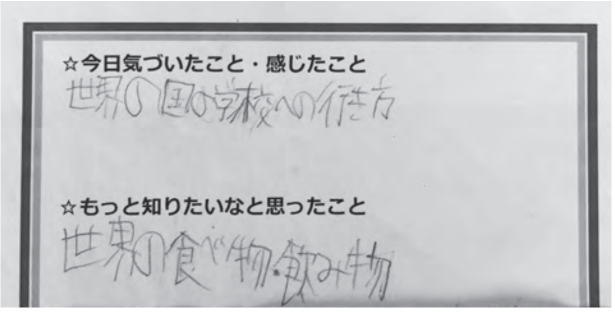
【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

＜振り返りシートより＞

○第3時　絵本『すごいね！みんなの通学路』 読み聞かせ

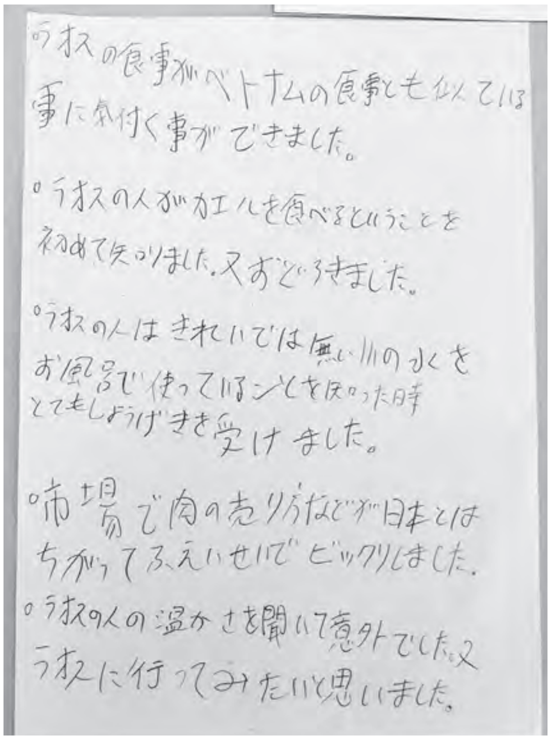
大変興味・関心を持って写真絵本を見ることができた。あまりにも自分たちと違う通学路の様子に驚きの表情を示したり声を上げたりする生徒、質問したいことがあふれてくる生徒など様々であった。後で、掲示していた世界地図で気になった国の位置を確認する場面も見られた。

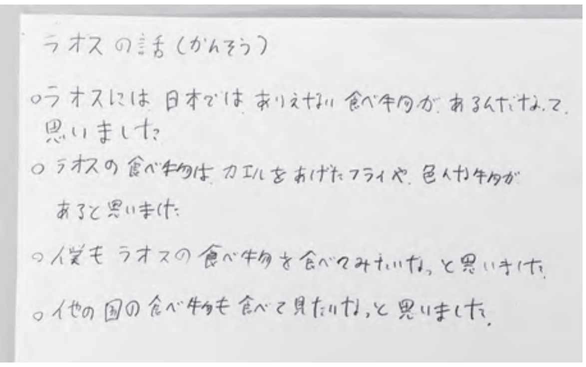

☆今日気づいたこと・感じたこと
あぶないはしや がけを 通れることで、すごいなと思いました。
☆もっと知りたいなと思ったこと
ラオスのことをもっと知りたいと思いました。

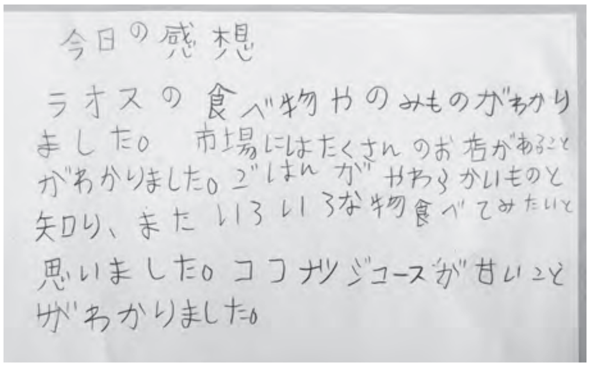

☆今日気づいたこと・感じたこと
世界の国の学校への行き方
☆もっと知りたいなと思ったこと
世界の食べ物・飲み物

○第7・8時　「ラオスの食文化を知ろう」

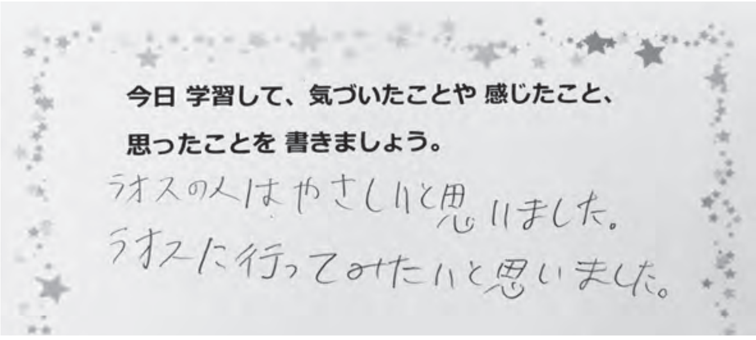
初めて知るラオスの食文化に大変興味を示し、様々な感想や意見が活発に飛び交った。「ベトナムにもあった！」「テレビで見たことある！」などラオス近隣諸国との共通点に気付いたり、日本と似ている点や違いなどに気付いて発表したりする生徒もいた。また、カオニャオを入れるティップカオを実際に見せると、おもしろそうに何回もふたを開けたり閉めたりする生徒もいた。


ラオスの食事がベトナムの食事とも似ている事に気付く事ができました。
・ラオスの人がカエルを食べるということを初めて知りました。又おどろきました。
・ラオスの人はきれいでは無い川の水をお風呂で使っていることを知った時とてもしょうげきを受けました。
市場で肉の売り方などが日本とはちがってふえいせいでビックリしました。
・ラオスの人の温かさを聞いて意外でした。又ラオスに行ってみたいと思いました。


ラオスの話（かんそう）
・ラオスには日本ではありえない食べ物があるんだなって思いました。
・ラオスの食べ物はカエルをあげたフライや、色んな食物があると思いました。
・僕もラオスの食べ物を食べてみたいなと思いました。
・他の国の食べ物も食べて見たいなと思いました。


今日の感想
ラオスの食べ物やのみものがわかりました。市場にはたくさんのお店があることがわかりました。ごはんがやわらかいものと知り、またいろいろな物食べてみたいと思いました。ココナツジュースが甘いことがわかりました。

○第10時（本時）　「ナムワーンを作ろう！」


今日 学習して、気づいたことや 感じたこと、
思ったことを 書きましょう。
ラオスの人はやさしいと思いました。
ラオスに行ってみたいと思いました。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

・「サバイディー」（ラオス語でこんにちは）を挨拶の言葉としてよく使うようになった。
・「○○ってラオス語でなんて言うんだろ？」と『旅の指さし会話帳ラオス編』を開き、いろいろな言葉を調べるようになった。
・ラオス語の絵本『きつねとやぎ』の裏表紙に載っている絵本のシリーズを見て、「次はこれを読んでみたい」という声が聞かれた。
・カレンダーに書かれたラオス語を見て「これなんて読むんですか？」と質問することがあった。
・外国の食文化について興味を持つようになった。（「ラオスの肉まんも作ってみたい」「カエルってどんな味がするの？」）
・「ラオスの授業は、今度いつあるんですか？」「おもしろいからまたやりたい」という声が聞かれた。

【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞
・外国の文化や生活の様子についての興味・関心はあまりみられなかった。
・テレビ番組で「世界の果てまでイッテＱ！」で見た国の話をすることがあった。
・ラグビーワールドカップについてのニュースをテレビで見て、出場国について話をすることがあった。

＜授業後＞
・「ハロー」「ニーハオ」など、知っている外国の挨拶の言葉を言うようになった。
・教室に掲示してある世界地図をよく見たり、外国の名前聞いて世界地図で探そうとする姿が見られたりと、少しずつ外国の文化や人々の生活の様子に関心を向けるようになった。
・「これってラオスの○○と似てる」などと、世界の国との共通点に気付くことができるようになった。

【8】自己評価

1．苦労した点
　生徒の障がい特性や発達段階を踏まえた単元の構成や内容の精選に苦労した。ラオスという国についての知識の伝達ではなく、そこから何を教えるのかということ、ねらいを常に意識した授業作りや発問の仕方等に留意しながら取り組んだ。

2．改善点
　持続可能な開発目標（SDGs）についても取り上げ、生徒の身近な生活に結びつけながら、持続可能な社会や発展について考える授業も展開したいと考えたが、今回の単元に含めることは難しかった。国際理解教育のアイディアやリソースの活用についての知識の必要性を感じた。
　教材教具の改善点として、ゲーム形式で食文化についての授業を行ったり、SDGsについて考えたりするような授業が実践できれば、さらに生徒の主体性を引き出すことができたのではないかと思う。
　担任している学級での実践だけでなく、可能な限り学年や他の学級でも授業実践を行うようにする。

3．成果が出た点
　授業実践を重ねるごとに生徒が世界の国々に興味・関心を持ち、文化や生活の違いを楽しんだり理解しようとしたりする態度が見られたことが挙げられる。他の学習においても「やったことないけどやってみよう」と挑戦する姿勢が見られ、「やってみたらできた・おもしろかった」という感想が聞かれるようになった。生徒達の視点が広がりつつあることが大きな成果と言える。

また、年度も後半に入り、生徒間・生徒と教師間の絆も深まりつつある時期であったことも相まって、互いの個性（違い）を認め、温かい言葉でコミュニケーションをとりながら協力できる場面が増えてきた。

４．備考

今回教師海外研修に参加し、帰国後の授業実践を行う中で、特別支援学校において国際教育・開発教育を行うことの楽しさやおもしろさ、そして新たな可能性を感じることができた。自分がこれまで考えたことのない視点からの授業は苦労もあったが、生徒や他の教師の反応から新たな気付きを得ることが多く、授業作りの楽しさを味わうことができた。また、この経験を広く他の教師に伝え、国際教育・開発教育を推進していくことの大切さも感じた。これも同じ分野に興味をもち、10日間の研修を共にした学びの仲間がいたからこそであると、出逢えた幸せを感じている。この機会を与えてくださった上野校長先生やJICA職員の方々に深く感謝している。

【参考資料】

＜書籍＞
・「すごいね！みんなの通学路」ローズマリー・マカーニー/文　西田佳子/訳
・ラオス語絵本「きつねとやぎ」
・2018年度JICA中国　教師海外研修　授業実践報告書　ースリランカー

＜Webサイト＞
・ユニバーサルデザイン2020行動計画　ー心のバリアフリーについてー　ユニバーサルデザイン関係閣僚会議

【資料1】本時使用スライド「ナムワーンを作ろう！」

ナムワーンを
作ろう！

どんな味かな？
Lao Sweets

ナムワーンを知ったのは…

ラオス-日本センターで
日本語を学んでいる学生と
交流したときだった

ラオス滞在中に、先生はひらめいた！

ナムワーンなら
日本でも 作れるかも！？
ぜひ、２組の みんなにも
食べてもらいたい！

**そこで、材料をマーケットで
探してみたけれど…**

**ないっ！！
どこに 売ってるのか
分からない！**

そんなとき、頼りになった人は…

**先生たちに 同行してくれた
ラオス人 ガイドの
ソンバットさん**

**一緒に さがしてくれたました
そして、やっと 買えました！**

タピオカ

ココナッツミルクパウダー

ラオスの人は とても 親切でした

**ラオスの 食べ物を ２組の みんなにも
食べてもらいたいと 思った
もう一つの 理由は…**

「よく知る」って大切

**思いこみで 決めつけちゃ
いけない**

ナムワーンの
作り方～ふくしゅう～

<タピオカ>

①電子レンジで 戻した タピオカを 温める

②ざるに あげて 煮汁を きる

<ココナッツミルク作り>

①ココナッツミルクパウダーを ボウルに 入れる

②計量カップで お湯を 入れる

③泡立て器で 軽く 混ぜる

<かぼちゃ>

①電子レンジで かぼちゃを 温める

タピオカと カボチャを
ボウルに 入れて
混ぜ合わせたら…

ナムワーンの
できあがり!!

独立行政法人 国際協力機構
中国センター（JICA中国）
〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL 082-421-6305　FAX 082-420-8082
https://www.jica.go.jp/chugoku/

独立行政法人 国際協力機構
四国センター（JICA四国）
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
TEL 087-821-8824　FAX 087-822-8870
https://www.jica.go.jp/shikoku/